

# 教育は いま

第 12 号

- ◆指導計画改善のために「授業の振り返り」を取り入れた授業評価の考え方と進め方

第 1 年次

小・中学校における学級活動と総合的な学習の時間の実践を通して

仙台市教育センター

## はじめに

平成5年度の開所以来、当センターの四大事業の一角を占める調査研究事業につきましては、一貫して仙台市教育委員会の基本方針・重点施策に基づき、主として今日的教育課題にかかわるテーマを選び、仙台市立学校における教育活動の改善に具体的に役立つための研究に取り組んでおります。

今年度も、教育研究紀要Ⅰ『教育は　いま』第12号として発刊することができました。教育現場において、ご活用いただきたいと存じます。また、各教育関係機関においても、諸事業推進の資料にご活用くだされば幸いです。

今年度は、教育経営調査研究に取り組み、本市小・中学校の創意工夫に満ちた多様な教育課程の編成に資することを目的に、指導計画改善のために「授業の振り返り」を取り入れた授業評価を通しての考え方と進め方の実際を探りました。小・中学校の学級活動と総合的な学習の時間の授業づくりと実践を基に、複数の参観者による「授業の振り返り」を取り入れた授業評価と、授業者個人による授業評価を実施しました。授業者は、授業中の子どもに対する働き掛けの事実を基に、指導計画に込めた願いやねらいと、子どもの実際の反応とのずれに気付き、指導計画の改善に取り組むことができました。

また、今年度も、情報教育研究推進委員会による「確かな学力と豊かな心をはぐくむ情報教育の推進」に関する研究にも取り組みました。『教育研究紀要Ⅱ』として発刊いたしますので、教育研究紀要Ⅰ『教育は　いま』と併せてご活用ください。研究の成果を広く活用していただき、教育研究・実践にお役立てくだされば幸いです。

さらに、今年度も、教育経営調査研究の発表を当センターから全国の都道府県及び政令指定都市の教育研究所等に、衛星通信（エルネット）により配信し、広くご指導を賜る機会をもつことができました。これを励みに、研究の更なる充実を図ってまいりたいと考えております。

最後に、今年度の教育経営調査研究事業にご協力をいただきました兵庫教育大学大学院学校教育研究科　佐藤真先生、慶應義塾大学教育課程センター　鹿毛雅治先生はじめ、委嘱研究員の先生方、そして本事業にご支援くださった多くの方々に、心から感謝申しあげます。

平成17年3月

仙台市教育センター

所長 鈴木 清和

## 自己改革を目指す仙台市の教師サポートプロジェクトⅣ

# 指導計画改善のために「授業の振り返り」を取り入れた授業評価の考え方と進め方

## 第1年次

### 小・中学校における学級活動と総合的な学習の時間の実践を通して

#### ■要 約

本研究は、本市小・中学校の創意工夫に満ちた多様な教育課程の編成に資することを目的に、指導計画改善のために「授業の振り返り」を取り入れた授業評価の考え方と進め方の実際を探るものである。

小・中学校の学級活動と総合的な学習の時間の実践を通して、複数の参観者による「授業の振り返り」を取り入れた授業評価と、授業者個人による授業評価を実施した。授業者の授業中の子どもに対する働き掛けの事実を基に、指導計画に込めた願いやねらいと、子どもの実際の反応とのずれに気付き、指導計画の改善に取り組むことができた。

#### ■キーワード

□教育経営 □指導計画 □授業の振り返り □授業評価

## 目 次

### はじめに

第Ⅰ章 わたしたちが目指したこと ..... 5

1 主題設定の理由

2 研究の基本的な考え方

3 研究の目的

4 研究の構想図

第Ⅱ章 授業評価とカリキュラム評価の連関性 ..... 8

兵庫教育大学大学院学校教育研究科 助教授 佐藤 真

第Ⅲ章 指導計画作成から指導計画改善の実践 ..... 15

1 よりよい授業をつくるサイクル ..... 15

2 授業記録と「授業の振り返り」 ..... 16

3 学級活動

(1) 小学校5年

仙台市立東六番丁小学校 教諭 熊谷 裕行 ..... 17

(2) 中学校2年

仙台市立東仙台中学校 教諭 前田 政夫 ..... 43

4 総合的な学習の時間

(1) 小学校6年

仙台市立芦口小学校 教諭 鈴木美佐緒 ..... 63

(2) 中学校1年

仙台市立高砂中学校 教諭 又木 潤 ..... 83

第Ⅳ章 授業改善に生きる「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会

1 小学校5年体育（保健領域） 長期研修員 目黒 悟 ..... 100

2 中学校2年数学 長期研修員 登嶋 紀行 ..... 110

第Ⅴ章 まとめ ..... 120

おわりに じぶんごとの教育のために！ ..... 122

仙台市教育センター教育経営調査研究委員会委員長

仙台市立松陵西小学校 校長 菊地 修治

## 第Ⅰ章

# わたしたちが目指したこと

### 1 主題設定の理由

#### (1) 求められる特色ある教育の展開

現行の学習指導要領のねらいは、完全学校週5日制の下、各学校が特色ある教育を展開し、子どもたちに学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせ、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむことにある。学習指導要領解説の総則編には、特色ある教育活動の展開は、授業時数の運用の弾力化、目標や内容のまとめ方などの大綱化によって改善を図る、とされている。

教育課程の基準の大綱化・弾力化は、各学校の自律性の確立と教職員の専門性の向上を図ることによって具現化できると考える。

#### (2) 教育課程と指導計画

教育課程は、各教科等について、それらの目標やねらいを実現するように、教育内容を学年段階に応じて、授業時数との関連で総合的に組織した各学校の教育計画である。そして、それを具体化した計画が指導計画である。

指導計画は、各教科等について、学年または学級ごとに、指導のねらい、指導内容、指導内容の順序、使用する教材、指導方法、指導の時間配当などを定めた具体的な計画である。また、その形態も、年間指導計画や2年間にわたる長期のものから、学期ごと、月ごと、週ごと、単位時間ごと、あるいは単元、題材、主題ごとの指導案に至るまで各種のものがある。

本研究における指導計画とは、学級活動では、事前・本時・事後の学級ごとの学習活動計画を指し、総合的な学習の時間においては、学年ごとの単元指導計画を指すものである。

#### (3) 教職員のカリキュラム・マネジメントと、その具現化のための指導計画作成に関する能力

各学校の自律性の確立と教職員の専門性の向上を目的に、教育制度や枠組みの転換を伴って、特色ある教育活動が展開しつつある。今正に、学校に求められているのは、特色ある教育課程の編成とその具現化のための指導計画の作成である。

各学校における創意工夫に満ちた教育課程の編成と、その具現化のための指導計画の作成が求められている現在、各学校の教職員のカリキュラム・マネジメントに関する能力の向上に資するよう、指導計画の作成・実施・評価・修正に関する実践的な研究に取り組むことが喫緊の課題であると考える。

#### (4) 指導計画の作成者、実践者、評価者である授業者

授業者は、自らが作成した指導計画を自らの教育技術を駆使し、指導計画を展開する。授業者は、指導計画の作成者であり実践者でもある。また、授業のねらいに即して、作成・展開した指導計画の効果や改善すべき点を吟味し、評価しなければならない評価者でもある。

授業者は、指導力の向上に努めるとともに、指導計画の作成者であり、評価者でもあるという自覚をもち、指導計画の作成・実施・評価・修正に責任をもって取り組む必要がある。

#### (5) 指導計画の改善

これまで、指導計画の評価は、多くの学校においては、学期末や学年末に、学校評価の一部

として、校内の教職員によるアンケート調査等によって定量的に行われてきた。

今後は、参観者が見取った子どもの学びの姿をもとに、授業者と語り合うことを通して授業評価をし、その評価を踏まえた指導計画の修正・改善に取り組みたい。また、指導計画の修正・改善に当たっては、授業者の願い、授業のねらい、子どもの実態、教材研究、教授方略、学習環境・条件等の授業の要素及び各要素相互の関連を踏まえ、具体的な子どもの姿として示すことが必要であると考える。

#### (6) 指導計画改善のために「授業の振り返り」

##### を取り入れた授業評価

授業者は、指導計画に、授業のねらい、子どもの望ましい変容に寄せる願いを込め、指導計画の作成に取り組む。そして、それらを実現するために授業を展開する。授業のねらい、子どもに対する願いは、授業の中で、子どもへの問い合わせ・指示・促しなど、授業者の様々な働き掛けとなって表出する。

指導計画を評価し、改善を図るためにには、まず、子どもに対する授業者の様々な働き掛けと子どもの反応とをたどり、授業中の事実を再構成することが必要である。指導計画に込められた授業のねらい、子どもに対する願いが授業を通して実現できたか否かを吟味する授業評価の場面を設定することが必要であると考える。自らの実践を評価するために、授業中の事実を丁寧に振り返っていく授業評価、いわゆる「授業の振り返り」を取り入れた授業評価に取り組んでいくことが必要であると考える。

教師自身が、子どもの学びの事実を踏まえた「授業の振り返り」を取り入れた授業評価を通して、よりよい授業づくりが志向され、さらには指導計画の改善が図られていくと考える。

## 2 研究の基本的な考え方

### (1) 「授業の振り返り」

授業者の子どもに寄せる願いや授業のねらいに即し、授業者と参観者が、授業を再構成しながら行う授業研究ととらえる。実施の方法は、子どもの具体的な学びの姿を見取り、学びを支える授業者と子どものかかわり合いの事実を解釈し合う。授業者の内面を整理することを通して行う授業研究とおさえる。

本研究では、複数の参観者による「授業の振り返り」と、授業者個人による「授業の振り返り」を実施する。

### (2) 参観者と支援者の役割

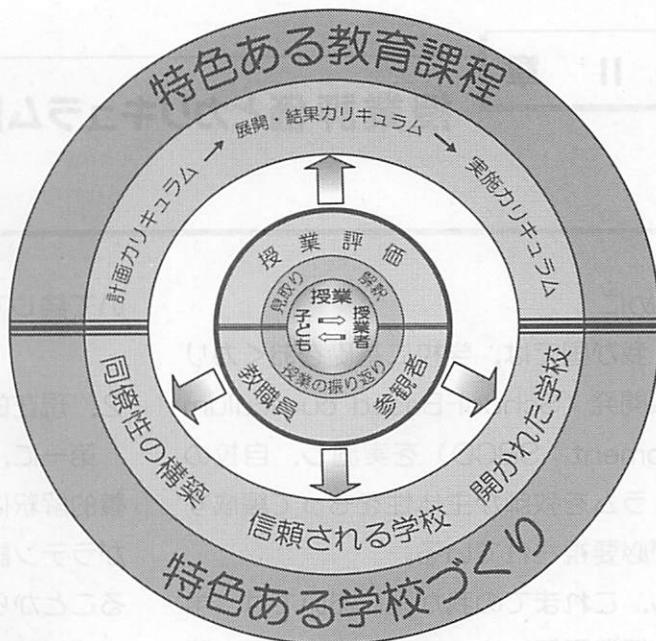
参観者は、授業者の子どもに寄せる願いや学習のねらいの設定、子どもの見取りや子どもへの働き掛けなどについて、授業者の内面に注目しながら記録をとる。「授業の振り返り」では、授業者の目や記憶を補い、授業中の出来事を事実として再現する。そして、授業者自らの授業の振り返りを支援する。

「授業の振り返り」を展開する場面では、参観者の中で、授業者と共に授業づくりを行ったり、授業で扱った指導内容に精通したりしている者が主たる支援者となる。指導過程に沿いながら子どもに対する授業者の働き掛けの事実をもとに、授業のねらいや子どもに寄せる願いを問い合わせ、授業者の内面的思考過程を明確にし、指導内容の構成や組立、学習形態、指導方法等に関する気付きを促していく。

## 3 研究の目的

各学校の創意工夫に満ちた多様な教育課程の編成に資するよう、指導計画改善のために「授業の振り返り」を取り入れた授業評価の考え方と進め方を探る。

## 研究の構想図



## 研究経過

期日	研究内容	会場
6月4日	委嘱状交付、研究計画立案	教育センター
6月29日	講義 佐藤 真 先生 兵庫教育大学 「授業評価とカリキュラムづくりの考え方」	
7月8日 ～13日	授業研究及び「授業の振り返り」を取り入れた授業評価 小学校5年 体育（保健領域） けがの防止 中学校2年 数学 一次関数	仙台市立松陵西小学校 仙台市立東仙台中学校 教育センター
7月27日	前回実践の分析、理論研究、報告書「教育はいま」の執筆分担	教育センター
8月31日	理論研究、指導案検討会、授業研究日の日程調整	教育センター
9月28日	理論研究、指導案検討会（修正した指導計画の検討）	教育センター
10月4日 ～	授業研究及び「授業の振り返り」を取り入れた授業評価 小学校6年 総合的な学習の時間 中学校1年 総合的な学習の時間 小学校5年 学級活動 小学校5年 体育（保健領域） 中学校2年 数学	仙台市立芦口小学校 仙台市立高砂中学校 仙台市立東六番丁小学校 仙台市立松陵西小学校 仙台市立東仙台中学校
11月4日	中学校2年 学級活動	仙台市立東仙台中学校
11月30日	理論研究、授業評価、報告書「教育はいま」の検討	教育センター
12月6日	講義 佐藤 真 先生 兵庫教育大学 「授業評価とカリキュラム評価の連関性」	
12月27日	報告書「教育はいま」の検討・作成	教育センター
1月13日	報告書「教育はいま」の作成	教育センター
1月31日 2月1日	授業研究、授業評価、講義 鹿毛 雅治 先生 慶應義塾大学 講義 「教師の学び合う場をどうつくるか～授業検討会の転換を～」	仙台市立松陵西小学校 教育センター
2月10日	研究推進協議会 パネルディスカッション「校内研究このまでよいのか」	教育センター
2月25日	調査研究委員会 研究発表	教育センター

**第 II 章****授業評価とカリキュラム評価の連関性****兵庫教育大学 佐藤 真****1. はじめに**

現在、我が国では、学校に基礎をおくカリキュラム開発 (School-Based curriculum Development : SBCD) を実施し、自校のカリキュラムを教師が主体性をもって編成することが必要視されている。

しかし、これまでの我が国においては、学習評価や授業評価に比べて、カリキュラム開発にとって不可欠なカリキュラム評価が、その理論及び実践の双方で試論にとどまる感が否めず、具体的な事実を理論化する必要性と実践における実証的検討が不足していたといえる。

各学校が創意工夫し、真に教育的意味を与えるカリキュラムを開発するためには、常にカリキュラム評価が必要であり、そのためには学習評価を基にした授業評価、そして授業評価の蓄積によるカリキュラム評価によって、児童一人一人の学びを長期的かつ継続的にとらえていくことが重要である。

特に、カリキュラム開発と授業改善の内部過程を明らかにした上で、開発されたカリキュラムとそこでの教材等の質的な評価を授業過程において行う事例研究の蓄積が肝要である。

したがって、本稿では、これまでのカリキュラム論や教育評価論を踏まえ、今後さらに我が国の学校教育現場に求められるであろう、学校に基礎をおくカリキュラム開発を実施するために必要な、教師が主体となる実践的な授業評価とカリキュラム評価との連関性につ

いて論じてみたい。

**2. 現在的なカリキュラム論と教育評価論**

第一に、カリキュラム (curriculum) は語義的解釈については諸説があるが、その語源がラテン語の *currere* (走る) に由来していることから、「走ること」から転じて「走路」や「学習する道筋」、そして「学習すること」や「学習経験そのもの」を示す概念として敷衍されてきたものである。その後、19世紀末のアメリカにおいては、教育行政の規定する教科課程の大綱をコース・オブ・スタディと呼び、カリキュラムは教育目標を達成するために学校において用意される経験の総体とされたのである。しかし、学習対象とその内容それ自身の獨自的意義を明らかにしようとするカリキュラム論では、カリキュラムとは組織的知識や知的技能及び情意的内容の複合物であるとされ、それが含意する内容や領域を指示する概念規定をとることが多いのである。

そして、今日では、学校教育の社会的機能の多様化と教育研究の進展に対応して、できるだけ広義のカリキュラム観をとるようになってきているのである。すなわち、かつて文部省が、経済協力開発機構 (OECD) の教育研究革新センター (Center for Educational Research and Innovation : CERI) と協力し昭和49年 (1974年) に東京で開催した「カリキュラム開発に関する国際セミナー」以来、教育現場では、カリキュラムを教育目

標・教育内容・教材・教授・学習活動及び評価の仕方までを含んだ広い概念として把握し、いわゆる顕在的カリキュラム (overt or manifest curriculum) と潜在的カリキュラム (hidden or latent curriculum) の両者を含めた、学習者に与えられる学習経験の総体としてとらえているとみると一般的である。

第二に、評価については、これまでの我が国の教育評価には大きな問題点が存在し、それが教育的状況を複雑化させ、混迷させていくと言わなければならないものである。すなわち、我が国の学校教育現場における評価は、その多くが児童の発達を援助するはずの評価活動が、逆に児童の発達を制限するものに転化してしまっているということである。それは、あまりにも教育の結果を見ることに性急であったために、教育の過程で児童がどれだけ変わりうるのかという関心よりも、教育の効果があったのかなかったのかということに強い関心が示され、その結果によって児童の一生が決まってしまうような錯覚に陥り、学歴社会を成立させることにもつながっているのである。

そもそも評価とは、目標追究一評価一調整という単位での目標追究活動における部分活動であって、追究活動の実績と目標との関係をチェックし、調整活動のためにフィードバック情報を提供するものである。そして、自己自身の追究を成功的にしようとして、目標を追究する者自らが行うものでなければならないものもある。すなわち、児童に対しては、目標達成度を見極める材料であったり、そこまでの励ましとなったり、自らの学習過程などを自己評価する能力を養えるような媒介物として考えられる必要性のあるものである。さらに、評価は、教師にとっては、すべ

ての児童に等しく学力を保障するために、自らの具体的な指導のあり方などを問う手段として考えられる必要性のあるものもある。

したがって、教育評価とは、流動的で連続的な教育活動の一面であり、評価した結果を指導に生かすという「指導と評価の一体化」が為されてこそ、児童の望ましい健全な成長・発達が可能になるものである。そして、このような教育評価が十全に行われるためには、現在では教育目的の設定、教育内容の編成、教育方法の活用、教育評価の実施という各々の教育過程が目的達成に向けて、それらが相互に作用し合うことが必要であるとされているのである。

### 3. カリキュラム開発における3つのモデル

前述した OECD の内部機関である CERI 加盟諸国の教育改革のための戦略として取り組まれてきた学校に基礎を置くカリキュラム開発(School-Based Curriculum Development) のカリキュラム開発モデルは、目標分析モデル、ゴール・フリーモデル、状況分析モデルという3つである。

すなわち、第一の目標分析モデルは、タイラー (Tyler,R.W.) やブルーム (Bloom,B.S.) によって代表されるカリキュラム開発論である。この立場に立てば、カリキュラム開発のプロセスは、①一般目標の設定、②特殊目標の設定、③行動的目標への変換、④教材の選択と組織化、⑤教授・学習の実施、⑥行動目標に照らした評価という一連の行動系列としてとらえられるものである。これは、近代産業の工学的手法に従ったものであることから、「工学的接近」と呼ばれることがある。また、我が国におけるカリキュラム研究や授業研究にも、1970年代から1980年代にかけて、この時期の学力低下の克服や学力保障という

テーマと関わり、大きな影響を与えたものである。

しかし、この目標分析モデルに対し、アイズナー（Eisner, E.W.）は、次の点を批判している。すなわち、教育は「価値的な企て」であり、行動目標の客觀性も決して教育的価値から独立したものではない。そして、行動目標は、「文化的手段を使用させ訓練する」という教育観を前提とする目標論であり、「文化の発展を維持しうるよう、文化的諸手段を改造させ発展させる」という教育観に立てば、別の目標論が必要であると述べ、それを「表現的目標」と呼称し提示したのである。

すなわち、アイズナーによれば、行動目標が有効なのは技術形式と習熟に関わる限定的な領域であり、問題解決型の学習や創造的表現の学習のように自己完結型でない発展的な学習領域では、表現活動と問題解決目標が必要であるということである。そして、行動目標論に基づく研究は、カリキュラム・授業・評価を有する定式に基づいて一面化し貧弱なものとしているという点も指摘し、カリキュラム開発と授業との関係は、図1のような行動主義の定式にみられるような目標からの演繹的な関係ではなく、図2のような相互連関的に作用し合う構造であるとしているのである。

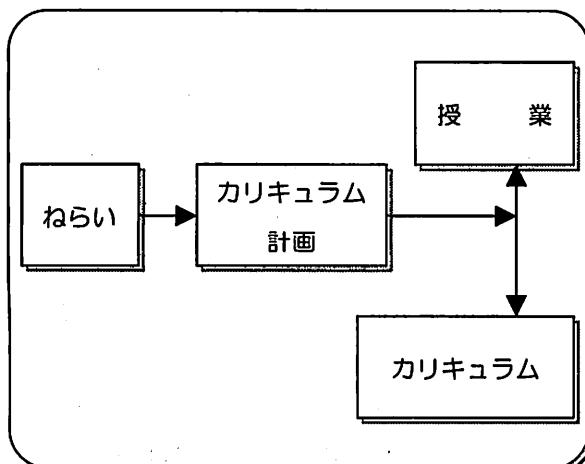


図1 演繹的関係としてのカリキュラム開発と授業

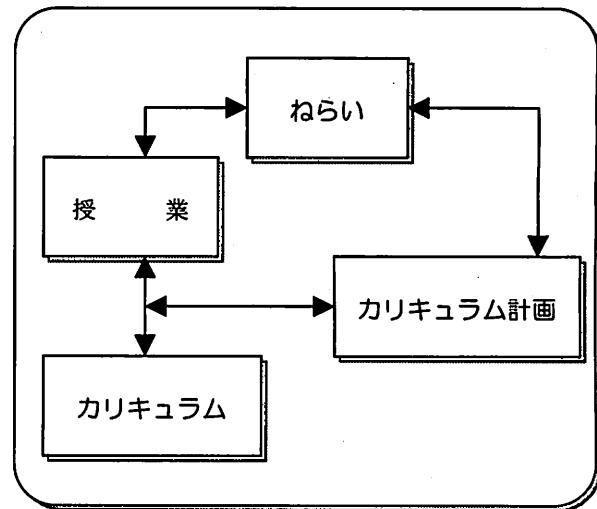


図2

相互連関的関係としてのカリキュラム開発と授業

その上で、行動科学に基づくカリキュラム開発論に対して、行動的なタームでとらえられるものだけが教育目標ではないことや要素的な目標を累積すれば一般目標が達成されるというわけではないこと、そしてフィードバックには即時的なものだけではなく長期の時間を置いてからのものがあること、さらに知識や技能の習得だけを重視することになりやすいなどの問題点を指摘しているのである。

したがって、現在の我が国のような児童の学びの質的な転換を図るということが求められているカリキュラム開発の状況では、その問題点を克服しながら実践と研究との内実をつくっていくことが問われるのである。

第二のゴール・フリーモデルとは、「目標にとらわれない評価」を軸にしたカリキュラム開発モデルのことである。アトキン（Atkin, J.M.）は、ゴール・フリーモデルのことを「羅生門的接近」と呼び、カリキュラム開発の手続きを①一般的目標、②創造的教授・学習活動、③記述、④一般的目標に照らした判断・評価という4段階に分けて説明している。そして、その目標は、いわゆる「行

動目標」ではなく、創造的教授・学習活動を可能にするために「一般的であれ」としているのである。

それは、工学的接近が、ある教材を用いれば、ある経験が必ず為されると考えるのに対し、羅生門的接近では、教授・学習の過程はどちらかというと即興を重視し、教材に関しても教授・学習の過程の中でその価値を発見することが重視されるのである。そして、評価に関しても、さまざまな視点からの記述や事例法などによる「目標にとらわれない評価」が重視されるのである。

スクリヴァン(Scriven,M.)によれば、「目標にとらわれない評価」とは、実際の効果を教育の領域で示された要求に照らして評価することであり、評価者は目標が分かると、どうしてもその目標達成にこだわってしまうので、目標を知らされてはならないとしている。そして、処遇及びカリキュラム教材を見て、以前の経験と研究文献の知識に基づいて、直ちに生ずると思われる効果についての仮説を立て、その仮説に基づいて評価を進めるとしているのである。さらに、カリキュラムを実施することによりもたらされる効果は、当初の目標以外の広範囲にわたるものであり、同時に複雑さや多様さを有するものであるとしている。そして、同時に、カリキュラム実施成績の質的な解釈を可能にするためには、この「目標にとらわれない評価」を積極的に行なうことが肝要であるとしているのである。

こうした特色をもつゴール・フリーモデルは、児童一人一人の学びの履歴をみてとる「総合的な学習」などの評価には適しているといえよう。すなわち、「総合的な学習の時間」における教育現象は、事象の幅広さや豊富さを有しており、科学的方法では単純には測定できないことや、「目標にとらわれない評価」に

より得られた情報の中から教師がこれまで気付かなかつた点や教師の意図と異なつて受けとめられる点等を明確にすることが可能になるからである。そして、それを生かして、カリキュラムの開発や授業実践を具体的な修正・改善することができるからである。

しかし、ここでは、観察や記述に頼ることに伴う客觀性の問題やカリキュラム実践の効果を的確に予想できるような評価目標を決定することの困難が課題とされるのである。

第三の状況分析モデルは、学校に基礎を置くカリキュラム開発論者の一人であるスキルベック(Skilbeck,M.)によって提唱されたものである。この開発モデルとしては、①状況分析、②目標設定、③プログラム計画、④解釈と実行、⑤調整、フィードバック、アセスメント、再構成の5段階を提示している。ここでは、①の状況分析で、学校を取り巻く「外的要素」と、児童・生徒、教師、学校の風土、資料のための資源、施設、装置、現在のカリキュラムの問題点や欠点などから成る「内的要素」の分析が詳細に行われることが重要点である。

この状況分析モデルは、目標分析モデルとゴール・フリーモデルの折衷案であり、カリキュラム編成や実施に関わるさまざまな要素を相互に結び付けながら、全体として状況を把握し、それに基づいてカリキュラム開発を行うということを内容としているものである。

状況分析モデルは、カリキュラム開発の諸段階のどの部分からでも着手することが可能であるという点において強みであるが、多くの要素が複雑に入り組む形で取り上げられる点が課題である。

#### 4. 授業評価とカリキュラム評価との連関の必要性

我が国では、昭和49年（1974年）の学校に基礎を置くカリキュラム開発の提起以後、カリキュラム開発の場を学校と授業に求める研究が現場に強調されてきた。また、「カリキュラム開発のための最良の場は、学習者と教師が出会う所である。」というスキルベック（Skilbeck,M.）の考え方に基づき、学校を人間的な社会制度として再確認し、援助システムとして「現職教育の充実」を図ることが、最良のカリキュラム開発の様式とされているのである。

したがって、現在求められている学校に基礎を置くカリキュラム開発とは、開発様式を示す概念であると同時に、教師のカリキュラム上で自律性に関わる哲学でもあるといえるのである。教師が、カリキュラムの開発者としての専門的な力量を身に付けることと共に、学校におけるカリキュラム開発の仕組みやシステムを、そのための人的組織や手続き、そして人間関係や支援体制などを含めて、従来の旧態依然としたものから真に学校に基礎を置くカリキュラム開発として実現する努力をはらうことが、強く求められてもいるのである。

そのためには、カリキュラム評価の日常化を通し、教師の授業評価、児童の学習評価とのかかわりで、その効果のよしあしを評価したり、教育内容や教材などカリキュラムに関する部分の評価をしたりすることが不可欠となるのである。

ところで、授業評価とは、授業研究における二つの側面、すなわち「教科内容の系統性の実証としての授業研究」と「教授＝学習過程そのものを研究対象とする授業研究」ということである。

しかし、これまでの授業評価が前提にしている授業観には、次のような点で偏りがある

といえる。それは、第一に、総じて授業評価では、授業がカリキュラムの構成、実施、検証過程であるという側面が見落とされがちであることである。したがって、主な研究対象は、指導法、指導過程、授業の法則性などであり、教材、カリキュラムは付隨的にしか扱われないことが多いということである。第二に、授業評価では、授業そのものに注目するあまり、授業を規定しているカリキュラム、教材、授業に至るまでの内容的決定過程（学校外のものも学校内のものも含めて）にまでは、十分研究が届かないということである。

換言すれば、授業構造や授業方略、そして授業展開の分節化などといった授業を教授・学習過程というミニマムな面からのみとらえていたということである。

すなわち、これまでの授業評価は、主として教授・学習という活動の面から検討しており、観察し記録することが容易である教師の目に見える活動や逐語記録による検討ということからの分析を主たる中心的課題としていたのである。しかし、それは、各授業の評価結果、あるいはアンケート集約というデータ収集・分析という側面を中心に展開されることから、真の授業評価にまでは踏み込んだものとなっていないといえるのである。

現在の「総合的な学習の時間」を主として、また、たとえ教科学習であっても教科書カリキュラムに頼るのではなく、教師の今日の前の児童に基盤を置く、すなわち学校に基礎を置くカリキュラム開発の実践的な積み重ねが喫緊の課題となっている今日、授業評価とカリキュラム評価の連関を求める研究は、新しい展開が求められているのである。

カリキュラム評価が、授業に根ざし、教室に根ざした研究として発展するためには、やはり授業の事実から出発し、その事実から発

想して研究を行うことが最小限の要件である。そして、日常的な学習評価、授業評価を繰り返しながら、児童の学びの様相をとらえ、カリキュラムの教室での機能をリアルに問い合わせ直

すことが求められるのである。

したがって、現在の我が国の学校教育現場では、図3のような授業評価とカリキュラム評価との連関の様式が考えられよう。

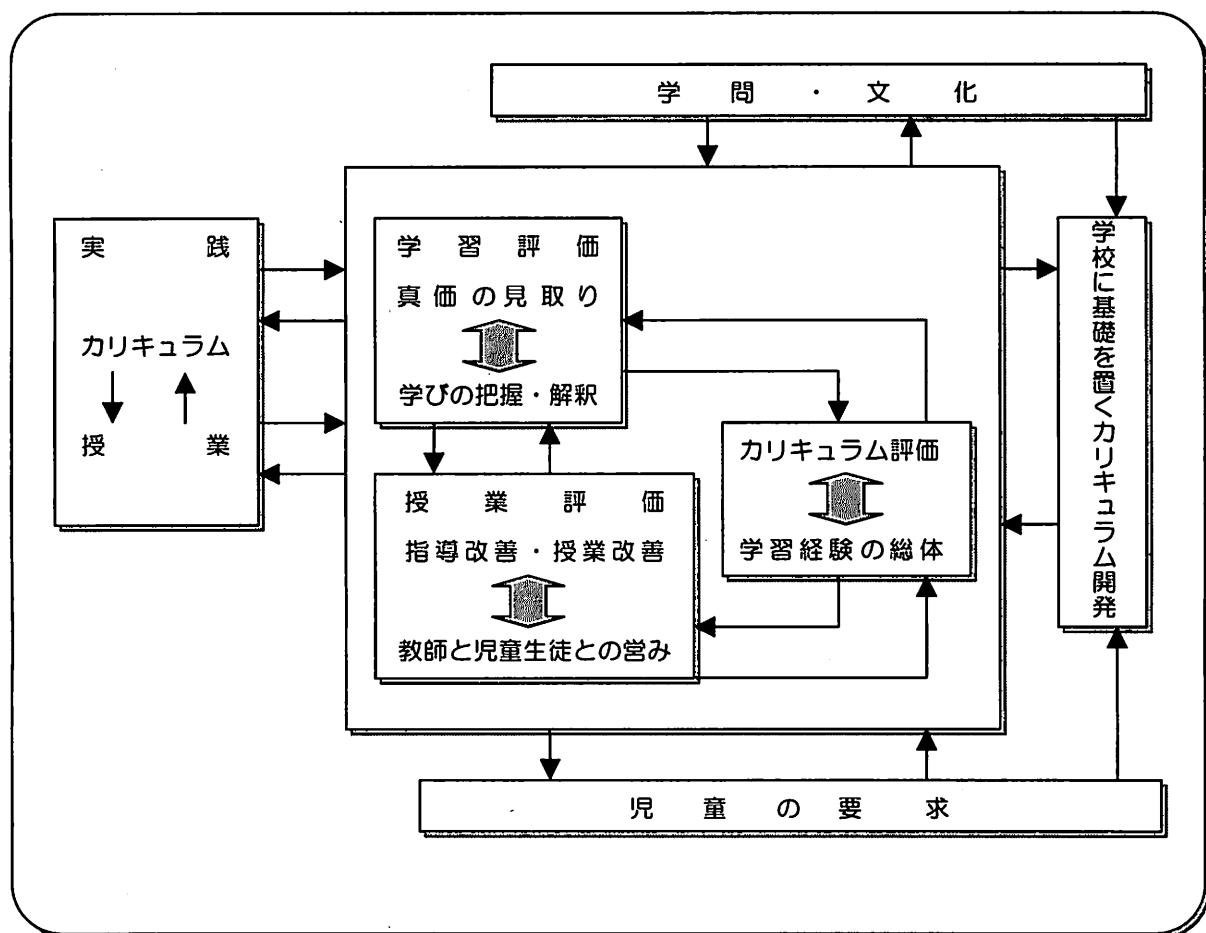


図3 学校に基礎を置くカリキュラム開発につながる授業評価とカリキュラム評価の連関様式

## 5. おわりに

学校に基礎を置くカリキュラム開発につながるための授業評価とカリキュラム評価の連関においては、児童に即した学習を援助する実践過程を基礎として、児童の学びの事実とその可能性に即してカリキュラムが決定していくものである。そこでは、教育課程における教材、教室環境、教師の働き掛け、児童の学習活動と経験の総体を評価対象とし、潜在的な教育機能についても検討されなければ

ならないのである。また、そのための授業の質的評価方法としては、反省的実践者としての教師による記述分析による省察が為される必要があり、参与観察等を含む事例研究による観察と記録、解釈と説明、評価と開発といった多様な視点と立場からの総合的な児童の学びの解明と教師の専門的判断が探究されていくのである。

今後、公教育として意図的・計画的・組織的な営みである我が国の公立学校においては、

教師や学校の評価として、その最重要点である授業そのものとそれを規定するカリキュラムの評価が必要とされよう。しかし、それらはそれぞれが個別的に評価されることでは、評価に終始し結果を示しただけで終わるものである。常に、教育事実としての授業評価は、カリキュラム評価との連関性を保ち、創造的教育実践が具現化できるカリキュラム開発へと生かすことが重要である。

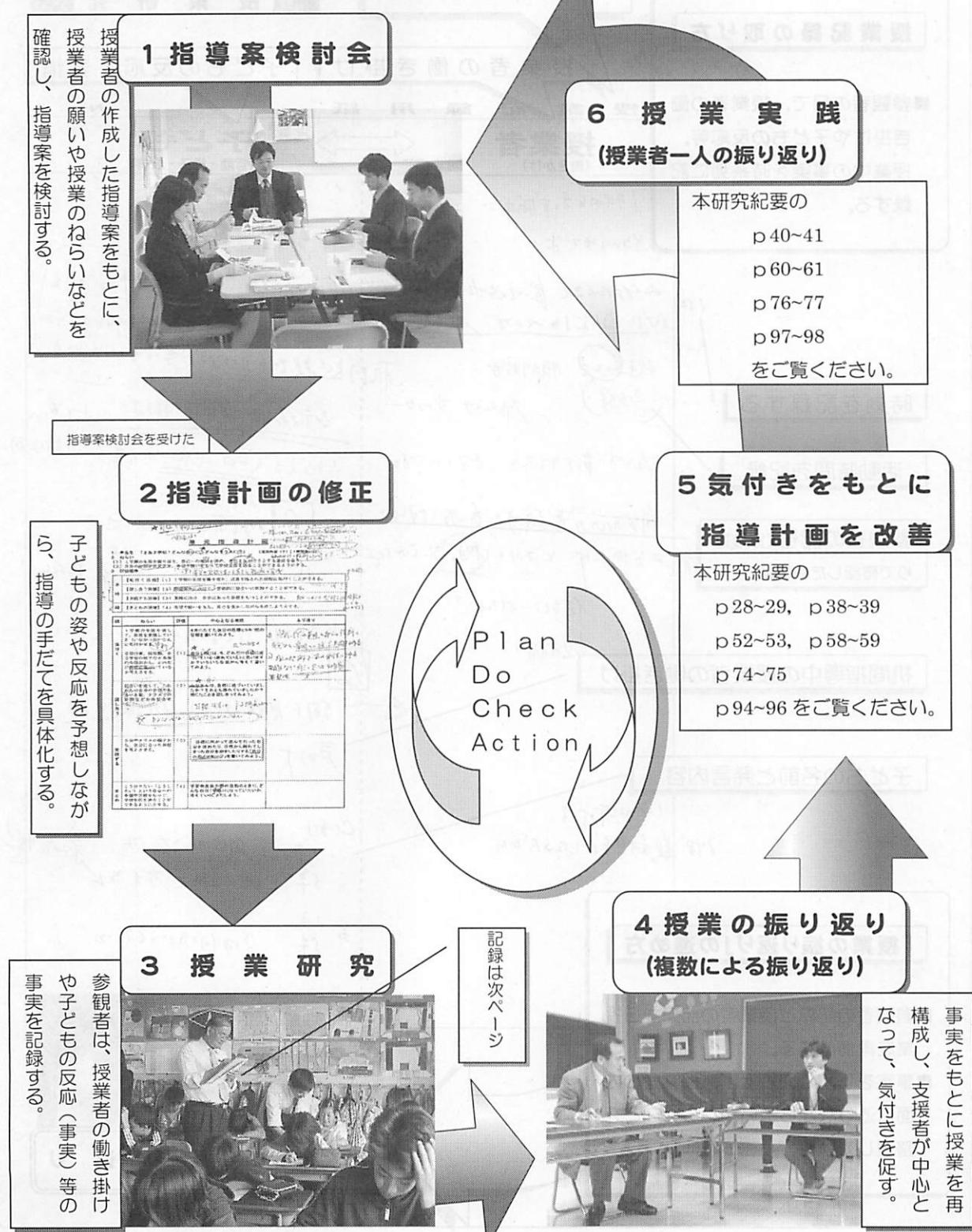
#### 〔引用・参考文献〕

1. 天野正輝編『総合的学習のカリキュラム創造－教育課程研究入門』ミネルヴァ書房、1999年。
2. 小川太郎「授業研究の今日的課題」全国授業研究協議会編『授業研究入門』明治図書、1965年、11～21頁。
3. 佐藤真『「総合的な学習」の実践と新しい評価法』学事出版、1998年。
4. 佐藤真『「総合的な学習」実践分析と展開の急所』学事出版、2000年。
5. 佐藤真編著『ポートフォリオ評価による通知表・指導要録の書き方』学事出版、2001年。
6. 佐藤真編著『基礎からわかるポートフォリオのつくり方・すすめ方』東洋館出版社、2001年。
7. 佐藤真編著『総合的学習の評価規準をどうつくるか』学事出版、2002年。
8. 佐藤真編著『今日から始める絶対評価の基礎・基本』教育開発研究所、2003年。
9. 佐藤真編著『「総合的な学習」の授業評価法』東洋館出版社、2003年。
10. 佐藤真編著『「評価資料の作成・活用」を実践から学ぶ』教育開発研究所、2004年。
11. 佐藤真編著『「総合的な学習の時間・体験活動」研修』教育開発研究所、2004年。
12. 佐藤真「『子どもの学びの促進』に結び付く教育評価の在り方－学習評価・授業評価・カリキュラム評価の連関性－」文部科学省編『初等教育資料・8月号』東洋館出版社、2003年、74～77頁。
13. 佐藤学「カリキュラム開発と授業研究」安彦忠彦編『カリキュラム研究入門』勁草書房、1985年、107～109頁。
14. 佐藤学『カリキュラムの批評－公共性の再建築へ－』世織書房、1996年。
15. 根津朋実「ゴール・フリー評価によるカリキュラムの『意図せざる結果』の解明に関する理論的検討－学校教育の無意図的侧面を解明するために－」『学校教育研究・第14巻』日本学校教育学会、1999年、134～147頁。
16. 平野朝久「『目標にとらわれない評価(goal-free evaluation)』についての一考察」『教育方法学研究・第7巻』日本教育方法学会、1981年、29～36頁。
17. 文部省『カリキュラム開発の課題（カリキュラム開発に関する国際セミナー報告書）』大蔵省印刷局、1975年。
18. 山口満「カリキュラム開発の今日的課題と方法－今回の学習指導要領の改訂と関連させて－」山口満編『現代カリキュラム研究』学文社、2001年、2～20頁。
19. Bloom,B.S.(ed.), *Taxonomy of Educational Objectives, Handbook I:Cognitive Domain*, David McKay,1956.
20. Eisner, E.W., *The Educational Imagination*, Macmillan,1979,pp.93-107
21. Scriven,M. Prose and cons about goal-free evaluation. *Evaluation in Education*, McCutchan,1974,pp.34-67
22. Skilbeck,M., "School-Based Curriculum Development and Teacher Educational Policy" in OECD, *New Patterns of Teacher Education and Tasks*, 1974.
23. Tyler,R.W., *Basic Principles of Curriculum and Instruction*, The University of Chicago Press,1949.

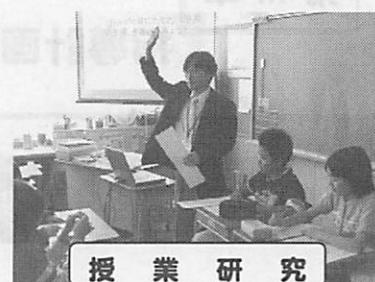
### 第 III 章

## 指導計画作成から指導計画改善の実践

### よりよい授業をつくるサイクル



## 授業記録と「授業の振り返り」



### 授業記録の取り方

■ 参観者の目で、授業者の働き掛けや子どもの反応等、授業中の事実を時系列に記録する。

### 授業記録用紙

### 授業研究

#### 授業者の働き掛け

#### 子どもの反応・表情

#### 授業記録用紙

#### 授業者 (働きかけ)

#### 子ども (言動・様子・表情)

NO.

#### 時刻を記録する

#### 活動時間を記録

#### 参観者の記号(振り返りで確認したい事柄)

#### 机間指導中の授業者の働き掛け

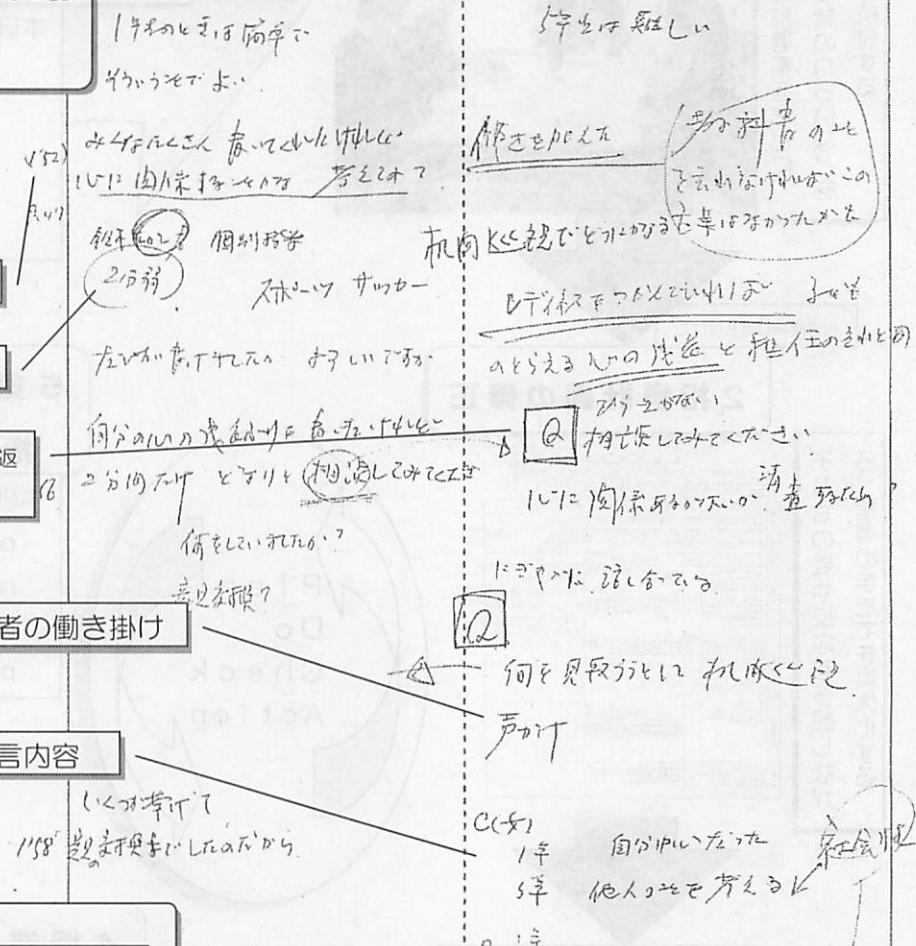
#### 子どもの名前と発言内容

### 「授業の振り返り」の進め方

■ 参観者の記録と授業者の記憶から授業を再構成する。

■ 事実を丁寧に取り上げ、授業者の内面に迫りながら願いやねらいなどを整理していく。

### 授業の振り返り



歓迎の面接会開催

内閣総理大臣

## 小学校 第5学年

### 学級活動の実践



仙台市立東六番丁小学校

熊谷 裕行

## 1 年間指導計画の作成

### (1) 授業者の思い

学校行事や児童会行事等の活動で把握できた子どものよさをこれからの指導に生かしていこう。

新たに委員会も始まるぞ。高学年として、みんなのために自分の力を発揮することで、集団の一員としての自覚を高めていきたいなあ。

平成16年度 仙台市立東六番丁小学校 特別活動 年間指導計画(案)

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月
おもな学校行事	始業式・入学式	運動会	修学旅行(6年)	学校参観	鑑賞教室(演劇)	学校参観	野外活動	学校参観
	交通教室		プール開き	水泳教室	陸上記録会(6年)	1学期終業式	避難訓練(火災)	ドレミの森(5年)発表
	春の遠足		避難訓練(地震)	避難訓練(不審者)	校外学習	2学期始業式	持久走(5年)	NHK放送体験(5年)
	学校参観				PTA行事(5年)	学習発表会		
		発育測定				発育測定		
各教科 道徳 総合的な学習	共通		わかなかまつり準備(総)	夏季休業中の活動				
	5学年	新しい友達(国)		わたしたちはこう考える(国)	読書発表会(国)		子ども環境会議を開こう(国)	
		整理整とん(家庭科)		わたしの研究(理)			なぜ食べるのだろう(家庭科)	
生徒指導の重点目標	課題づくり(総)「米・ピオトーブ・水」				中間発表会(総)		情報発信(総)	
	すすんであいさつを しましよう	けじめをつけて生活 しましよう	校舎内は静かに右 側を歩きましょう	教室での過ごし方を 工夫しましょう	1学期のまとめをし ましょう	友だちのよいところ を見つけましょう	ものを大切にしま しょう	すすんで体を鍛えま しょう
	たてわり	第1回 顔合わせ・ワッペン	第2回 班ごとの遊び			第3回		第4回
特別活動	(3)クラブ活動	※丸数字は、回数。						
	回数	①クラブ決定(未定)	②	④	⑤	⑦		⑧
	主な活動内容		③		⑥			
	(2)児童会活動	※丸数字は、回数。						
	ア 代表委員会	①運動会のめあて		②わかなかまつり	③エコスクール関係	④	⑤	⑥
特別活動	イ 委員会	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	ウ 児童会集会活動	1年生を迎える会(1)		わかなかまつり(2)	ドレミの森集会L(1)			ドレミの森集会L(1)
	(児童朝会)		①体育朝会	②保健朝会			③図書まつり(図書委)	④
特別活動	(1)学級活動	※丸数字は、モジュール数。						
	第5学年	内容(1) 学級生活の充実 と向上に関する こと	運動会のスローガン③ 1年生を迎える会③ 委員会をがんばろう③ こんな係があったらいいな③	学級③( ) わかなかまつり計画③ お店の計画を立てよう③ 学級集会③	学級集会の計画③ 全校集会を盛り上げよう③	学級③( ) 工夫した係を決めよう③ 野外活動関係③	学級③( ) 学級集会計画③	学級集会をしよう③
		内容(2) 日常生活や への適応 安全対策 と	学級の目標を決めよう③ 将来の夢③ 交通ルールを守って① 日々できれいに①	异性のともだち③ 食物とじょうぶな歯① 落ち着いた行動を①	夏休みをむけよう③ 自分の身を	1学期をふり返って③ 2学期をむかえて③ よい姿勢と目の健康① 野外活動関係③	健康な生活③ 落ち着いた行 心に残った人物	冬休みを迎えて②

もたちだから、集団としてのまとまりをどのように育てていこうかな。

話し合いの仕方等、どれだけ経験を積んできているか、早い段階で確かめておこう。

自分たちの力で自分たちの生活をよりよいものにしていくという「特別活動の魅力」を味わわせていくたいなあ。

## (2) 1年間を見通してこんな力を育てたい！

話し合いの経験を、しっかり積んできたようだぞ。でも、司会などの役割を一度も経験したことのない子どもたちもいることも分かった。みんなに経験させることで、自動的な集団をつくりあげていこう。

段階	項目 自治的活動の段階	対象	学年・発達段階 身に付けさせたい資質・能力	目標とする学年					
				1年	2年	3年	4年	5年	6年
事前	気付く	学級全員	①教師の助言を得ながら、身近な生活中から、みんなに関わる問題を見つけることができる。 ②学級や学校の生活中から、みんなにとって必要な議題を進んで見つけることができる。						
			①学級や学校の生活中から、みんなにとって必要な議題を考え、提案することができる。 ②学級生活の向上やよりよい生活を目指し、理由を考え、議題を提案することができる。						
	発信する	学級全員	①提案された議題をみんなに知らせることができる。 ②話し合いの係をつくり、提案された議題をみんなに知らせることができる。 ③教師の指導のもと、議題を選択することができる。 ④議題の条件をもとに、自分たちで議題を整理することができる。 ⑤議題の条件をもとに、議題の選定を学級全員で行うことができる。						
			⑥取り上げられなかった問題を適切に処理することができる。						
	共有し合う	学級全員	①話し合までの流れについて理解する。 ②教師の支援を受けながら、話し合いの柱や順序を考えることができる。 ③運営の仕事を分担することができる。 ④自分たちで話し合いの柱や順序を考えたり、資料を準備したりすること ⑤提案理由をよりよいものに練り上げていくことができる。						
			①議題について、自分なりの考えをもつことができる。 ②議題について、自分なりの考えをまとめることができる。 ③議題について、自分の考えを理由を入れてまとめることができる。 ④提案された議題を自分たちの問題として受け止め、自分の考えをまとめる。 ⑤提案理由を考えながら、自分の考えをもつことができる。 ⑥提案理由にそって、学級・学校全体のことを考えながら、自分の意見をまとめができる。						
	話し合う（事前）	話し合いの係	①教師と共に、話し合いを進めることができる。 ②教師の支援を受けながら、話題に沿って、話し合いを進めることができる。 ③賛成や反対意見を整理しながら、話し合いを進めることができる。 ④提案理由や話し合いの目的を理解しながら、話し合いを進めることができます。						
		参加者	①自分の考えたことや思ったことを、みんなの前で話すことができる。 ②友だちの考えを受けて、つながりのある話しかたができる。 ③自分の考えをまとめ、立場をはっきりさせながら要領よく発表することができる。 ④相手の意見を受け止めながら、自分の考えを発表することができる。 ⑤それぞれの意見の良いところを認め合い、折り合いをつける話し合いができる。 ①友だちの話をよく聞いて考えることができます。 ②自分の考えと比べながら、友だちの発表を聞くことができる。 ③自分の考えとの相違点に注意して、意見を聞くことができる。 ④話し手の意図を考えながら話の内容を聞くことができます。 ①決まったことを受け止めることができます。 ②決まったことを自分のものとして受け止め、実践への意欲をもつ。 ③学級や学校をよくするための集団決定をすることができます。						
本時	話し合う（本時）	話し合いの係	①自分の考えたことや思ったことを、みんなの前で話すことができる。 ②友だちの考えを受けて、つながりのある話しかたができる。 ③自分の考えをまとめ、立場をはっきりさせながら要領よく発表することができる。 ④相手の意見を受け止めながら、自分の考えを発表することができる。 ⑤それぞれの意見の良いところを認め合い、折り合いをつける話し合いができる。 ①友だちの話をよく聞いて考えることができます。 ②自分の考えと比べながら、友だちの発表を聞くことができる。 ③自分の考えとの相違点に注意して、意見を聞くことができる。 ④話し手の意図を考えながら話の内容を聞くことができます。 ①決まったことを受け止めることができます。 ②決まったことを自分のものとして受け止め、実践への意欲をもつ。 ③学級や学校をよくするための集団決定をすることができます。						
		参加者	①自分の考えをまとめ、立場をはっきりさせながら要領よく発表することができる。 ②相手の意見を受け止めながら、自分の考えを発表することができる。 ③それぞれの意見の良いところを認め合い、折り合いをつける話し合いができる。 ①友だちの話をよく聞いて考えることができます。 ②自分の考えと比べながら、友だちの発表を聞くことができる。 ③自分の考えとの相違点に注意して、意見を聞くことができる。 ④話し手の意図を考えながら話の内容を聞くことができます。 ①決まったことを受け止めることができます。 ②決まったことを自分のものとして受け止め、実践への意欲をもつ。 ③学級や学校をよくするための集団決定をすることができます。						
	分担する	学級全員	①教師の支援を受けながら、運営の仕事を分担することができる。 ②自分たちで進んで仕事をすることができる。						
			③決まったことを受け止めることができます。 ④友達と一緒に話し合ってよかったです。 ⑤一人で意見を述べることができます。 ①みんなで意見を出し合いました。 ②友だちと一緒に意見を出し合いました。						
	振り返り	学級全員	今回の話し合いを通して、学級生活をよりよくするために「発言してよかったです」「話し合ってよかったです」という充実感や満足感を味わわせたいな。みんなで学級生活をつくり上げているという実感をもたせていただきたいな。						

## 2 指導計画の作成

### (1) 「希望や目標をもって生きる態度の育成」に関する指導計画の例

子どもたちに、「自分への気付きや自己決定を促す情報・資料を提供」し、「自ら気付き、自己を生かそうとする」生活態度を育てることが重要になっているのだな。

学級活動指導計画 10 / 13 Ver. 第4版 14:15 ~ 15:00 (6校時) 東六番丁小学校 5年1組 教室 指導者 教諭 熊谷 裕行												
1. 題材名 「さあ2学期！どんな自分に？」 【活動内容（2）【1時間扱い】】												
2. ねらい (1) 1学期の生活を振り返り、自己への理解を深め、自己を生かそうとする態度を養う。 (2) 2学期の目標を決め、希望や願いをもって学校生活を送ることができるようする。												
3. 評価規準												
<table border="1"> <tr> <td>【関心・意欲・態度】</td><td>(1) 1学期の生活を振り返り、成果や課題に気付き、問題解決に向けて意欲的に話合いに参加しようとする。</td></tr> <tr> <td>【思考・判断】</td><td>(2) 学級生活の向上のために自分のよさを發揮する目標を考える。</td></tr> <tr> <td>【技能・表現】</td><td>(3) 自分の考えを発表したり、友達の考えと比べたりして、活動することができる。</td></tr> <tr> <td>【知識・理解】</td><td>(4) ふり返りや話合いの活動を通して、目標の見直しの筋道を理解している。</td></tr> </table>					【関心・意欲・態度】	(1) 1学期の生活を振り返り、成果や課題に気付き、問題解決に向けて意欲的に話合いに参加しようとする。	【思考・判断】	(2) 学級生活の向上のために自分のよさを發揮する目標を考える。	【技能・表現】	(3) 自分の考えを発表したり、友達の考えと比べたりして、活動することができる。	【知識・理解】	(4) ふり返りや話合いの活動を通して、目標の見直しの筋道を理解している。
【関心・意欲・態度】	(1) 1学期の生活を振り返り、成果や課題に気付き、問題解決に向けて意欲的に話合いに参加しようとする。											
【思考・判断】	(2) 学級生活の向上のために自分のよさを發揮する目標を考える。											
【技能・表現】	(3) 自分の考えを発表したり、友達の考えと比べたりして、活動することができる。											
【知識・理解】	(4) ふり返りや話合いの活動を通して、目標の見直しの筋道を理解している。											
4. 本時の指導過程												
段階	ねらい	評価	中心となる発問	ふり返り								
気付く	1学期の生活を通して、目標を意識していた（いなかつた）ことに気付かせる。  学校行事、係活動、自主学習の様子など具体的な場面から、どれだけ目標に近づいているか考えさせる。	(1)	4月に立てた自分の目標を書いてみよう。	4月に立てた目標が、子どもたちの中に意識されているかどうか確かめたいな。  それぞれ努力したことがあったはずだ。自分なりに振り返らせてみたい。								
話し合う	1学期の自分ががんばったこと（課題）について気付かせる。  しっかり役割を果たしていた児童の存在に気付かせる。  友だち同士で認め合うことで、自分（相手）に自信をもたせたい。	(1) (3)	自分は、今、どれだけ目標に近づいた（近づいていなかつた）と思いますか？1学期にがんばったことを振り返ってみよう。  みなさん1学期にがんばってきたことを、話し合ってみよう。  ◇学級生活の一場面や行事での様子の写真を提示する。	目立たないところでも、自分が役割を果たしていることで、学級の生活が維持できることに気付かせたい。								
実践する	自分のよさに気付くことで、クラスのためにどんなことができそうか考えさせる。  (一部、児童による進行を取り入れる。)		友だちががんばっていたことや、友だちのよいところを書いて、相手に届けよう！  ◇全体へ→隣の児童へ ◇アンケート結果の一部を提示する。	個人的に親切にしてくれたというようなことだけでなく、話し合い活動や学習中の意見がみんなに認められていることについて知らせたい。集団としての高まりも意識できるようにしていきたい。								
	話し合いを通して見えてきた自分やクラスの様子から、自分に合った目標を考えさせる。	(2) (4)	4月に立てた目標を見直して、2学期の目標を考えよう！									

「希望や目標をもって生きる態度の育成」に関することで、これまで学習してきたことについて振り返っておこう。

4月には、「どんなクラスをつくりたいか」という願いから出発して、「そのために自分はどんなことをするか」ということを考えさせた。今回は、個人の振り返りを大事にしたいな。

題材名	月日	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
学級の目標を決めよう	4/9	学級に対する希望をもち、進んで自分を生かそうとしている。	学級生活向上のために、自分にできることを考える。	自分の考えを発表したり、友達の考えのよさに気付いたりすることができる。	話合いを通して目標を立てる筋道を理解している。
高学年になって	4/12	高学年として、自分の役割を進んで果たそうとしている。	児童会活動などで自分にできる考え、協力して活動する。	自分の考えを表したり、全員で活動する。	4月から委員会や児童会行事等で活躍している子がたくさんいるぞ。それを知らせることで、一層意欲を高めていけるのではないか。また、みんなに認められることで、自信をもって活動を進められるようにしていきたいな。
夏休みをむかえて	7/16	これまでの生活を振り返り、夏休みを有意義に過ごすための計画を、進んで考えようとしている。	これまでの生活を振り返り、自分の課題を考えながら、夏休みの計画を立てる。	これまでの生活を振り返り、友よさを取りながら、自考を発表することができる。	
1学期を振り返って	未	未実施			
さあ2学期 どんな自分に	10/15 本時				
冬休みをむかえて	12月				
6年生に学ぼう	1月				
1年間を振り返る	3月	評価規準は、活動を振り返りながら順次設定する			
最高学年に向けて	3月				

1学期末に行ったアンケートに、「授業中、たくさん意見を言ってクラスのためにがんばっている」という意見があったぞ。生活面だけでなく、普段の学習でも、みんなのためになることがあることにも気付かせたい。

集団としての高まりを意識させるには、このアンケートを提示してもよさそうだ。

1学期末には、目標に対する振り返りをする時間をとらないでしまったぞ。2学期の目標づくりに影響しそうだ・・・。

これからの見通しをもっておこう。目標を立てて終わりにならないようにするぞ。

## (2) 指導計画の展開と複数の参観者による「授業の振り返り」を取り入れた授業評価

## ①展開と評価の実際 〈1〉

〈指導計画の展開 平成16年10月15日(金) 6校時 ■教師 英字:児童〉(1/3)

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
1学期の生活を通して、目標を意識していた(いなかつた)ことに気付かせる。	■何か、教室の様子でかわったことはないかな?  ■自分が4月に立てた目標を書いてみよう。	S:暑い。(笑) I:(黒板上の壁面を指し,)1学期に書いた「何々をがんばろうというカードがない。 A:朝に、もう気付いてたよ。  T:だいたい覚えていることですか? U:ぼく書けるよ。毎日見ていたもの。 S:見ていたけど覚えてないよ。(笑) I:「Tくんの厳しいクラス」というのは覚えているんだけどなあ・・・。(笑)	反応がいいな。授業への意欲を感じられるぞ。  予想どおり、あまり書けないな。Tくんの目標を覚えていたのはすごいな。
	■目標だから、みんなの様子で変わっていくものじゃないかな?  ■意識していた人もしていないかった人もいたと思います。キーワードだけでもいいから、発表してもらいましょう。	A:この目標って、1学期のものだったのですか?1年じゃなくて・・・。 A:明るい・・・って入れた気がするけど。 F:どんなクラスにしたいかって、考えたんじゃなかった?  T:仲のよいクラス。 A:「そのためにどうするか」って考えたんだよ! Y:楽しいクラスにしたかったから、「楽しい時には、笑う」とかいたと思います。 I:「新しいことに挑戦するクラス」・・・そのために?	目標をつくる時の指示があいまいだったのかもしれない。これは、今日の進め方に影響しそうだ・・・。
	■自分のカードを返しますので、確かめてください。	U:えっ、こわいな。 K:言葉だけは入っていた。 I:だいたい合ってたよ。 (挙手による確認)	あまり、4月のことにこだわりすぎない方がよさそうだ。  傾向をつかんでおいた方がいいかも。

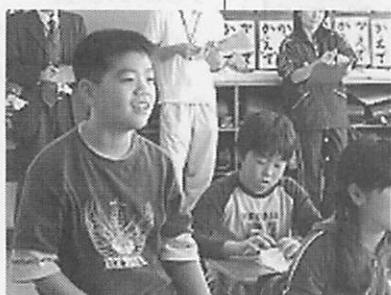
## 〈指導計画の評価（1／3ページ）

## ●指導主事1 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
●授業の始まりに当たって、先生が抱いていた子どもたちのイメージとして、「今日は、こんな子どもたちの姿をつくろう」というお考えがありましたか。	・今日一日のことでお話すれば、前の時間が学芸会の練習だったので、そのまま開放的な気分で授業に入れるのではないかと考えていました。もともと明るい子どもたちなのですが、気分的に明るくなった方が、いろいろな考えが出てくるのではないかと考えていました。	
●「目標を書いてみよう」と言った時、子どもたちは、「見ていたとか見ていない」とか「だれのを覚えている」とか話が出たわけですが、このような反応は、予想と比べてどうだったのでしょうか。	・教室の雰囲気を聞いた時に、すぐに目標のカードが無くなっていたことに気付いてくれたので、まず一安心したところがあります。Sくんのを覚えているという話もありましたが、厳しいクラスというのが、子どもたちにはかなりインパクトのある言葉でしたから。予想以上に反応はよかったです。	自分のめあてと学級の目標の関係について、しっかりしたおさえが足りなかった。個と集団の関係について自分自身の理解も足りなかったな。
●1学期の目標の内容を、目標と個人の関係について取り上げましたね。最初、どんなクラスにしたいかということから入ったということですね。このときの子どもたちの反応は、自分のめあてと学級の目標ということが素直におさえられていたでしょうか。	・そのあたりはあいまいだった今は思います。すぐに目標が出てきた子もいましたけど、「どんなクラスをつくりたいか、そのためにはどうするか」という質問をしたのです。自分自身の目標なんだよと、4月にはっきりと言っていました。私自身、言葉の使い方も曖昧だったなど、今日の子どもたちの反応を見て思いました。その結果、子どもにとって、これが目標で、自分はこうしたいんだというしっかりしたおさえにならなかったのかなと思いました。	
●この後、先生は初めて「意識していた人も意識していないかった人も」という言い方をされました。子どもたちから「見ていた」「見ていなかつた」と反応があった時に子どもたちのどちら方として、目標を意識させたいという先生の（4月の）ねらい（振り返る）は、どうだったのでしよう	・活動のたびに、目標に立ち返ってどうだったろうかという反省をしていれば、もっと心の中に入っているでしょうし、意識も高まっただろうなという印象があります。この段階で一番気になっていたのは、1学期にがんばったと思えることが一つもなく、次の質問に対して何も書けないと困るなあということでした。そのために、意識していた・いなかったに関わらず、とにかくがんばったと思えることを言葉にしてほしいと思っていました。	常に、「今、目標に對してどこにいるのか」ということを振り返る機会を与えることが大事なのだ。
◎ここまで、もくろみどおり？	・時間がかかり過ぎたと思っていました。	

## 〈指導計画の展開 10月15日〉(2/3ページ)

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
1学期に自分ががんばったこと(課題)について気付かせる。	■1学期に「自分はこんなことをがんばった」ということを書いてみよう。	N:あまり考えていませんでした。 S:あの、大きさというか?どの程度というか・・・。 A:例えば、転んでいる小さい子を起こしてあげたとかも入れていいの? I:ぼくも、そういうあったな。	なるほど。自己評価のレベルの違いまで考えていなかったぞ。でも、個人のよさにつながっていくなら、いれてもいいので、よしとしよう。
	■逆に、大きい、小さいが問題なのかな?	T:じゃあ、けっこうあるよ。 I:(プリントに書く。) F:(プリントに書く。)	普段あまり挙手しないFさんが発言したぞ。みんなも意見を言ってくれるといいのだけれど。
	■書けた人は、発表してください。	K:スクールバンドで夏休みにたくさん練習して、賞をもらったから、がんばったと思います。 A:朝会などでおしゃべりをしている人を注意した。 I:Nくんとも共通するけど、友達づくりをがんばった。 S:転んでいる子を起こしてあげて、なぐさめながら・・・。 I:学校の帰り道に迷子になっている子と一緒に帰ってあげた。	Iくんは、友達づくりを心がけていたんだ。転入生だったし、最初の頃、けんかもあったなあ。
	■先生か見て、「みががんばっているなあ」った写真せます。(行事や習、当番な場面ほど提示。)	児:えっ!写真? 児:あっ、これ。私、グーの役だった! U:一年生を迎える会の時だ。 児:ああ、あれだ!わかなまつり!わあ! S:自分たちでやった! チームワークとかもよさ。 N:Tくん、みんなの前で進んでやった。委 児:ドレミの森コンサートも、委員会でがんばっている。 T:係のお楽しみ会! S:思い出とか楽しく。	この調子で、どんどんキーワードを出していけばいいなあ。



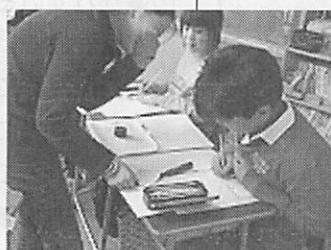
## 〈指導計画の評価 10月15日〉(2/3ページ)

●指導主事 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
●何となく心の中に残っていたことはおさえました。その後、子どもたちから質問が出ました。程度、大きさという質問です。例えば、転んでいる友達に何かしてあげるとか、おばあさんに何かしてあげるとか、これは予期していましたか?	・鋭かったです。 ・そこまで来るとは思ってはいませんでした。子どもたちの見る目が結構育っているんだなど、正直びっくりしました。子どもによって自己評価の仕方はまちまちなのでしょうけど、そこまで自分の評価基準をしっかりもっていることに、改めて驚きました。	自分が思っているよりも、子どもたちの見る目がしっかり育っていたのだな。
●子どもたちの発言が出てきますが、友達づくり、スクールバンド・・・、そしてそれを一つ一つポイントをとらえて返していましたが、何か返し方で意図したことありましたか?	・机間指導をしている時に、Iさんが書いていた内容は、把握していました。Iさんじゃなければ書けないことだなととらえていました。転入ってきてすぐ何かなどをしていましたからね。自分で分かっていたんだと思います。そういうトラブルを起こしていたので、私としては、この子が自分で努力してきたんだということを認めてあげたいという気持ちが意識の中にありました。他の子どもたちに「なぜIさんが、こう書いたか分かる?」と聞いたのは、そういう思いがあったのだと思います。	児童の発言や意見には、必ずその子の置かれている状況が隠されていることを、改めて認識した。事実に即して振り返ることが、とても大事のことなのだな。
◎すると、この5分間というのは、当初の先生の計画にはなかったことですね? ◎それだけIさんへの思いが強かったのですね。 ◎Iさんの他に、先生の心に残った子はいましたか。	・あまりここで子どもたちの発言を取り上げて、やりとりしようとは当初思っていませんでした。でもやりたくなってしまったのです。 ・RさんとTさんで、Rさんはこういう場面でとても悩むのです。でも、全体的には、みんなよく見ているなあとと思いました。	
●先生から見て、十分判断できる年になっているなという評価を行い、そしてスライドに入りました。1枚1枚提示していく時に、先生がキーワードに返り、なぜこの写真を出したのか、と切り返し、それに子どもたちがよく発言しました。この反応は、もくろみどおりでしたか? ●これは予期せぬうれしい展開でしたか?	・予想よりもよかったです。自分が意識していたのは、特に1枚目で、ここでしっかりとキーワード的な価値観に結び付けていかなければ、後は出ないだろうと思っていましたから。今考えると、この前の段階でもキーワード的な価値観のような言葉を使っていたのが効いたのかもしれません。 ・どちらかといえばうれしい展開でした。普段はあまり話をしない子Fさんが一番最初に挙手したので、驚きました。	

〈指導計画の展開 10月15日〉(3/3ページ)

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
しっかり役割を果たしていた児童の存在に気付かせる。	(写真の提示) ■この牛乳パック、だれがやってくれているか知ってる?	児:男女協力。元気に遊ぶ。 児:先生じゃないよ。いつもRくんがやってるよ。 N:植物とかは、命に関わることだ。	みんなこんなによく見ているなんて、驚いたなあ。
友だち同士認め合うことで、自分(相手)に自信をもたせたい。	■付箋カードにその人のよさを書いて、届けてあげよう。	A:でも、もらえなかったら、ショック。 I:2組でもいいの? 児:ちょっと照れくさいな。 R:もう書けたからとだけよう。 (多数のやりとり)	友だちからもらえなかった時のことまで気付いてくれた。よかったです。もらえない子は、これでなさそうだ。
自分のよさに気付くことで、クラスのためにどんなことができそつか考えさせる。	■1学期に自分ががんばってきたことや、友達からみたよさなどを考えて、2学期にがんばることを考えてみよう。	児:プリントに書く。 A:休み時間に騒いでいる人を注意する。 S:十分できているよ。 I:友達とけんかや暴力をやらない。 H:みんなのよいところを見付けていく。 R:自分から発言したい。 S:自分がこれまでできなかったことをやっていく。 R:自分の責任をやり遂げる。 F:困っている人や大変そうな人を助ける。	後半急ぎすぎたので、考える時間がとれなかった。ちょっと心配だ。何人かに指名して、例を示そう。
話合いを通して見えてきた自分やクラスの様子から、自分に合った目標を考えさせる。	■また、ここにカードに書いて掲示しておきます。できた人から、出してください。 ■自分の目標までは、考えて書いておきましょう。	児:書けました。 児:まとめて先生に持っていくよ。 R:(最後になってもしっかり書いている。)大丈夫です。書き終わりました。	Rくんも普段は話さないので、よく考えていたんだ。ほめてあげたいな。 Rくんは終わったかな。書き終わるまで、他の子には今後につながることを話そう!



## 〈指導計画の評価〉(3/3ページ)

●指導主事 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
○キーワードを通して価値観の集約をしましたが、写真の順番と引き出したい価値の順序性のような意図はありましたか？	・提示の順番はランダムではなく、目立つ学校行事から、高学年として責任を果たしている委員会、そして学級、地味だと思った当番という流れで考えました。	
○出てきたキーワードはもくろみどおりでしたか？	・事前に考えたものはもっとありましたが、十分理解できていたと思います。	
●これまでのところがねらいの自己理解にかかわるところでした。さてここから2学期に行く時に、キーワードで学級全員をカバーできたという判断はつきましたか？	・全員が次にカードをもらえるくらいキーワードが出たかということについては、分かりません。でも救いは、書けない子がいなかつたので、大丈夫だろうと判断したわけです。	確かに、このキーワードと一人一人が結び付かなければ、カードをもらえない子が出るということだ。判断が甘かった。
●いよいよカードを渡す場面で、「来ない人がいたらどうしよう」とみんなに質問した意図は？	・Sさんは、普段から周りのことをよく考えているし、自分だったらどうするかということまでこの子は見られるんだなと思いました。だから、私が言わなくても、同じ立場の子どもたち同士で学び合う方がいいだろうと思ったので指名しました。	
●先生が心配していたことが、子どもたちから出された。机間指導をしている時には、書いている中味を見ましたか。だれに指名しようかと思っていたましたか？	・正直、もらえなかったらどうしようという意識が強かったと思います。「書けた？」という声掛けより「もらった？」という方が多かったと思います。	
●書けた人に発表してもらいました。休み時間のことやいいところを見付けるなど、このような発言は予期していましたか？	・人に注意することまでは、予期していました。全ての発言が予想どおりというわけではありませんでしたが、ほぼねらいどおりだったと思います。	
●子どもたちの発表に対して、「今度は、意識できるかな？」というコメントを付けました。この言葉に特別に込めた意味はありますか？	・自分として4月に目標を立てて、振り返る活動をしたことがなかったのです。もう少し、その都度、今どんな山のどの部分を登っているのかというような、振り返りの意識があればよかったのかなと思っています。自分が一番意識しなければなかったのかもしれませんね。	振り返りの大切さを改めて感じた。振り返りを通して、今の状態を見つめ、そして未来につなげていくことができるのだな。
●今回、もくろみをもって授業をしたわけですが、事後の修正や次にやるとしたらここを重点的に扱ってみたいというようなことはありますか？	・集団としての価値観という意味のキーワードはおさえられたのですが、個人のよさ「あなたのよさ」まで深めることができなかったと思います。自分がいてクラスが伸びる、そしてその中でまた自分が伸びるという循環までもっていきたい。	

②「授業の振り返り」での気付きをもとにした指導計画の改善の実際

**気付き 1**：目標を立てる際のおさえの甘さ

→改善 1：本時では、目標を達成するために努力したことについて重点的に取り上げ、個人の成長と集団の高まりについて把握していく。

学級活動指導計			
1. 題材名 「さあ、この1学期の目標だもの、みんなの様子が変わったら変えてこうって……。」 2. A : 先生、これって、1学期の目標だったんですか。1年間じゃなくて？ 途中で変えるの？	内容(2) いそ り に気付き、問題を解決する力のよさを発揮する	教：目標だもの、みんなの様子が変わったら変えてこうって……。 言ってなかった？	
<b>【技能・表現】</b> (3) 自分の意見を発表したり、友達と一緒に話し合ったり <b>【知識・理解】</b> (4) 振り返りや話合いの活動を通して、目標の達成度を確認する			
<b>4. 本時の指導過程</b>			
<b>踏</b>  <b>気</b>  <b>付</b>  <b>く</b>  <b>話</b>  <b>し</b>  <b>合</b>  <b>う</b>  <b>実</b>  <b>践</b>  <b>す</b>  <b>る</b>	<b>ねらい</b> 1学期の生活を通して、目標を意識していた（いなかった）ことに気付かせる。  学校行事、係活動、自主学習の様子など具体的な場面から、どれだけ目標に近づいているか考えさせる。	<b>評価</b> (1) 自分は	<b>中心となる発問</b> 4月にたてた自分の目標を書いてみよう。
	<b>指導主事 1</b> ● 1学期の目標の内容を、目標と個人の関係について取り上げましたね。最初、どんなクラスにしたいかということから入ったということでね。このときの子どもたちの反応は、自分のめあてと学級の目標ということが素直におさえられていたでしょうか。		
	<b>授業者</b> ・そのあたりはあいまいだったと、今は思います。自分自身の目標なんだよと、4月にはっきりと言つていなかつた。私自身、言葉の使い方もあいまいだったなど、		
			
	今日の子どもたちの反応を見て思いました。その結果、子どもにとって「これが目標で、自分はこうしたいんだ」というしっかりしたおさえにならなかつたのかなと思いました。		

**気付き2**：目標に照らして、今の自分を振り返ることの大切さ

→改善2：学校行事や学級のできごとなどについて、機会をとらえ、適切な時期に振り返りの場面を設定する。

題材名	月日	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
学級の目標を決めよう	4/9	学級に対する希望をもち、進んで自分を生かそうとしている。	学級生活向上のために、自分にできることを考える。	自分の考えを発表したり、友達の考えのよさに気付いたりする	話し合いを通して目標を立てる筋道を理解していく。
高学年になって					
夏休みをむかえて					
指導主事1					
●この後、先生は初めて「意識していた人も意識していなかった人も」という言い方をされました。子どもたちから「見ていた」「見ていなかった」と反応があった時に、子どもたちのとらえ方として、目標を意識させたいという先生の4月のねらいを振り返るとどうだったのでしょうか。					
1学期を振り返って	未	未実施	ことができる。		
さあ2学期 どんな自分に	10/15 本時				
冬休みをむかえて	12月				
6年生に学ぼう	1月				
1年間を振り返って	3月				
最高学年に向けて	3月				

**気付き3**：子どもたちの見る目の確かさ、心の成長

→改善3：授業の振り返りを蓄積すること、また、子どもたちの発言など、事実に基づいた振り返りを行うこと。

## (3) 「朝の会・帰りの会を楽しくしよう〈話合い活動〉」に関する指導計画の例

子どもたちが見いだしたこの課題は、「よりよい学級生活の実現を目指して、一人一人の児童が協力して充実、向上させるための活動」に、ふさわしい内容となりそうだ。

学級活動指導計画 10/19 V																												
1. 議題名 「朝の会・帰りの会をもっと楽しくしよう」 【活動内容(1)【1時間扱い】】 2. ねらい (1) 朝の会と帰りの会を見直すことを通して、自分たちで学級を向上させようとする態度を養う (2) よりよい朝の会、帰りの会について話し合い、内容を決定することができる。 3. 評価規準																												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">【関心・意欲・態度】</td> <td>(1) 議題をみんなの問題としてとらえ、自分の意見をもって話し合いに参加する。</td> <td colspan="2" rowspan="4" style="font-size: small; vertical-align: top;">         普段何気なく取り組んでいる朝の会や帰りの会を見直したいという意見が出てきたぞ。学級生活を向上させるためのよい気付きなので、大事にしていきたいな。       </td> </tr> <tr> <td>【思考・判断】</td> <td>(2) よりよい朝・帰りの会の内容について考え、目的をもって決定すること</td> </tr> <tr> <td>【技能・表現】</td> <td>(3) 自分の考えを発表したり、友達の考えと比べたりして、活動すること</td> </tr> <tr> <td>【知識・理解】</td> <td>(4) それぞれの意見のよさを認めながら問題を解決する筋道を理解している。</td> </tr> </table>				【関心・意欲・態度】	(1) 議題をみんなの問題としてとらえ、自分の意見をもって話し合いに参加する。	普段何気なく取り組んでいる朝の会や帰りの会を見直したいという意見が出てきたぞ。学級生活を向上させるためのよい気付きなので、大事にしていきたいな。		【思考・判断】	(2) よりよい朝・帰りの会の内容について考え、目的をもって決定すること	【技能・表現】	(3) 自分の考えを発表したり、友達の考えと比べたりして、活動すること	【知識・理解】	(4) それぞれの意見のよさを認めながら問題を解決する筋道を理解している。															
【関心・意欲・態度】	(1) 議題をみんなの問題としてとらえ、自分の意見をもって話し合いに参加する。	普段何気なく取り組んでいる朝の会や帰りの会を見直したいという意見が出てきたぞ。学級生活を向上させるためのよい気付きなので、大事にしていきたいな。																										
【思考・判断】	(2) よりよい朝・帰りの会の内容について考え、目的をもって決定すること																											
【技能・表現】	(3) 自分の考えを発表したり、友達の考えと比べたりして、活動すること																											
【知識・理解】	(4) それぞれの意見のよさを認めながら問題を解決する筋道を理解している。																											
4. 本時の活動																												
論 話 し 合 う まとめる	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 10%;">議題</th> <th style="width: 40%;">ねらい</th> <th style="width: 10%;">評価</th> <th style="width: 40%;">中心となる教師の支援</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">気付く</td> <td>提案理由について確かめ、みんなの問題としての意識を高める。</td> <td>(1)</td> <td>「自分たちで学級をよくしたい。」という気持ちがあることを確認したい。</td> </tr> <tr> <td>これまでのどこに問題があるのか、変える部分はどこかを確認し、問題を焦点化する。</td> <td>(3)</td> <td>           ◇朝も帰りも、15分間の活動であること、自分たちで自由にできる時間と学級経営上必要な時間を確認する。            ◇アンケート結果をもとに考えてみる。            ◇話し合いを通して、話し合いの仕方を学ぶことができるよう、その都度助言する。         </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">話し合う</td> <td>(1) 朝の会と帰りの会の内容を、変えるかどうか話し合う。 ①朝の会 ②帰りの会</td> <td>(2)</td> <td>朝の会や帰りの会は、なぜやるのか？</td> </tr> <tr> <td>(2) どんな内容がよいか話し合う。 ①朝の会 ②帰りの会</td> <td>(1)</td> <td>問題があって、変えたいと思っていることについて、アンケートの結果をもとに確認させたならば、話し合いが焦点化されるのではないか。</td> </tr> <tr> <td>まとめる</td> <td>(3) 内容を決める。  「学級が今よりよくなるか、自分たちの力を伸ばすことができるか」という考え方方に気付かせる。</td> <td>(1) (4)</td> <td>           時数上、「話し合いの仕方」だけを指導する時間はとれない。            毎回の話し合いで、進め方なども確認しながら指導していく。         </td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center; padding: 10px;">         自分の好き嫌いで選ぶのではなく、集団を意識できることについて取り上げて、ほめていきたいな。自分たちが伸びる集団づくりを目指していこう。       </td> </tr> </table>		議題	ねらい	評価	中心となる教師の支援	気付く	提案理由について確かめ、みんなの問題としての意識を高める。	(1)	「自分たちで学級をよくしたい。」という気持ちがあることを確認したい。	これまでのどこに問題があるのか、変える部分はどこかを確認し、問題を焦点化する。	(3)	◇朝も帰りも、15分間の活動であること、自分たちで自由にできる時間と学級経営上必要な時間を確認する。 ◇アンケート結果をもとに考えてみる。 ◇話し合いを通して、話し合いの仕方を学ぶことができるよう、その都度助言する。	話し合う	(1) 朝の会と帰りの会の内容を、変えるかどうか話し合う。 ①朝の会 ②帰りの会	(2)	朝の会や帰りの会は、なぜやるのか？	(2) どんな内容がよいか話し合う。 ①朝の会 ②帰りの会	(1)	問題があって、変えたいと思っていることについて、アンケートの結果をもとに確認させたならば、話し合いが焦点化されるのではないか。	まとめる	(3) 内容を決める。  「学級が今よりよくなるか、自分たちの力を伸ばすことができるか」という考え方方に気付かせる。	(1) (4)	時数上、「話し合いの仕方」だけを指導する時間はとれない。 毎回の話し合いで、進め方なども確認しながら指導していく。	自分の好き嫌いで選ぶのではなく、集団を意識できることについて取り上げて、ほめていきたいな。自分たちが伸びる集団づくりを目指していこう。			
	議題	ねらい	評価	中心となる教師の支援																								
	気付く	提案理由について確かめ、みんなの問題としての意識を高める。	(1)	「自分たちで学級をよくしたい。」という気持ちがあることを確認したい。																								
		これまでのどこに問題があるのか、変える部分はどこかを確認し、問題を焦点化する。	(3)	◇朝も帰りも、15分間の活動であること、自分たちで自由にできる時間と学級経営上必要な時間を確認する。 ◇アンケート結果をもとに考えてみる。 ◇話し合いを通して、話し合いの仕方を学ぶことができるよう、その都度助言する。																								
	話し合う	(1) 朝の会と帰りの会の内容を、変えるかどうか話し合う。 ①朝の会 ②帰りの会	(2)	朝の会や帰りの会は、なぜやるのか？																								
		(2) どんな内容がよいか話し合う。 ①朝の会 ②帰りの会	(1)	問題があって、変えたいと思っていることについて、アンケートの結果をもとに確認させたならば、話し合いが焦点化されるのではないか。																								
まとめる	(3) 内容を決める。  「学級が今よりよくなるか、自分たちの力を伸ばすことができるか」という考え方方に気付かせる。	(1) (4)	時数上、「話し合いの仕方」だけを指導する時間はとれない。 毎回の話し合いで、進め方なども確認しながら指導していく。																									
自分の好き嫌いで選ぶのではなく、集団を意識できることについて取り上げて、ほめていきたいな。自分たちが伸びる集団づくりを目指していこう。																												

最近、議題ポストに入るカードが少なくなつたぞ。今回は、朝の会で時間をとって、全員に出させていこう。2学期の始めに、学級生活を振り返らせる手立てにもできそうだ。

毎回全ての観点について評価するのには、現実的には厳しいぞ。この話合い活動で評価する場面と観点についてしっかりおさえておこう。

司会は輪番なので、今日はどんなメンバーになるかな？

議題を自分のものとしてとらえるためにも、アンケートなどで、考えをまとめさせておく必要がありそうだ。

5. 活動の経過		活動の流れ ・ 《対象》	評価の観点 (◎: 学級全員対象, □: 運営の係児童対象)		
段階	月日		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現
気付く	10/5 朝の会	議題の収集 《全員》	⑥学級生活に関心をもち、必要な話題を見つけようとしている。	⑥学級生活の向上につながるかを考え、必要な話題かどうか判断する。	⑥学級生活の向上のために必要な話題を見つけ、提案することができる。
発信する	10/7 放課後	司会団の編成 《運営係》	□運営の仕事を進んで分担しようとしている。		□会の進行の仕方や運営の仕事について理解している。
共有する		議題案の整理 《運営係》		□議題の条件を考え、収集された話題を整理する。	□議題を決める際の条件について理解している。
本時	10/8 朝の会	議題の共有化 (議題の告知) 《全員》	⑥提案された議題を自分の問題として考えようとしている。		□議題と取り上げられなかった問題を適切に処理することができる。
話し合う	10/14 朝の会	議題の共有化 (アンケート) 《全員》	⑥学級生活を振り返り、問題解決に進んで協力しようとしている。	□問題解決に必要な情報を考え、資料を準備する。	□アンケートを集約し、まとめることができる。
話し合う	10/15 楽間 10/18 放課後	進行の計画 《運営係》	□分担に沿って、会の進行を考えようとしている。	□問題点は何かを考え、話合いの柱や順序を決める。	□会の進行の仕方や運営の仕事について理解している。
振り返る	10/19 5校時	話合い活動	⑥議題をみんなの問題としてとらえ、自分の意見をもって話合いに参加しようとする。	⑥よりよい朝・帰りの会の内容について考え、目的をもって決定することができる。	⑥自分の考えを発表したり、友達の考えと比べたりして、活動することができる。
振り返る	10/20 以降 朝、帰りの会	朝の会・帰りの会の実践	⑥決まったことを進んで実践しようとする。		
	/		⑥改善した点について振り返り、よりよい実践につなげようとしている。	⑥振り返りの観点を考え、自分の意見をもつ。	⑥活動についての自分の考えを発表したり、友達の活動のよさを見つけたりすることができる。

帰りの会などで今までやってきたことは、限られているのではないか？よし、ここは、教師からいろいろなアイデアを出してもよさそうだ。他の先生方に聞いたり、実践例を探したりして、子どもたちに提示できるようにしておこう！

今のはどの議題を取り上げていくか、学級が向上するか、みんなの問題など、基準をしっかりと伝えていくことが大切だ。

「話合いのメモ」カードを見ると、しっかりと自分の意見をもっていることが分かったぞ。目的をもって、これから取り組む内容を決めていくことが大事になってくるのではないか。

## (4) 指導計画の展開と複数の参観者による「授業の振り返り」を取り入れた授業評価

## ①展開と評価の実際〈2〉 (1/3ページ)

&lt;指導計画の展開 平成16年10月19日(火)5校時&gt; (○司会, ○副司会, ■教師)

	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
提案理由について確かめ、みんなの問題としての意識を高める。	<p>○話し合うわけを、話してもらいます。</p> <p>■Iさんも緊張するんだね。</p> <p>■提案理由が終わつたので、次は、話合いで。</p> <p>◎朝の会の方で、アンケート結果に、変えたい意見がないのですが、どうですか。</p> <p>◎帰りの会について、考えてきたことを発表してください。</p> <p>■まず、何を決めるかということだよね。変えるか変えないかということから確認してください。</p>	<p>・私たちは、特に帰りの会はすぐに終わってしまうので、みんなが楽しくなるような会にした方がいいと思って、提案しました。(提案者)</p> <p>A:(笑)ひどいよ先生!みんな見てるんだから仕方ないよ。</p> <p>・(挙手なし)</p> <p>全: 变えないということです。</p> <p>・(手が挙がらないな。)</p> <p>A: 私は、変えなくていいと思います。必要なことは、そろっているから。</p> <p>R: ぼくは、あと二つくらい入れた方がいいと思います。</p> <p>H: 今の内容では少なすぎるので、ふやしていいと思います。</p> <p>Y: 朝の会は、係とか楽しいこともあるけど、帰りの会は、連絡だけでみんなが楽しめるものがほしいから、変えた方がいいと思います。</p> <p>A: 朝にいろいろあるんだから、十分だと思います。</p> <p>Y: 帰りの会にしかできないこともあるよ。一日の生活の中の出来事とか。</p>	<p>これでみんなに伝わったかな? 提案理由の言葉ももう少し考えた方がよかったかもしれないな。</p> <p>やはり今日は、参観されていることで緊張しているな。雰囲気が固いぞ。</p> <p>何を話していいか分かっているかな?今、何を話し合うか、ポイントをはっきりさせよう。</p> <p>帰りの会の意味にも関係する発言だぞ。やはりこの子は成長を感じられる。</p>
これまでの会のどこに問題があるのか、どこを変えるのか、ということについて確認し、問題を焦点化する。			
(1) 朝の会と帰りの会の内容を、変えるかどうかということについて話し合う。 ①朝の会 ②帰りの会			



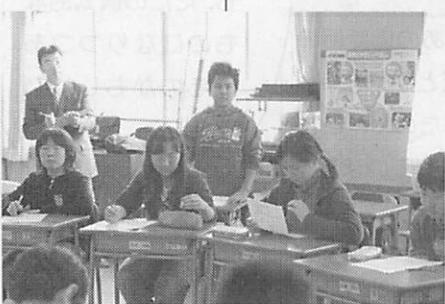
## 〈指導計画の評価 10月19日〉 (1/3ページ)

●指導主事1 ○参観者

支援者・参観者	朝の会の場	授業者	気付き
●はじめに話し合うわけを、提案者が話しました。議題の共有化も、事前に知らせるなどして行っていたと思います。あの時点で、先生はどう見渡していましたか。	・結論から言えば、ちょっと弱かったなと思います。楽しいってどういうことなのか、突き詰めて考えさせるべきだったかなと。提案理由の吟味は足りなかつたと思います。それに、提案理由と一緒に、変えたい、変えなくてもいいけど付け足してもいいなど、子どもたちの気持ちをもう少し探つておくべきだったなと。	・今日は、自分たちがメインなんだということもあり、いつもよりも固いなと感じたので、ちょっかいを出しました。	意志決定のもとになるのが提案理由であることの重みを、もう少し考えておくべきだった。
●Iさんでも緊張するんだねと、ちょっかいをかけました。そのあたりの意図は?	・アンケートの結果を見た段階で、司会の子どもたちと一緒に、朝の会は変えなくていいだろうという共通理解がありました。もう少し意見をもらってもよかったですのかもしれませんが、子どもたちはあまり朝の会に切実感をもっていなかった。あっさりしそぎていたかなという感もありますが、後半に時間をかけたいこともあったので、ここは様子を見ました。	・意見交換がなかったために、あの場で朝の会に戻るような意見が出たのだと思います。結果的に、振り返ることができたので、この意見が出たことはよかったです。	朝の会のアンケートの結果についても、もう少し意見交換が必要だったな。朝の会と帰りの会も、ただの儀式的なものになりつつあったのかもしれません。
●あとからI君が、朝の会の内容について変更のことを話題に出しました。その段階では、朝の会をもう少しやっておけばよかったと思いましたか?	・今日の座席の配置が、最初から「賛成派」「反対派」と分かれていっていたので、改めて確認する必要性を、子どもたちは感じていなかつたのだと思います。	・すばりと言えなくとも、最後のまとめの時に、いい方を取り上げるのか、悪い方を取り上げるのか、そこだけは確認しておきたいと思いました。方向性です。	学級が伸びていくために、自分が大事にしていることって何なのだろうか?常に意識しているだろうか?
○先生なりに、この議題での落としどころをどう考えていきましたか?			

〈指導計画の展開 10月19日〉

(2/3ページ)

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
(2) どんな内容が よいか話し合 う。 ①朝の会 ②帰りの会	<p>■今、問題が二つ出 てきてていると思う んだけど、一つは、 時間的なことと、 もう一つは、具体 的に何をするか。 みんなが帰りの会 に許せるのは、何 分くらい?</p> <p>◎10分以上という 人はいないので、 5~10分という ことでいいですか。</p> <p>■変えないと言った 人に、内容をふや してもいいのかど うか確認して。</p> <p>◎内容をふやすこと が確認できたの で、次は具体的な 意見やアイディア はありますか?</p> 	<p>I : 一日の学校生活の終わり だから、朝の会よりは長く てもいい。</p> <p>A : 二つくらい入れても5分 くらいで全部できる。</p> <p>K : 疲れたり、次の○○ もあるけど、つまらないの もいやなので、朝の会と同 じくらいがいいと思う。</p> <p>児 : いいです。長すぎても疲 れるし、飽きてしまう し……。</p> <p>A : 変えなくてもいいけど、 みんなが変えたいって言う なら、時間もあまり延びな いのでいいです。</p> <p>R : アンケートの似ている のをいっしょにして二つ増 やしたらいいと思う。</p> <p>I : 口げんかなどもあるから 反省会などを入れたら?</p> <p>A : 反省会を入れるなら、ク ラス全体の反省にしたらい いと思う。個人のことはみ んなの前で言われると、い やな気もするから。</p> <p>H : クラスにはいいことをし ている人がたくさんいるか ら、今日のヒーローみたい なものを入れたら。</p> <p>I : 朝の会の係の時間を、 帰りの会に移したらいい (この後、係の時間につい やりとりが続く。)</p> <p>児 : ネーミングが違うけど意 味合いはいっしょだと思 う。</p>	<p>やはり時間のこ とが出たな。ど こでアドバイス、 したらいいかな</p> <p>自治的範囲外の ことなので、すば り提示してもい いけど、この子た ちなら自分たち で考えられるの では?</p> <p>あとでもめない ように、その都 度確認しておい た方がよさそう だな。意見を言 わない子たちも いるし……。</p> <p>論点がずれた ぞ。気付かせな ければ。朝の会 について、意見 を聞くべきだっ たかな?今、確 認しておこう!</p>
	<p>■最初に、朝の会は 変えないということ で決めたはずだよ ね。話し合うポイン トがずれた気がする けど?</p>		

## 〈指導計画の評価〉 (2/3ページ)

●指導主事1 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
●後半長引くんだろうなと予想してた具体的な場面はどのあたりだったのでしょう?	・話合いのメモを見た段階で、時間的なことにはこだわっていた子が非常に多かったので、引っかかるとすれば、長い・短いのところかなと?今となっては、はっきり15分以内といってしまえばよかったです。	時間的な問題と内容的な問題どちらを話し合うべきかを考えると、伝えるべきことはしっかり伝えられた方がよかったのだな。
●変える、変えないについて意見が続き、先生は、そこに介入しませんでした。その場面は、しゃべらないように心がけていたのですか?	・ある程度は、できるだろうという思いがありましたから。メモを見た段階で、どんな意見が出るか、予想できていたので。 ・Yさんは、三角関係で悩んでいて・・・という話を前回しました。だからこそ、今回もああいう意見が言えるのかなと思いました。「クラス全体として悪いことを」と彼女が発言した時、ちょっと客観的などころから見て、なおかつ自分が負けないように生活している・・・、本当に成長しているな、すごく考えたんだなということの分かる発言でした。	任せる部分と指導する部分の区別、基準を自分自身がしっかりとおさえなければ。
●前回、特別な思いでかかわっている場面がありました。今回も一番意見の多かったYさん、Iくんには、どういう思いで発言を受け止めていましたか。	・Iくんも最後に発言してくれたおかげで、中学年くらいなら「いいことの発表」というまとめになりそうなところが、なれ合いになるんじゃなくてという教訓めいた意見を発言してくれたことで、本音も見られたかなと思いました。 ・結果的にそうなって、ちょっとほっとしました。いいことばかりいって終わってしまう道徳的な話にならずによかったと思います。	子どもたちの発言には、普段の生活が反映されている。それだけ、日々の児童理解が大事になってくるのだ。
●子どもたちから「個人ではなくクラス全体のこと」という非常に意義を理解している話がポンポンと出てくるんですね。この辺は、内心してやったりと思っていましたか?	・そんなことはありませんでしたが、子どもたちからそういう意見が出てきていたので安心感はありました。逆にAさんは、絶対変えないと突っ張るのではないかと思っていたのです。まわりの様子を見て受け入れたところで、彼女の成長も分かったし、クラス全体で反省すべき点を入れた方がいいという厳しさが見られたことからも、彼女の成長ぶりを感じました。	高学年の児童の見る目の厳しさ。また、楽しさの意味のとらえ方、それを見る自分の甘さ。
●「ネーミングの違いだけ」という発言がありました。そしてペーパーを渡しました。	・気になったのは、まだ発言していない子の存在でした。どういう気持ちで聞いているのかなと。意見は書いていましたから。	

## 〈指導計画の展開 10月19日〉(3/3ページ)

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り図
朝の会や帰りの会の意義について、子どもたちなりに考えさせる。	<p>■先生いっぱい話して申し訳ないんだけど、ネーミングが違うだけってみんなは言っているけど、先生の気持ちちはちょっと違うんだ。しかも気付いてないけど、みんないいこといっぱい言ってる。せっかくの機会だから「なぜ朝の会や帰りの会をやるのか」考えてみて。</p> <p>副：アンケート結果を見て、新しい意見ありますか？</p> <p>■確認したいんだけど、反省のイメージって、いいことを言うの？うまくいかなかった方？</p> <p>○近くの人と話し合ってください。</p> <p>○どういう意味で「反省」と言っているか、できれば今日発言していない人。</p> <p>■もうすぐ時間なので、みんなは「いいことをとらえて伸びていくとするのか」「できなかつことを指摘して伸びていこうとするのか」それだけは、はっきりさせてほしいんだけど。</p> <p>(チャイム)</p> <p>～以下略～</p>	<p>児：クイズは、朝にやるというイメージがあるから。 (全：アンケート集計「朝の会・帰りの会はなぜするのでしょうか」を見る。)</p> <p>児：先生の言いたいことが分かった気がする。</p> <p>I：アンケートの明日への準備という意味を込めて、一日を振り返るような、つまり反省を入れたらいいと思います。 (児：その後、反省を入れるという意見が続く。) ・・・(沈黙)・・・ (全：近くの人と話す。)</p> <p>T：クラスの人でいいところがない人はいないから、いい方で伸ばす方がいい。</p> <p>F：2学期の目標のことも考えて、いい方を伸ばしたい。 R→H→Iと発言</p> <p>I：Rくんのようにいいことしてるの、みんなに知ってもらった方がいいと思うからです。</p> <p>F：クラス全体で反省することは、悪いことでも、言った方がいいと思う。休み明けでダラッとしているとか。</p>	<p>ちょっと発言が多すぎるな。でも、会の意義については、ここで話しておかないと、決められなくなるぞ。</p> <p>資料を基に考えようとしているのは、すばらしいことだ。</p> <p>子どもたちから、いいところのない人はいない、という言葉が出るなんて。去年やっていたことも生きているのかな</p> <p>前回の目標とのかかわりで考えている。しかも、Fさんが今日も発言している。うれしいな。</p> <p>個人と集団のことを関連させて考えているぞ。</p>
「学級が今よりよくなるか、自分たちの力を伸ばすことができるか」という考え方方に気付かせる。			

## &lt;指導計画の評価&gt; (3/3ページ)

## ●指導主事1 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
●そして先生は「ごめんね…」といつて介入しました。その「ごめんね」の意味と先生が確認したかったことを教えてください。	・自分の意識の中に「こんなに介入していいかな」という思いはありました。終わったあと「くんの次に発言していましたよ」と言われてしまいましたから。帰りの会の意図については、しつこいかなと思いましたが、まだ発言していない子がいいことを書いていたので、他の子どもたちの考えも知ってほしかったという気持ちです。あえて出さなくても気付いていたと思います。	自分は、常にみんなの意思を確かめることに気を遣っているのだな。
●このあとに、Sさんが「1日にあったことの反省が多いですけど…」と、くんがそれをフォローして、「アンケート結果を見て、新しい意見がある人」とすぐに聞きました。そのとき先生は、ぼそぼそと「すごいまとめだね」とつぶやきました。ここでくんが言ったことを、意図していましたか？	・お互いに進め方で苦しんでいました。フォローし合って、そういう発言をしたことに対する発した言葉だったと思います。アンケート結果を基にという言葉が、みんなの意見というところと合致したので、自分は、そこを評価しました。 ・アンケートの結果を見て、という言葉で勇気付けられて、自分のも入っていたから発言してみようとなれば一番よかったと思います。結果的に反応の早い子が手を挙げますから。司会と発言記録の位置関係も今日は、よくなかったと思います。 席が離れてしまっていましたから。	特別活動も普段の学習と関連して伸びていくことを、改めて感じた。
●そうすると、最後の段階で「まだ発言していない人、できれば」ということで司会が振っていました。あれは、子どもたちの日常的なことですか。	・それは、しゃべっちゃう言っていますね。せっかく学校に来たんだから、一日一回は発言して帰りなさいと話しています。	話し合いの形態や机の配置も吟味する必要があったな。
●「1分間話し合ってください」とありました。この時、先生から「あは」という言葉がもれました。	・ちょっとチャンスがめぐってきたかな、という気持ちでした。司会やAさんとも話せるし。悪いことをいっていくのか、ほめて伸ばしていくのかという方向性だけは決めたいと思っていましたから。	みんな学級の一員なんだ、それが子どもたちにも伝わっていた。よかったです。
●その後、「反省ってどんなイメージ？」と聞くんです。うまくいっていること、いつていないことというようなどちらともつかないようなことで聞くんです。このとき想定していた内容は？	・反省という言葉自体は、アンケートにも出ていませんでした。そういう言葉は出るだろうというというのは予想できました。どちらかといえばいい方にだけ流れるのではないかという予想で、くん、Aさんが「いい方も悪い方も」という発言をするとは正直思っていませんでした。	個人が伸びることで集団が伸びる、集団の高まりがさらに個人を伸ばしていく、という集団としての評価も大切なんだ！
●お互いによさを認め、發揮する中で集団も伸びる楽しさを感じるということですか。	・心地よさ…。わいわいやって楽しいではないし、ほめあってよかったです、という楽しさでもない。気付かされました。	

②「授業の振り返り」での気付きをもとにした指導計画の改善の実際

**気付き1**：提案理由の吟味が不足していたことによる議題の共有化の弱さ

→改善1：「楽しい」というあいまいな言葉のイメージをはっきりさせる。  
集団決定の際に、立ち返れるだけの提案理由に練り上げておく。

学級活動指導計画 10/19 Ver. 第2版												
1. 議題名 「朝の会・帰りの会をもっと楽しくしよう」 【活動内容（1）【1時間扱い】】 2. わらい  <p>議題をみんなの問題として取り扱う。朝の会や帰りの会について話し合い、内容を決定することができる。</p>												
<b>●指導主事1</b> <p>はじめに話し合うわけを、提案者が話しました。議題の共有化も、事前に知らせるなどして行っていたと思います。あの時点で、先生はどう見渡していましたか。</p>												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 15%;">中心となる教師の立場</th> <th style="width: 15%;">ふり返り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;">           (1) 「自分たちで学級をよくしたい。」という気持ちがあることを確認したい。             ◇朝も帰りも、15分間あること、自分たちで自ら時間と学級経営上必要な確認する。         </td> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;">           (3) ◇アンケート結果をもとにえられるようにする。             ◇話合いを通して、話し合いの力を学ぶことができるよう、そつと助言する。         </td> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;"> <b>・授業者</b>  <p>結論から言えば、ちょっと弱かったなと思います。楽しいってどういうことなのか、突き詰めて考えさせるべきだったかなと。提案理由の吟味は足りなかったと思います。それに、提案理由と一緒に、変えたい、変えなくてもいいけど付け足してもいいなど、子どもたちの気持ちをもう少し探つておくべきだったなと。</p> </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;">           し             朝の会や帰りの会の意義について、子どもたちなりに考えさせる。             合 (2) どんな内容がよい         </td> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;">           朝の会や帰りの会はなぜやのかな？         </td> <td style="vertical-align: top; padding: 5px;">           結局、この提案理由が、集団決定する際のよりどころともなるものでしたから。〈気付き1〉         </td> </tr> </tbody> </table>				評価	中心となる教師の立場	ふり返り	(1) 「自分たちで学級をよくしたい。」という気持ちがあることを確認したい。  ◇朝も帰りも、15分間あること、自分たちで自ら時間と学級経営上必要な確認する。	(3) ◇アンケート結果をもとにえられるようにする。  ◇話合いを通して、話し合いの力を学ぶことができるよう、そつと助言する。	<b>・授業者</b> <p>結論から言えば、ちょっと弱かったなと思います。楽しいってどういうことなのか、突き詰めて考えさせるべきだったかなと。提案理由の吟味は足りなかったと思います。それに、提案理由と一緒に、変えたい、変えなくてもいいけど付け足してもいいなど、子どもたちの気持ちをもう少し探つておくべきだったなと。</p>	し  朝の会や帰りの会の意義について、子どもたちなりに考えさせる。  合 (2) どんな内容がよい	朝の会や帰りの会はなぜやのかな？	結局、この提案理由が、集団決定する際のよりどころともなるものでしたから。〈気付き1〉
評価	中心となる教師の立場	ふり返り										
(1) 「自分たちで学級をよくしたい。」という気持ちがあることを確認したい。  ◇朝も帰りも、15分間あること、自分たちで自ら時間と学級経営上必要な確認する。	(3) ◇アンケート結果をもとにえられるようにする。  ◇話合いを通して、話し合いの力を学ぶことができるよう、そつと助言する。	<b>・授業者</b> <p>結論から言えば、ちょっと弱かったなと思います。楽しいってどういうことなのか、突き詰めて考えさせるべきだったかなと。提案理由の吟味は足りなかったと思います。それに、提案理由と一緒に、変えたい、変えなくてもいいけど付け足してもいいなど、子どもたちの気持ちをもう少し探つておくべきだったなと。</p>										
し  朝の会や帰りの会の意義について、子どもたちなりに考えさせる。  合 (2) どんな内容がよい	朝の会や帰りの会はなぜやのかな？	結局、この提案理由が、集団決定する際のよりどころともなるものでしたから。〈気付き1〉										
<b>・授業者</b> <p>子どもたちからそういう意見が出てきていたので安心感はありました。逆にAさんは、絶対変えないと突っ張るのではないかと思っていたのです。まわりの様子を見て受け入れたところで、彼女の成長も分かったし、クラス全体で反省すべき点を入れた方がいいという厳しさが見られたことからも、彼女の成長ぶりを感じました。 〈気付き2〉</p>												

**気付き2**：学級を伸ばしていくために自分が大切にしていることの再確認

→改善1：普段の授業を大切にする。一人一人が学級の仲間であり、お互いに高めあっていく存在であることを意識させていく。

生活の中から議題を見付けることが、できなくなってきたことが感じられる。今後も、時々、時間をとって問題を見付ける目を養っていこう。

評価規準をもう少し整理する必要があった。繰り返し指導する内容もあるので、そこは同じ規準でもいいようだ。

最近、議題ポストに入るカードが少なくなったぞ。今回は、朝の会で時間をとって、全員に出させていこう。2学期の始めに、学級生活を振り返らせる手だてにもでき

毎回全ての点について評価するのには、現実的には厳しいぞ。この話し合い活動のどの場面で、何について評価するのかをおさえておこう。

議題を共有化するための手だてとして、掲示板や学級会コーナーの活用など、情報の発信も大切だ。今回は、事前の共有化が不足していたな。

議題を自分のものとしてとらえるためにも、アンケートなどで、考えをまとめさせておく必要がありそうだ。

今回はどの議題を取り上げていくか、学級が向上するか、みんなの問題かななど、基準をしっかりと伝えていくことが大切だ。

議題案の整理から、処理の仕方まで、ひととおり経験させられた。この経験を全員にさせていこう。

帰りの会などで今までやってきたことは、限られているのではないか？よし、ここは、教師からいろいろなアイデアを出してもよさそうだ。他の先生方に聞いたり、実践例を探したりして、もとに提示できるようにしてお

「話合いのメモ」カードを見るとしっかり自分の意見をもっているぞ。目的をもって、これから取り組む内容を決めていくことが大事になってくるのではないか。

児童は、経験したことを基に意見を言っていた。教師側からの提示は、経験の少ない児童にとっては、やはり大切な。今回のような議題なら、事前の情報収集をもう少し取り入れてもよかったかもしれない。

意見を書いていても、なかなか発言できない子もいる。毎回の話し合いにどう参加したのか確かめるためにも、年間を通して、自己評価カードなどを活用していこう。

### 3 指導計画の展開と授業者個人による「授業の振り返り」を取り入れた授業評価

#### (1) 展開と評価の実際〈3〉

〈指導計画の展開 平成16年10月25日(月) 帰りの会〉(◎司会, ○副司会, ■教師)

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
<p>1 帰りの会で取り組む内容を考えさせる。</p> <p>(1)限られた時間の中でできる内容のものを考えさせる。</p> <p>(2)学級のみんなが伸びていくための内容を考えさせる。</p>	<p>■前回の話合いで、方向は決まったから、内容を決めよう。</p> <p>◎前回、反省という意見が多かったのですが。</p> <p>○結局、クラスとしての反省?</p> <p>◎反省以外のアイデアある人、いますか?</p> <p>■みんなのこの前の意見では、ただ楽しいだけでなく、いいところを伸ばすとか、みんなのことを知らせるとか、いいことたくさん書いてあって。例えば、こんなものもあるよ。(プリント配付)</p> <p>■そしたら、毎日やるものと日替わりでやるものと二つにしたら? 定番メニューと日替わりメニュー。</p> <p>◎賛成意見を発表してください。</p> <p>(以下、略)</p>	<p>A: クイズとかも出ていたから、何か一日の出来事をクイズにして出したらいいと思います。</p> <p>I: 毎日反省じゃ、あきちゃうので、クイズに賛成です。(しばらく沈黙)</p> <p>R: みんながよくなっているんだから、反省は必ず入れて、先生が出してくれたアンケートから選んでいけば・・・?</p> <p>I: これ見ると、出来事を記録していくのもいいんじゃない?</p> <p>Y: 学級の歴史カレンダーがいいと思います。</p> <p>A: でも、毎日やらなくちゃ意味ないんじゃない?</p> <p>R: ぼくは、学級の出来事は、毎日やることにして、曜日ごとにやることを変えるのがいい。</p> <p>全: いいです。</p> <p>U: ぼくは、きょうの出来事を俳句にするのをやってみたいと思います。</p>	<p>帰りの会の意義をふまえた発言だな、いそ。</p> <p>今までに経験のないことも、情報として提供することで、意欲を喚起しよう。</p> <p>いいことに気付いたぞ。意見が出ない時は、教師から提案しよう!</p> <p>選択の基準をおさえているようだ。話し合う理由が分かっているな。</p>
2 帰りの会で取り組む内容を決める。			

#### (2) 「授業の振り返り」での気付きを基にした指導計画の改善の実際

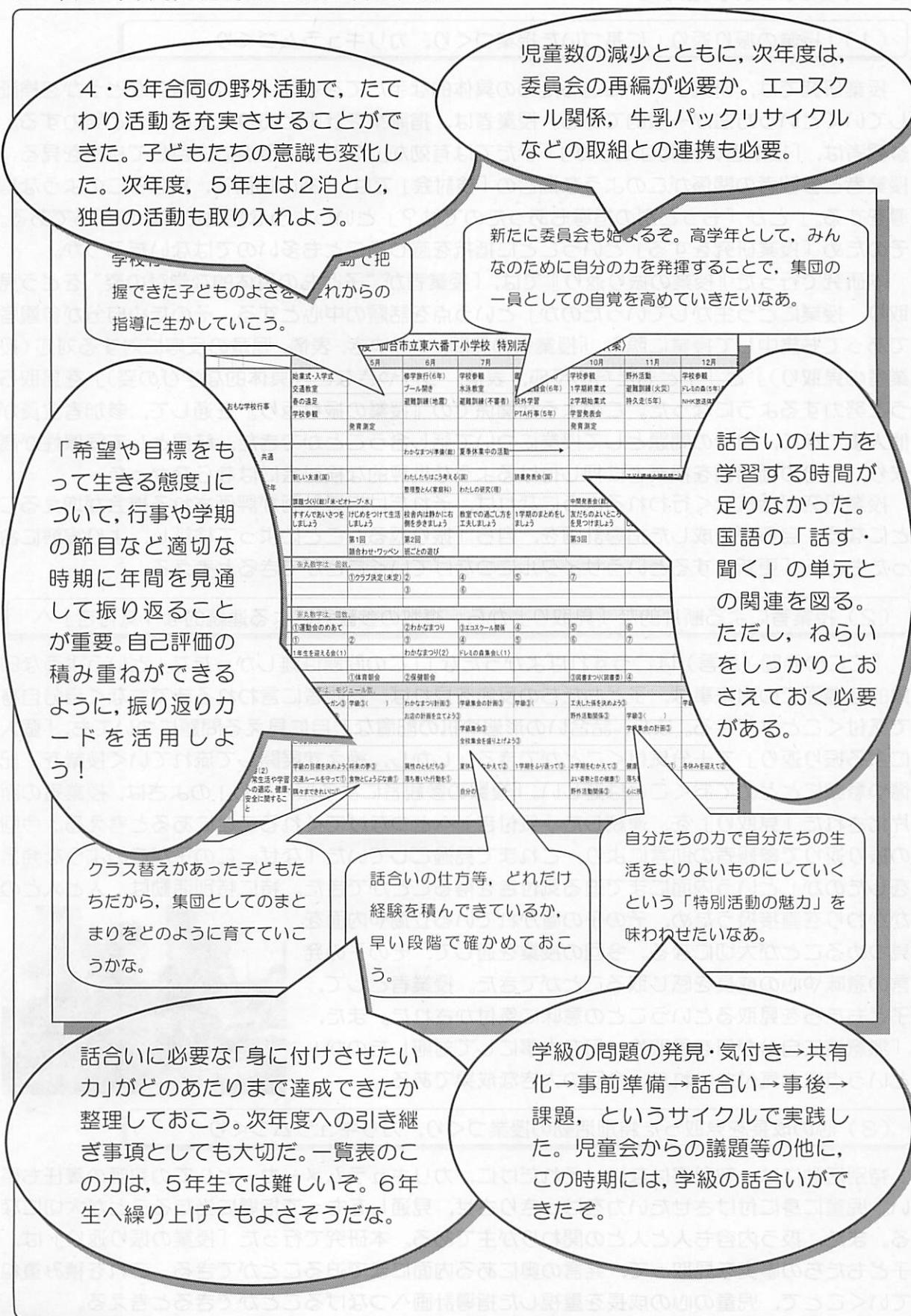
**気付き1** : 経験の不足を補うための情報提供の必要性

→改善1 : 事前に実践例を集めておき、適切な時期に提示する。

**気付き2** : 指導することと子どもに任せることの教師のおさえ

→改善2 : 自治的範囲内か範囲外か、これまでの子どもたちの経験等を整理する。

#### 4 単元（年間）指導計画の更新に向けて



## 5 本研究に取り組んで

### (1) 「授業の振り返り」に基づいた授業づくり、カリキュラムづくり

授業研究では、研究テーマに迫るための具体的な手立てを考え、それが有効かどうかを検証していくという方法が一般的である。授業者は、指導案を計画どおりに進めようと努力する。参観者は、「授業者の発問はどうか」「手立ては有効か」などという点に注目して授業を見る。授業者と参観者の関係がこのような場合の「検討会」では、「あの場面で、私ならこのような指導をする。」とか「もっと別の指導もあったのでは?」というような話合いになりがちである。そのため「授業研究をする」ということに抵抗を感じることも多いのではないだろうか。

本研究で行った『授業の振り返り』では、「授業者が“子どもの具体的な学びの姿”をどう見取り、授業にどう生かしていったのか」という点を話題の中心とする。そのため自分が参観者であっても集中して授業に臨み、「授業者の発問、つぶやき、表情、児童の反応に対する対応(授業者の見取り)」と「子どもたちの反応、表情、つぶやきなど(具体的な学びの姿)」を見取ろうと努力するようになった。このような関係での『授業の振り返り』を通して、参加者全員が他人事でなく、自分の問題として授業について話し合うことができた。結果として同僚性が高まり、自分の価値観を授業者に押し付けるような批評的な検討会にはならなかった。

授業研究が抵抗なく行われるようになれば、それだけ指導計画が評価される機会が増えることになる。自らが作成した指導計画を、自ら「振り返る」ことによって検証し、より実態に合ったものへ「更新」するというサイクルにつなげていくことができると言える。

### (2) 授業者による断片的な「見取り」から、複数の参観者による連続的な「気付き」へ

「ここの発問(助言)はこうすればよかったな」「この問題は難しかったな」というような印象的な場面での出来事は、子どもたちの反応を見れば、参観者に言われるまでもなく自分自身で気付くことはできる。また、話合いの形態や机の配置など目に見える問題についても、「個人による振り返り」で十分気付くことができる。しかし、絶えず展開して流れていく授業を、記憶や意識にとどめておくことは難しい。「複数の参観者による振り返り」のよさは、授業者の断片化された「見取り」を、連続した「気付き」へつなげてくれることにあると考える。今回の振り返りで参観者の助言により、これまで見過ごしていた「なぜ、この子がこのような発言をしたのか」という内面にまで迫る気付きを得ることができた。特に特別活動は、人と人とのかかわりを直接扱うため、その子の置かれている立場や内面を見つめることが大切になる。今回の授業を通して、その子の発言の意味や心の成長を感じ取ることができた。授業者として、子どもたちを見取るということの意味に気付かされた。また、「無意識に自分が何を見取り、何を大事にして対応したのか」という点にも気付かされた。今回の大きな成果である。



### (3) 心の成長を見取った特別活動の授業づくり、カリキュラムづくり

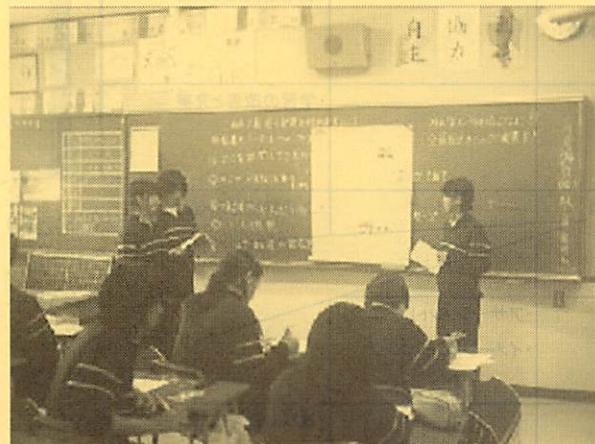
特別活動には、教科書はない。それだけに、カリキュラムメーカーとしての教師の責任も重い。児童に身に付けさせたい力をはっきりさせ、見通しをもって指導に当たることが大切になる。また、扱う内容も人と人の関わりが主である。本研究で行った「授業の振り返り」は、子どもたちの事実を見取って、発言の奥にある内面にまで迫ることができる。これを積み重ねていくことで、児童の心の成長を重視した指導計画へつなげができると考える。

## 中学校 第2学年

この学年は依然自大おで健吾根裡  
一まごのうのチ。ふくじ若ひ、  
こさせぬむ意の目立人一人

云想風雨のへえでアトに身人一  
ア健吾の主自。ここの高  
い志せんづれ工

### 学級活動の実践



## 仙台市立東仙台中学校

**前田 政夫**

アと強ひ是迄開人立の更頑固の健安  
吾上國美。こもろと合ひ難否見知の人立づ立自  
こもるち處罰西ヨーロッパのヨーロッパ

ア木お心子の健吾根裡  
ア健吾の健吾根裡。由本主ひも  
こもるおいては競争をも遠隔

## 1 年間指導計画の作成

### (1) 授業者の思い

一人一役以上でクラスへの所属感を高めよう。自主的に活動できるように工夫しないといけない。

野外活動では大自然から多くのことを学んでほしいな。そのためにも一人一人に目的意識をもたせよう。

月	学校・生会行事	第2学年 学級活動年間		
		学級や学校の生活の充向上に関すること	(2)個人及び社会の一員として全に関すること	健康や安全
4月	・入学式 ・対面式、部紹介 ・委員会任命式 ・開校記念日 ・免育測定 ・内科検診	・学級目標と組織づくり ・2年生としての決意	・新規グループ ・成为する自画像	・身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成、性的な発達への適応、学校給食と望ましい食習慣の形成など
5月	・野外活動 ・生徒総会	・野外活動に向けて	・私が学校に行く理由	・働くということ
6月	・選手激励会 ・市中総体 ・中間考査	・学級生活の見直し	・私の発達曲線①	・期末考査に向かって
7月	・合唱祭 ・家庭訪問 ・学習指導訪問 ・県中総体 ・全校集会	・合唱祭への取り組み ・1学期前半の反省		・心と身体の健康
8・9月	・全校集会 ・期末考査 ・文化展示発表会	・文化展示発表会への取り組み	・ひと夏の経験 ・キャップハンディ体験	・職場訪問について
10月	・第1学期終業式 ・新人教 ・第2学期始業式 ・継走祭	・継走祭への参加	・私の発達曲線②	・学習の改善と充実
11月	・中間考査 ・科学館学習 ・生徒総会		・悩みの調査と相談 ・私のプレゼント	・上級学校を知る
12月	・教育相談 ・全校集会		・冬休みの計画	・アサーショントレーニング ・イメージトレーニング
1月	・全校集会	・新年の抱負	・考え方をチェンジ	・進路計画を立て
2月	・期末考査	・修学旅行を計画しよう	・友情の吟味	・卒業生に学ぶ
3月	・予頃会 ・卒業式 ・学年保護者会 ・修了式	・最後への心構え	・Xさんからの手紙 ・最高学年への準備 ・1年間を振り返って	

野外活動の様子をふまえて、より主体的に体験活動に取り組むよう意識付けをしよう。

自分の役割の達成度や友人関係を振り返って、自分と他人の成長を認め合うこと、集団生活の中でのルールやマナーを再確認させよう。

3年生になってからあわてないように、きちんと段階を積み上げていこう。

中学校生活の折り返し地点だ。悩みや不安もあるだろうが、夢や希望をもって生活させたいな。

## (2) 1年間を通してこんな力を育てたい！

〔活動内容（3）「学業生活の充実、将来の生き方と進路の適切な選択に関すること」に関する内容〕

題材名	月日	ねらい
働くということ	5/11	<p>あこがれの職業や身近な人の職業について知っている知識を生かす。</p> <p>多くの職業の種類や内容・特色をまとめる活動を通して、職業・勤労に関する理解を深め、自分の将来の生き方をさらに真剣に考える態度を育てる。</p>
定期考査に向けて	6/10	<p>これまでの定期考査の経験や結果を基に、学習方法をふまえた個人目標を設定させ、学習のポイントを理解させながら、一人一人の生徒が充実感・成就感を味わうことができるよう、定期考査の準備をさせる。</p>
職場訪問について	8/31 9/24	<p>人々が実際に働いている職場を見たり、働いている人から話を聞いたり、一緒に仕事をしたりすることによって、働くことの意義を考えさせ、職業に対する理解を深めさせる。</p>
学習の改善と充実	10/20 10/26	<p>将来の夢や希望の実現に向けて学ぶことの意義について理解させ、目的をもって学習に取り組もうとする意欲を高めさせる。</p>

中学校学習指導要領 解説一特別活動編一  
 p 48 (ア) 学ぶことの意義の理解  
 p 49 (イ) 自主的な学習態度の形成と  
 学校図書館の利用に関する  
 内容

中だるみの2年生と呼ばれないよう、自分の進路を意識させよう。9月には職場訪問もあるぞ。

結果だけにこだわるのではなく、過程を大切にさせよう。反省が次に生きるようにアドバイスをしよう。

体験から多くを学んでほしいな。インタビューだけにならないように、体験をさせてもらえるよう、しっかりとお願いして回ろう。



中学校生活も折り返し地点だ。「学び」をしっかりとらえさせて、学びの土台をしっかりと固めていこう。

上級学校を知る	12/ 9 12/16	将来の進路希望を考えさせることで、今やるべきことを自覚できるようにする。また、上級学校の種類や内容等の情報を収集、活用して、当面する進路に関する理解を深めさせる。	みんな高校進学を考えているだろうけど、情報はまだ少ないだろうから、この授業で考える幅を広げてあげよう。
進路計画を立てる	1月	身近な人々の生き方や生活設計を参考に、自分の将来の生活設計に当たって、大切にすべきことを考えさせる。さらに、自分の将来の生活設計を考えることにより、進路計画をより真剣に見つめようとする意欲や態度を養う。	まだまだ夢であってもかまわないが、これまでの授業を総合して、自分の将来設計を考えさせよう。
卒業生に学ぶ	2月	身近な先輩から進路についての情報を収集し、いろいろな進路について比較・検討・分析して理解を深めさせ、自分の進路について、より真剣に積極的に考えようとする態度や意欲を養う。	もうすぐ最上級生だ。先輩の生の声を参考に、自分の進路について考えさせよう。前向きな気持ちをもたらしたいな。



## 2 指導計画の作成

### (1) 「学ぶことの意義の理解」に関する指導計画の例〈1〉

#### 学級活動指導計画

平成16年10月20日  
東仙台中学校 2年1組  
指導者 教諭 前田政夫

1 題材名 「学習の改善と充実」 [活動内容(3)【2時間扱い】]

2 ねらい

将来の夢や希望の実現に向けて学ぶことの意義について理解し、目的をもって学習に取り組もうとする意欲を高める。

3 評価規準

関心・意欲・態度	(1) 自分の将来や今現在の学習に関心をもち、自分にふさわしい学習方法を見付け、実践しようとしている。
思考・判断	(2) 将来の夢や希望の実現に向けて、学習は自分にとってどんな意味があるのかを考え、判断している。
技能・表現	(3) 友達や大人から学習に必要な情報を収集して活用し、自分の学習方法の改善に生かすことができる。
知識・理解	(4) 学ぶことの意義を知り、自分の個性や適性を理解している。

4 本時の指導 「人は何のために学ぶのか」(1/2)

① ねらい

学ぶことの意義を考えることにより、主体的に学習する態度や生涯にわたって学び続けようとする意欲を高める。

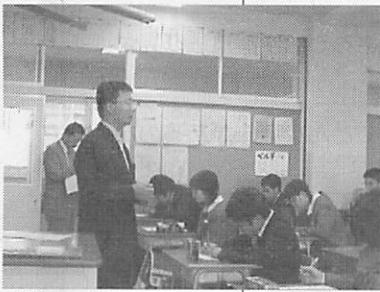
② 指導過程

	ねらい	評価	主な発問	
導入	学ぶことの意義を考えるために意識付けを行う。	(2)	人は何のために学ぶのだろう。	学ぶことをどのようにとらえているだろう。まずは確認してみよう。
展開	人の学んでいる場面をイメージすることにより、多彩な学びの場面・種類に気付かせる。	(3)	人がどんな姿のとき、学んでいると感じますか。	個人で、グループで、いろいろな学びの場面を考えさせよう。できれば個人で多くの場面を出させたい。
		(3)	例：おばあさんの生け花教室 前田先生の教材研究 ◇個人で考えたあとグループで話し合い、一人1つカードに記入させ、提示させる。	いろいろな学びの場面はあっても、その特徴はしほられることに気付かせたい。
まとめ	「学び」を特徴ごとにまとめ、自分の求める「学び」はどのようなものなのかを考えさせる。	(3)	「学び」をなかま分けしてみよう。 ・趣味や楽しみ ・専門性の追究 ・弱点克服 ◇自分のカードをなかま分けさせる。	目の前の進路だけでなく、一生学び続けていくことに気付かせたい。これからの目標をよりはっきりとさせよう。
		(2)	人は何のために学ぶのだろう。 (再発問)	

## (2) 指導計画の展開と複数の参観者による「授業の振り返り」を取り入れた授業評価

## ① 展開と評価の実際

&lt;指導計画の展開 10月20日(水) 5校時 (1/2ページ)&gt;

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
学ぶことの意義を考えるための意識付けを行う。	人は何のために学ぶのだろう。	<p>発表者5名 K: 将来を豊かにするため  S: 入りたい高校に入るため  M: 現代社会を生き抜くため  R: 未来のため  M: 働くため  プリントから抜粋 Y: 試験のため  Y: いい高校、大学、会社に入るため  N: 将来就きたい仕事に就くため  M: 働いてお金を稼ぐため。  Y: 学んだことを普段の生活や将来就く仕事に生かせるから  K: 自分のため  R: 社会に出て困らないように  D: 生きていくため  N: 学ばないと何も分からなくて何もできないから  T: 生活していくため  S: 人生を楽しむため</p>  	<p>進学や就職のことも出たけれど、生きることを書いている子も多いなあ。</p>

## 〈指導計画の評価〉 (1/2ページ)

●指導主事 ○参観者

支援者・参加者	授業者	気付き
●今日の課題「何のために学ぶのか」を提示し、プリントを配って、自分の考えを書いてみてくださいということで、活動が流れていきますが、1時24分から机間巡回を始めます。巡回で何を見たいと思っていましたか？	・事前調査一切なしでいきました。こちらの考えている部分としては、「進学するため」「仕事に就くため」とか、今のこと書いてくれないかなとか考えていました。学ぶというと、学校の勉強から抜けきれない子たちが結構多くて、そういう意見が多いかなと予想していました。あとはどんなことを書いてくるのか探しながら、全員に一言書かせたいと考えていました。	
●ここは、事前調査をしていなかったということだったので、子どもたちの学ぶということについての実態のとらえをしたかったというのがねらいですね？	・イメージしていたよりは、進学とか就職から離れていたので、生き方に近い答えの子どもたちもいて、最後に書かせたいと考えていたことを最初に書いている子がいたので、あつと思いましたが、進学ということを書いているのは誰かをチェックして、それを声に出して言いたくて。	
●どちらかというと学ぶということについて、狭い意味でとらえている子どもを見付けたかったということですか？	・そうですね。	事前調査が必要だった。そうすれば学ぶことについてもっと深く考えさせることができたな。
●この机間指導で、先生は子どもの実態を把握して、学ぶということについて広くとらえていた子が予想より多くいたということですか？ ○思ったより、深く考えていた子については、このとき、どんなふうにしていくかと思っていましたか？	・そうですね。 ・次の学びの姿を発表するところで、広い意味でとらえていた子どもたちを先導役にしたいと考えていました。その子たちに対してとなると弱くなるんですけど。	
○当初心もくろみだと、最初にどちらかというと、浅い価値観が出てきて、いろんな活動があって、授業の最後では高まった価値観があればいいなということだったと思うんですが、ここで、現代社会を生き抜くためとか、真に迫る言葉が出てきているんですが、このとき、早いな、ここで出るのはまだ早いなというような感覚はありましたか？ ○最初の時点で、先生は学ぶということについて、子どもたちは進学する、将来働くためという程度で押さえ、だけれども、もっと学びの本質とか、学ぶってどういうことなのか、教師側の学びの押さえ、先生の学びのとらえが、どのくらいいっぱいあって、子どもたちにいろんな学び方があって、次の時間、だから勉強していくという意欲につながるような、学びの種類、本質、特徴を、先生は最終的に押さえて子どもたちに出させたかったのかなってずっと思っていました。	・あれも最終的にいく部分なので、授業の先のことを考えると、入れておきたい意見でした。狭いところから広いところへいきたい。そのとき、あの意見が生きればという思いがありました。 ・学びの本質・特徴の部分については、学びとはなんぞやというところよりも、いろんな人が何かを吸収して、一歩上へ向上していく、そういうのを出させたいと考えていました。何か学べば自分が成長できていく。一歩階段を上ることが学びのイメージです。	質問に対しての答えになつてないぞ。自分の学びの押さえが不十分だったな。

〈指導計画の展開 10月20日(水)〉(2/2ページ)

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
人の学んでいる場面をイメージすることにより、多彩な学びの場面・種類に気付かせる。	<p>人がどんな姿のとき学んでいると感じますか。</p> <p>■グループで話し合ってみよう。</p> <p>■一人一枚カードに書いて黒板に貼ってください。</p>	<p>D: 生徒が先生の話を聞いているとき R: 自分が学校の授業を受けているとき N: 母が、英語教室に通って英語の勉強をしているとき S: 弟がコーチからサッカーを教えてもらっているとき K: 赤ちゃんが遊んでいるとき H: 大人が働いているとき D: 教育実習生が実習をしているとき S: 部活の後輩が先輩からバッティングを教わっているとき S: 保育士が子どもと接しているとき N: 女の子が母親に料理を教えてもらっているとき M: プロ野球選手が技術を教えてもらっているとき A: 自分が失敗したとき Y: おじいちゃんがコンピュータ教室に行っているとき</p>	<p>例は出したけどなかなか書けないな。そろそろ班で話し合せよう。</p> <p>だいぶ書けてきたからそろそろ黒板に張り出させよう。</p> <p>全員の意見を発表してあげよう。</p> <p>時間が無くてカードの仲間分けはできないな。</p>
これまでの過程をもとに、学ぶことの意義をもう一度深く考えさせる。	人は何のために学ぶのだろう。	A: 生きるため、自分の力を向上させるため S: 他の人にまた教えるため、人生を楽しむため	

## 〈指導計画の評価〉(2/2ページ)

●指導主事 ○参観者

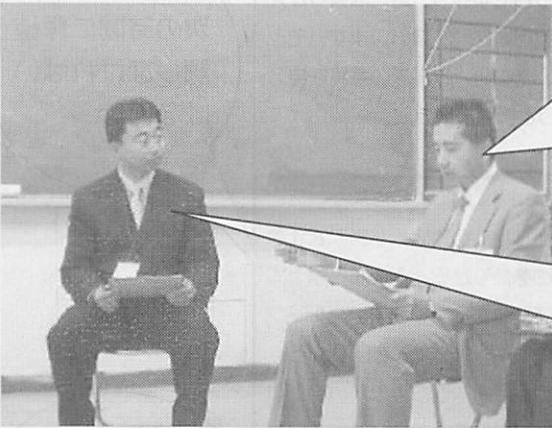
支援者・参観者	授業者	気付き
●先生のもくろみとしては、自分の考えを書くのが苦手だという子どもに対し、友達の考えを手掛かりに自分の考えをつくっていかせたいということでした。その点についてはどうでしたか。	・気になっていた子は、Mさんでした。文章を書くのが苦手なので。最終的にハンドボールのこと、自分の部活のことを書いていました。斜め向かいのNくんが、野球の話から、俺バスケで、と言い、それをMさんに言っていたので、友達の意見が伝わっているなと思いました。	
●1時50分から張り始め、32人全員張り出しました。全員張り出させようと当初から考えていましたね。そのねらいは何でしたか。	・一人一人に活動させたい、自分の意見をみんなの目の前に出させたい、見てもらいたい、自分の意見を他の人に伝え、種類が増えればいいかなと考えていました。	
●学びの場面の種類を増やしたい。気付かせたいというねらいもあったということですか。	・そうですね。だから、いいなと思うものを写してとか、なるほどと思ったことを書いてねと言いました。写させる計画はありませんでしたが、時間差が出来てしまつてしまい、暇な子がいっぱいいて、これは無駄な時間になってしまふと思っていました。次に仲間分けもなくちゃいけない、どうしようか、今の作業を続けるとまとめる段階で混乱するかな、などと決めかねていました。仲間分けはこっちでやろう。本当は張りかえさせてと考えていたけれども時間がない。まずはいそということもあったので、その分、みんなの意見を自分のプリントに残させようと思いました。	次の時間に再確認しなければいけない。
●時間が足りなくなった理由は、どこにありますか?	・もっと学びの場面の種類が早く出てくればよかったと思うんですが、個人で書かせたときに、本当に進まない。1つか2つで、あのあたりから、うーんと思っていたのですが、個人の時間を大切にしたい。グループにすれば写す。それでこんな時間になってしまった。	
●カードの仲間分け、授業前の先生の頭の中ではかなり大きな活動としてとらえていたのですか?	・自分を伸ばす、弱点を克服するなどに分けたいなと思っていた。そうすると、いろんな学びはあるけれども、その中で、自分の学びにいく段階で、得意なところを伸ばすとか、苦手なところを頑張る勉強とか、学びの種類・特徴を生かせるかなと言うところもあつたので、やりたいと考えていました。	やっぱり事前調査で生徒の実態を把握しておくべきだった。 反省。
●やりたいと思っていたことだったけれども、時間的なところで今日はできなかった。その後はどうでした?	・計画を立てている段階では、ポンポンといくかなと思っていたが、いかなかつたのは、子どもをとらえていなかつた。私の甘い部分でした。	
●2時1分。いろんな学びの種類があったんだけれど、もう一度聞きます。人は何のために学ぶのだろう、と先生は言いました。子どもたちが書いた内容は期待していた内容でしたか?	・生きる、生き抜くという言葉は多かったです。Yさんの向上、これも含めて入れたいなど。ああ、これはよかったです。	

② 「授業の振り返り」での気付きをもとにした指導計画の改善の実際

**気付き1**：事前に生徒の実態を把握しておくことの大切さ

→ 改善1：事前にアンケート等の実態調査を行い、調査内容を授業に生かす。

事前調査で活動内容を削減できるので、ゆとりをもって授業を展開させる。

授業	<p>「人は何のために学ぶのだろう」と発問した場面</p> 	<p>学びを狭く（授業や受験）ととらえている生徒が多いだろうと考えていたけれど、実際は広くとらえている生徒が予想より多くいるな。</p>
振り返り	<p>授業者と支援者の対話の場面</p> 	<p>支援者：この机間指導で、先生は子どもの実態を把握して、学ぶということについて広くとらえていた子が予想より多くいたということですか？思ったより、深く考えていた子については、このとき、どんなふうにしていこうと思っていましたか？</p>

授業者：そうですね。次の学びの姿を発表するところで、広い意味でとらえていた子どもたちを先導役にしたいなと考えていました。その子たちに対してとなると弱くなるんですけど。

気付き1を受けた指導過程の修正

② 指導過程

	ねらい	評価	主な発問	振り返り
導入	学ぶことの意義を考えるための意識付けを行う。	(2)	人は何のために学ぶのだろう。	
展	人の学んでいたいイメージする、多彩な学・種類に気付く。			<p>修正点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事前に「人は何のために学ぶのだろう」ということについて考えさせておき、授業者はその内容を把握しておく。</li> <li>調査結果を授業者が提示する（生徒数名に発表させる）ことにより、多様な考えがあることに気付かせるとともに、導入段階の時間を短縮させる。</li> </ul>

## (3) 「学ぶことの意義の理解」に関する指導計画の例〈2〉

## 学級活動指導計画

平成16年10月26日  
東仙台中学校 2年1組  
指導者 教諭 前田政夫

1 題材名 「学習の改善と充実」 [活動内容(3)【2時間扱い】]

2 ねらい

将来の夢や希望の実現に向けて学ぶことの意義について理解し、目的をもって学習に取り組もうとする意欲を高める。

3 評価規準

関心・意欲・態度	(1) 自分の将来や今現在の学習に関心をもち、自分にふさわしい学習方法を見付け、実践しようとしている。
思考・判断	(2) 将来の夢や希望の実現に向けて、学習は自分にとってどんな意味があるのか考え、判断している。
技能・表現	(3) 友達や大人から学習に必要な情報を収集して活用し、自分の学習方法の改善に生かすことができる。
知識・理解	(4) 学ぶことの意義を知り、自分の個性や適性を理解している。

4 本時の指導 「学習方法の見直し」(2/2)

① ねらい

自分の今までの学習習慣を振り返り、改善すべきことや効果のあったことなどについて考える機会をつくることで、意欲的に学習に取り組む心構えと態度を育てる。

② 指導過程

	ねらい	評価	主な発問	
導入	前時の「学ぶことの意義」を確認する。	(2)	前時の「人は何のために学ぶのだろう」の学習についてみんなの考えを確認してみよう。	前時にじっくりと確認できなかった「学ぶことの意義」を最初に確認しよう。学びの場面や家庭学習の様子も提示して、今日の授業の意識付けをしっかりしたいな。
展開	学習に対する自分の特性を振り返らせる。	(4)	自分の個性・適性を確認してみよう。 集中力、計画性、粘り強さ、得意・不得意教科	モデル生徒の学習方法を考えさせて、自分の場合を考える際の参考にさせよう。
	グループでの話合いを通して、具体的な学習方法を考える手立てを見いだす。	(4)	個性・適性別の学習方法を考えてみよう。 △モデル生徒の学習方法をグループごとに話し合い、発表させる。 △多くの学習方法を提示する。	
まとめ	自分に適した学習方法を考え、学ぶ意欲を喚起させる。	(1)	自分の学習方法を修正してみよう	自分の個性・適性をふまえて具体的な学習方法を考えさせよう。今日からできること、継続してできることを考えさせたいな。

## (4) 指導計画の展開と複数の参観者による「授業の振り返り」を取り入れた授業評価

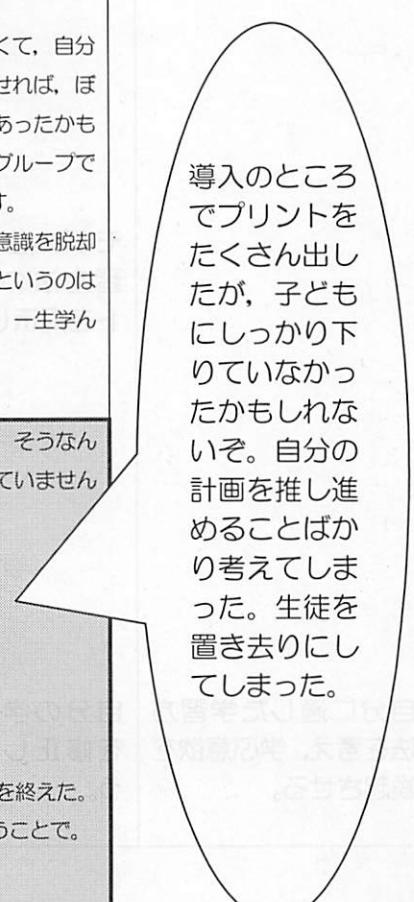
## ① 展開と評価の実際

&lt;指導計画の展開 10月26日(火) 6校時(1/2ページ)&gt;

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
前時の学習の整理をし、本時の学習のねらいにつなげさせる。	前時の「人は何のために学ぶのだろう」の学習についてみんなの考え方を確認してみよう。	プリントに目を通す  	<p>違うところを見ている生徒がいるぞ。全員の考えに目を通せよう。</p>
	■学習についての調査結果を見せる。	プリントに目を通す  	<p>一生学んでいくけれど、今の自分は何をしなければならないのかをよく考えさせよう。</p> <p>時間が無くなるからどんどん進めよう。</p>

## 〈指導計画の評価〉(1/2ページ)

## ●指導主1 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
<p>●前時と本時のつながりを考え、先生は、「一人一人の意見を書いています。読んでみましょう。」と、資料を配ります。そして、机間巡回しながら、「自分と同じ考え方や違う考え方があると思います。」と、説明をし、プリントを読ませていました。そのときは、まず自分の考え方がどこにあるか見付けさせ、次に、他の人の考えにはどのようなものがあるのか考えさせたかった。両方を狙った活動でしたか。</p> <p>●子どもたちは、この時間に初めて目にしたのですか。</p> <p>●「今、何をするの?」「前にアンケートをとったのを見てみよう。」「毎日勉強するのが4人、一週間のうち半分くらいが11人、ほとんどしないのが2人。」と、先生がずっと説明されましたが、予定どおりでしたか。子どもに資料の読み取りをさせるなどのお考えはなかったのですか。</p> <p>●当初の予定どおり、先生の説明で進めたと言ふことですね。</p> <p>○先生の指示がずっと続いて、子どもたちの発表はあまりなかったけれど、何か理由はありましたか。</p> <p>○前時の、学ぶことの意義を確認する。これを自分の個性・適正を確認するという活動の前にもってきた、先生のもくろみはなんですか。</p>	<p>・前回、黒板に貼りだしただけのカードの仲間分けをしたものを見せてもらおうと思いました。学びの特徴ごとのまとめを目で見せたかった。</p> <p>・はい、そうです。</p> <p>・ぱっと見せるとすっとしてしまうかなと。1つずつ言えば、そこに目がいってくれるかな。1つ1つ見せたかった。</p> <p>・1つ、1つ、絶対に読むぞというところではなかったのですが、表裏だったので、裏見ている子どもたちもいたので。</p> <p>・ここまで、もともと発表させる考えはなくて、自分の問題ということでお話をいたかった。発表されれば、ぼくも、そう。私も、そう。そういうことがあったかもしれません。時間も気になっていたので。グループで話し合うところに時間をとりたかったのです。</p> <p>・死ぬまで学ぶのだ、やらされる勉強という意識を脱却させたい、一番最初に大きく見せて、学ぶというのは一生やっていくんだよということを強調し、一生学んでいくことも確認したかったです。</p> <p>・実際どこまで考えてくれたかは、不安です。ううんななという雰囲気も感じました。確認はしていませんが。自信はありませんか。</p> <p>・投げ掛けもしていませんし。</p> <p>・そうですね。</p> <p>・まずは用意したものについて、一通り説明を終えた。どこまで深かったかは・・・。終えたということで。</p> <p>・はい。メインはここからだという気持ちでした。</p>	<p>●指導主1 ○参観者</p>  <p>導入のところでプリントをたくさん出したが、子どもにしっかり下りていなかつたかもしれないぞ。自分の計画を推し進めることばかり考えてしまった。生徒を置き去りにしてしまった。</p>
<p>○一生学び続けていくのだということを確認したかったのですね。それは前時ではなく十分だったから、この時間の冒頭でやろうということですね。やってみて、どうでしたか?</p> <p>○この辺は、しっかり確認しなかったのですね。</p> <p>○でも、そこは、先生、確認したかったところなんですね。</p> <p>○この間5分ほどありましたが、次の個性・適正の確認に移ろうと判断した根拠は何ですか。いけると思ったから、次へ移ったんですよね。</p> <p>○自分の言わなきやいけないことは全部言ったと、だから次いくぞということですね。</p>		

〈指導計画の展開 10月26日(火)〉(2/2ページ)

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
学習に対する自分の特性を振り返らせる。	自分の個性・適性を確認してみよう。	自分の個性・適性についてプリントに記入する。	全員に空欄無く記入させよう。
グループでの話合いを通して、具体的な学習方法を考える手立てを見いだす。	個性・適性別の学習方法を考えてみよう。	モデル生徒の学習方法をグループごとに話し合う お勧めの学習方法のプリントを参考に、モデル生徒の学習方法を記入していく。	情報は少ないけれど、プリントを参考にすれば何とか書けるだろう。
	モデル生徒の学習方法のプリントを掲示しよう。	教室の4か所のプリントを掲示し、各自プリントを見学する。	不得意なところを中心に書いてほしいな。
自分に適した学習方法を考え、学ぶ意欲を喚起させる。	自分の学習方法を修正してみよう。	具体的な学習方法を記入する。	自分のことを考えるとの参考にさせたいな。 あら、学習方法じゃなくてモデル生徒の話題が多いなあ。

## 〈指導計画の評価〉(2/2ページ)

●指導主事 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
○気になったのは、窓際のグループ。D君、H君、Rさん。優秀な子たちなんだけれど、なかなか書けなかった。量的に書けそうな気もするんだけど、なぜでしょうね。	<ul style="list-style-type: none"> <li>私が提示しただけれど君、だれだれさんをイメージできなかった。どんな子がイメージできなかつたから、どんな方法をアドバイスしていいのか分からなかつた。あまりにも他人ごとすぎて、逆にまじめに考えて、どう言ってあげたらいいのか分からなかつたのだと思います。</li> </ul>	
○モデルの人柄をもっと提示すればよかったということですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入れようと思ったところではあったんですけど、入れきれませんでした。</li> </ul>	
●さっき、話題に出しましたが、現実味をおびた人物像を子どもたちがつくっていく活動がほしかったということですか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>私の方で、もっと提示してあげればよかったかなと思います。</li> </ul>	
○クラスの子のデータを使うということは考えなかつたのですか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>こちらのイメージですね。</li> </ul>	
○架空の人物ではなく、このクラスで、こういう人がいて、ちょっと相談したいことがあるんだけれどという感じで。クラスのこのデータを使おうという気はなかつたの？	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人を出すわけにはいかない・・・。そうですね。それ、よかったです。</li> </ul>	
○個性・適性、問題点、技術的なものと、いろいろな角度から提示していますよね。これを特にではなく、総合的に、関連させて考えさせるとか？ 少なくとも、3つありますよね。この3つを総合的に組み入れて書かせたかったのか、最初の話だと、不得意な教科を克服するための具体例を一番に書いてほしいのですか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>不得意教科克服が一番多いだろうと予想したので、そこを書いてほしかった。具体的なものを書いてほしかった。問題点と子どもが書いたアドバイスをつないでいければなと思っていました。弱点・問題点、それを克服するための具体的なものを書いたときに、自分でできるかなというときには、個性・適性につながるだろうと思っていました。</li> </ul>	
○自分のことについてはなかなか書けないだろうからという先生の見通しがあって、その前段階として、練習という意味で架空の人物を使い、他人ごとで考えさせたわけですよね。それは、もくろみどおりいきましたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>架空の部分のあいまいさが、子どもたちの考えを深めていくときのネックになったと感じています。</li> </ul>	
●モデルを設定するということは、子どもたちは自分のことを振り返りやすいし、作業として入れましょうということにしました。そのとき確認したことは、自分の適性・個性に合った学習方法を考えてみようといって、設定するということで計画していました。先生の先ほどの言葉を借りると、特に、自分のことをモデルから書いていくときに、個性・適性でとらえなくてもよい、量だということでした。架空か問題なのか、モデルか問題なのか、今、終わった段階での先生の気持ちは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>架空の人物を設定したのは、いろいろな考えが出てきてよかったですんだと思っています。ただ、架空の内容を、もっと吟味していればよかったです。</li> </ul>	<p>モデルにキャラクター性をもたせれば、個性や適性からの具体的な改善策が出たのではないかと思う。</p>

② 「授業の振り返り」での気付きを基にした指導計画の改善の実際

**気付き2**：導入時の資料提示場面における、生徒の理解度・定着度の確認の甘さ。

→ 改善2：指導過程をこなすことに没頭せず、常に生徒理解に努める。

<p>授業</p> <p>プリント資料を提示している場面</p>	<p>前時に確認できなかった部分と、事前調査の結果をプリントにまとめたし、たくさんあるからどんどん進めるぞ！</p>
<p>振り返り</p> <p>授業者と支援者の対話の場面</p>	<p>支援者：一生学び続けていくのだということを確認したかったのですね。それは前時では不十分だったから、この時間の冒頭でやろうということですね。次の個性・適性の確認に移ろうと判断した根拠は何ですか。いけると思ったから、次へ移ったんですね。</p>
	<p>授業者：実際どこまで考えてくれたかは、不安です。まずは用意したものについて、一通り説明を終えた。どこまで深まったかは・・・。終えたということで。</p>

気付き2を受けた指導過程の修正

② 指導過程

	ねらい	評価	主な発問	振り返り
導入	前時の「学ぶことの意義」を確認する。	(2)	前時の「人は何のために学ぶのだろう」の学習について、みんなの考えを確認してみよう。	
展	学習に対する性を振り返らせ			

修正点

- ・ 資料を提示しながら、または提示した後、生徒の理解度を発表・挙手等できちんと確認する。
- ・ 朝の会等で資料をあらかじめ提示しておく。

## 気付き3：モデルの個性や適性といったキャラクター性を伝える資料の準備不足

→ 改善3：モデルの提示方法を工夫する。

授業	<p>モデル生徒の学習方法を考えている場面</p>	<p>具体的にアドバイスできない生徒もいるなあ。モデル生徒の情報量が少なかったかな。</p> <p>このモデル生徒はどんな人なんだろう？</p>
振り返り	<p>授業者と支援者の対話の場面</p>	<p>支援者：自分のことについてはなかなか書けないだろうからという先生の見通しがあって、その前段階として、練習という意味で架空の人物を使い、他人事で考えさせたわけですよね。それは、もくろみどおりいきましたか？</p> <p>授業者：架空の部分のあいまいさが、子どもたちの考えを深めていくときのネックになったと感じています。架空の人物を設定したのは、いろいろな考えが出てきてよかったんだと思っています。ただ、架空の内容を、もっと吟味していればよかったと思います。</p>

## 気付き3を受けた指導過程の変更

## ② 指導過程

	ねらい	評価	主な発問	振り返り
導入	前時の「学ぶことの意義」を確認する。	(2)	前時の「人は何のために学ぶのだろう」の学習について、みんなの考え方	
展開	学習に対する自分の特性を振り返らせる。	(4)	<p>変更点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデル生徒に、もっとキャラクター性をもたせる。           <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ クラス内の生徒を参考に、モデルをつくる。</li> <li>◇ 個性・適性を分かりやすく記載する。</li> </ul> </li> </ul>	
開拓	グループでの話し合いを通して、具体的な学習方法を考える手立てを見いだす。	(4)	<p>得意</p> <p>個性・適性別の学習方法を考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ モデル生徒の学習方法をグループごとに話し合い、発表させる。</li> <li>◇ 各々の学習方法を提示する</li> </ul>	

### 3 指導計画の展開と授業者個人による「授業の振り返り」を取り入れた授業評価

#### (1) 展開と評価の実際

〈指導計画の展開⑤ 10月29日(金) 帰りの会〉

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
前時の内容の確認と、修正した自分の学習方法の実施状況を確認する。	前時に学習方法の修正を行いました。その実施状況を確認します。	実施した生徒：28人 実施しなかった生徒：6人	実施しなかった生徒には個別で話をしなくてはいけない。
前時の授業をふまえて、2学期の学習面の目標を考えさせる。	2学期の学習面の目標を考えよう。	M：自分で立てた目標を絶対に成し遂げる  T：苦手教科の克服  K：これからはもっと頑張る	もっと具体的に書かせよう。
	どんな勉強をするのか具体的に書こう。	M：重要語句や単語をたくさん書いて覚える  S：試験の問題用紙をとっておいて、何回も繰り返して解く。  D：できるだけ苦手教科から勉強を始め、それから得意教科に移る。  R：どの教科もワークは繰り返して何度もやるようにする。  M：未記入	まだ書けない子には、放課後に応じよう。

#### (2) 「授業の振り返り」での気付きをもとにした指導計画の改善の実際

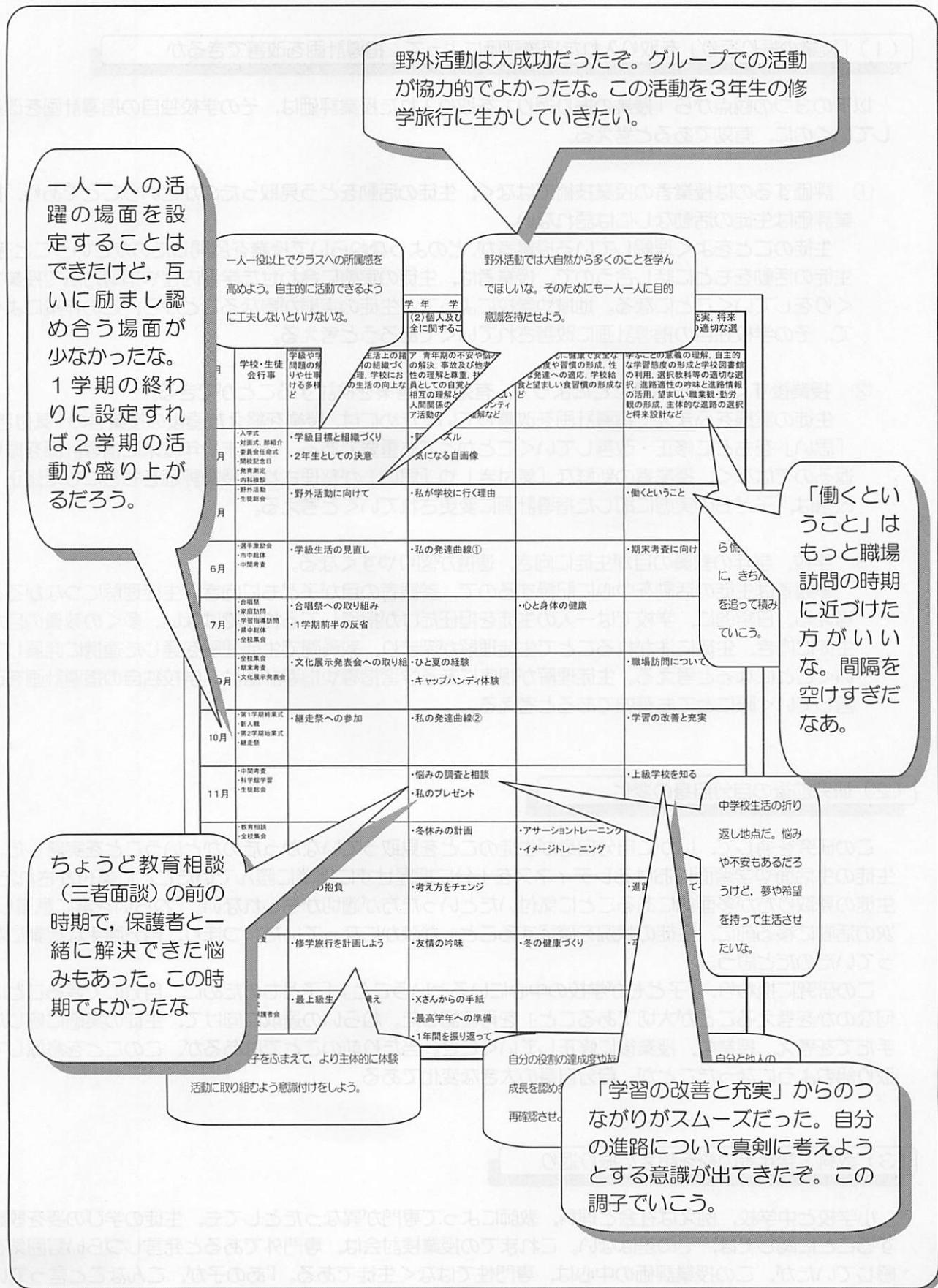
**気付き4**：目標を書けなかった生徒への対応の遅さ

→ 改善4：書けていた生徒の目標を発表させるなど、具体的な例を聞かせる。

#### (3) 気付き4を受けた放課後における個別指導

目標を書けなかった生徒に対し、放課後に個別指導を行った。書き終わった生徒の目標を例に、自分でも実行できそうな目標を参考にさせたり、今現在の学習への取組の様子を話させたりしながら、改善点をアドバイスして、全員に目標を設定させた。

#### 4 年間指導計画の更新に向けて



## 5 本研究に取り組んで

### (1) 「授業の振り返り」を取り入れた授業評価によって、指導計画を改善できるか

以下の3つの観点から「授業の振り返り」を取り入れた授業評価は、その学校独自の指導計画を改善していくのに、有効であると考える。

- ① 評価するのは授業者の授業技術ではなく、生徒の活動をどう見取ったのかということであり、授業評価は生徒の活動なしには語れない。

生徒のことによく理解している授業者が、どのようなねらいで授業を展開したのかということを、生徒の活動をもとに話し合うので、授業者は、生徒の実態に合わせた学習内容や指導方法で授業づくりをしていくことになる。地域や学校によって、生徒の実態が異なることから、この作業によって、その学校独自の指導計画に改善されていくであろうと考える。

- ② 授業後すぐに振り返ることによって、有効な改善策を検討することができる。

生徒の実態をふまえて指導計画を改善していくためには、授業を終えた直後の授業者の「気付き」「思い」をもとに修正・改善していくことがとても重要である。学期末や年度末に指導計画を振り返るのではなく、授業者の新鮮な「気付き」や「思い」が整理される授業評価をもとにした修正・改善は、子どもの実態に即した指導計画に変更されていくと考える。

- ③ 学校、学年の教員の目が生徒に向き、連携が図りやすくなる。

参観者は生徒の活動を中心に記録するので、参観者の目が子どもに向き、生徒理解につながると考える。日常的に、学校では一人の生徒を担任だけが指導してるわけではない。多くの教員の目が生徒に向き、生徒に注がれることで生徒理解が深まり、教員間で生徒理解を通じた連携に発展していくことになると考える。生徒理解が根底にある学習指導や指導計画は、学校独自の指導計画を改善していく際にとても有効であると考える。

### (2) 研究前後の自分自身の変化

この研究を通して、いかに自分自身が生徒のことを見取っていなかったのかということを実感した。生徒の生活面や学習面におけるレディネスを十分に把握せずに授業に臨んでいたことに気付かされた。生徒の見取り方が多面的にあることに気付いたといった方が適切かもしれない。「ねらいを常に意識し、次の活動に移る前に、生徒の状況を確認すること」が疎かになっていた。つまり、自分勝手な授業になっていたのだと思う。

この研究に携わり、「子どもが学校の中心にいるということ」「子どものために、自分にできることは何なのかを考えることが大切であること」を再確認した。ねらいの達成に向けて、生徒の実態に応じた手立てを考え、授業中、授業後に修正していくこと。当たり前のことではあるが、このことを意識して取り組むようになったことが、自分自身の大きな変化である。

### (3) 教科・学年等の枠を超えた振り返り

小学校と中学校、例えば社会と理科、教師によって専門が異なったとしても、生徒の学びの姿を觀察することに関しては、その差はない。これまでの授業検討会は、専門外であると発言しづらい雰囲気を感じていたが、この授業評価の中心は、専門性ではなく生徒である。「あの子が、こんなこと言いましたよ。」「こっちの子はこんなこと書いていましたよ」と、授業者の気付かなかつた場面を出し合うことに関しては、教師として同じ立場で意見を出し合えた。今後、授業検討会に参加したときには子どもの学びの姿に注目し、授業を語っていきたいと考えている。

人各自の立場で意見を出し合って、意見交換の時間。右写真  
は、児童たちが意見を出し合っている様子。

窓の外の風情轉換」と  
いふ風の香葉野(日)

## 小学校 第6学年

### 「総合的な学習の時間」の実践



人それぞれの立場で意見を出し合って、意見交換の時間。  
意見を出し合っている児童たち。

（面接調査室・面接官・先生）

**仙台市立芦口小学校**

**鈴木 美佐緒**

## 1 指導計画の作成

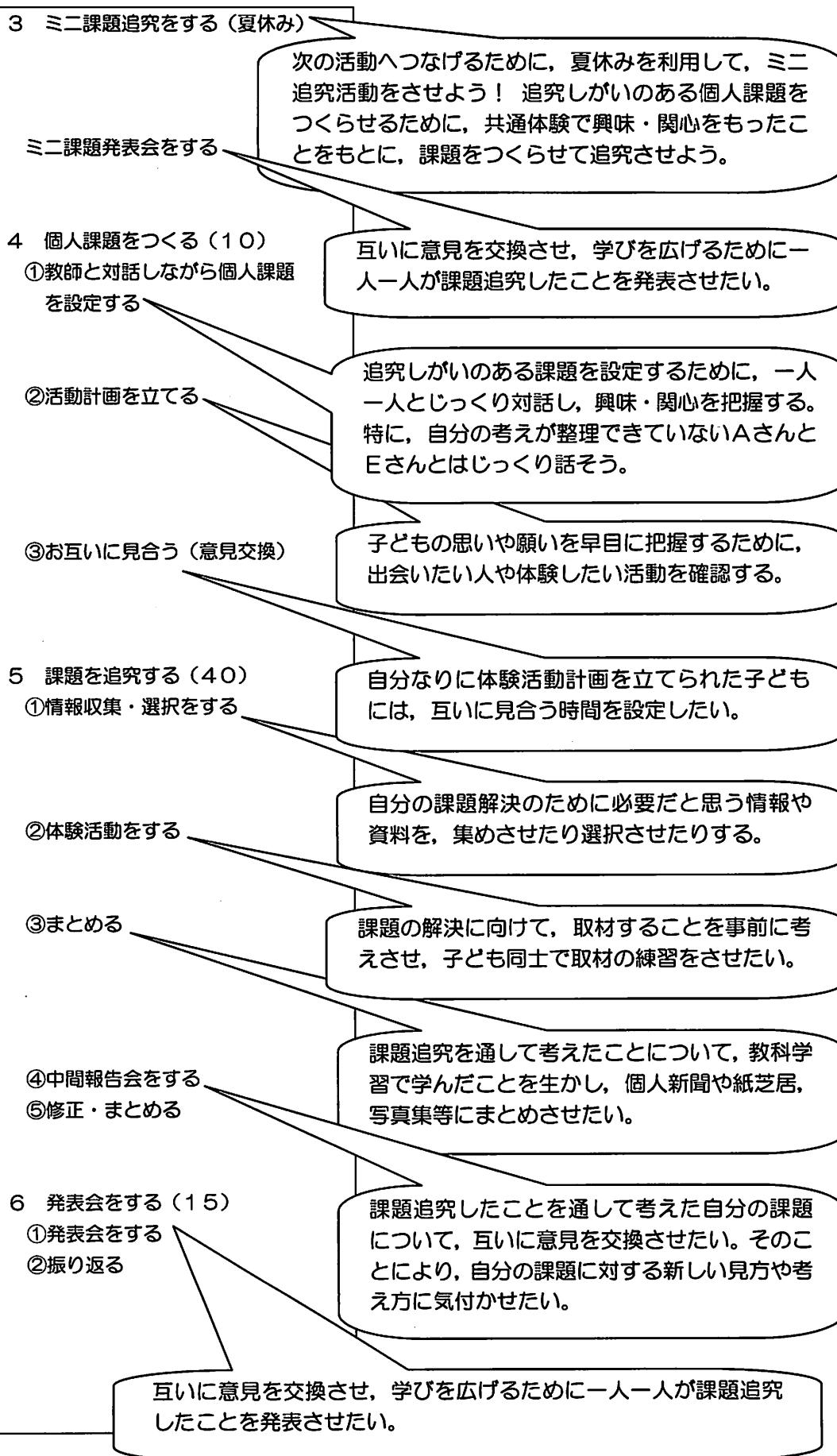
## (1) 授業者の思い

昨年は、環境の領域を取り上げ、よりよい環境保全にかかる人とのふれあいを学んだが、今年は、生き方に目を向けさせたい。

	目標	内容	3・4年	5・6年
生き方	様々な分野で活躍している人との出会いを通して、その人の活動や仕事のすばらしさ、信念や生き方などに目を向け、「今の自分」を見つめ直し、「これから自分の自分」を高めていくことができる資質や能力を育てる。	<p>ア 様々な分野で活躍している人との出会いから、感動や驚きを感じる。</p> <p>イ 様々な分野で活躍する人々の苦労や喜びを知り、自分の思いや願いの実現のために何が大切な理解する。</p> <p>ウ 今の自分を見つめ、からの自分を高めていくこうとする。</p>	<p>ア 出会った人の活動や仕事のすばらしさに気付く。</p> <p>イ 様々な分野で活躍する人の出会いを通して、その人の思いや願いに 관심をもつ。</p> <p>ウ なりたい自分をイメージし、今の自分を高めていくこうとする。</p>	<p>ア 様々な分野で活躍している人との出会いを通して、その人の信念や生き方に気付く。</p> <p>イ 様々な分野で活躍する人の出会いを通して、これから自分の自分についての思いや願いをもつ。</p> <p>ウ 今の自分を見つめ、からの自分について考え、自分を高めていくこうとする。</p>

開け！ 未来の夢のとびら  (110 時間)	1 学年テーマをつくる(5) ①今年の教科学習を知る ②昨年の総合的な学習を振り返る ③一人一人の思いや願いを知る ④学年テーマをつくる	今、何をしなければならないのか、何をしたいのかということをじっくりと話し合うために、ねらいをもって取り組ませたい。
	2 共通体験をする(40)  修学旅行 (北上町・雄勝町・志津川町方面)	子どもが学年で学んだ水産業や自然や海の環境保護にも興味・関心をもっているので、共通体験をしよう。一人一人の課題意識を醸成していきたい。

開け！未来の夢のとびら



## 2 指導計画の展開と複数の参観者による「授業の振り返り」を取り入れた授業評価

### (1) 展開と評価の実際

<指導計画の展開 10月4日(月) 5・6校時> (1/4ページ)

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
1 深く追究させるため に、課題の 要件を整理 させる。	<p>■この間、思いや願いを書 いてもらいました (3名に指名)</p> <p>■個人課題をつくります 課題って一体何なのでしょ うか。 思いつく言葉をノートに書 いてごらん。 (机間巡回)</p>	<p>S: 自然を大切にする人になりたい R: 自分の可能性を広げられる人に なりたい K: 何事も前向きに挑む人になりた い</p> <p>S: 将来の何かに役立てられること (同じ意見9人) K: 夢に近づくための一歩 J: すぐに答えが出ないもの M: これからの自分の生き方に関係 があるもの (同じ意見5人) T: 自分が疑問に思ったことを深 く調べるもの K: 結論が出ても、さらに調べるよ うなこと M: 自分のよさを出す D: 自分のもっている力を伸ばす ことができる M: 自分には分からない力を伸ば し、これから生かす E: 将来への思いを強くするもの 夢とかをすぐにあきらめず、も っとこうなりたいという想 いがもっと強くなること M: 調べることで自分の将来に生か せるもの 自分が興味・関心をもっている ことで、新しい発見があるもの</p>	<p>難しい発問 だけど思い 切って聞い てみよう。 何人くらい 手が挙がる かな。 不安だな。</p> <p>思ったより みんな書いて いるな。ちょっ と安心。 昨年の課題追 究のことを思 い出している のかな。</p>

## &lt;指導計画の評価&gt; (1 / 4ページ)

●指導主事 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
<p>●出だし、男の子3人を指名しあ話をされましたね。思いや願いの確認のところですが、あの3人を指名した意図は?</p> <p>●思っていたとおり、3人を確認してよかったです。</p>	<p>・S君、Y君、K君、この3人は、特に自分の思いや願いをしっかりもっている子だから、授業の冒頭で確認しました。</p> <p>・思いました。というのは(思いや願いをもった)ミニ課題追究は修学旅行の体験からきているということを言ってほしかったので、修学旅行の体験が生きていた、あるいは昨年度からやってきた総合の延長だという子どもだったので、よく言ってくれたなあという思いで、ちょっとほっとしました。でなければ、私から言おうと思いました。</p> <p>・今回は第1時だったので、とにかく思いつく言葉、自分で思いついた言葉をノートに書いてほしかったというのがねらいです。これを出してほしいとか、あれを出してほしいとかじゃなくて、子どもたちは、課題って、どういうふうにとらえているのだろうか、どういう言葉が果たして出てくるんだろうかという意味で、誰がどういうことを書いているのかということを見て巡回していました。</p> <p>・ないです。</p>	
<p>●課題というものを一人一人の子どもがどう考えているのかを確かめることは、今まで、やったことはないですか。</p> <p>●今回初めてなのですね。</p>	<p>・もしかしたら、何もでないかもしれないというおそれもあって悩みましたが、とりあえず、子ども一人でも二人でも、何か言ってくれるだろうという思いがあったので、去年の私の対話を思い出して書いてくれる子どももいるだろうし、去年は1対1のマンツーマンの対話形式でやってきたので、全体で確認する場はありませんでした。今回は6年生ということもあって、これをはっきりさせてから課題をつくらせたいという思いと、果たして子どもはどれくらい去年からの継続で体にしみているかなという期待感とがあって、思って切って今回ぶつけてみたのですが・・・</p>	
<p>●全体で確認するということは今回が初めてということですが、10分間机間巡視をしながら、子どもたちが書いたものを見たときの先生の印象はどうでしたか。</p> <p>○よく書いているなど・・・</p>	<p>・何も書いていないという子どもが一人もいなかったので、子どもなりによく考えて書いているなど判断しました。</p> <p>・今までの学びを振り返りながらの言葉なんですね。すべて。やっぱり、今だけではなくて昨年からの積み重ねが今に生きているのかなという思いがすごくありました。</p>	<p>積み重ねは、やっぱり大事なんだなあ。</p>

## 〈指導計画の展開 10月4日〉(2/4ページ)

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
	■総合のねらいも考えて特に大事なものはどれかな	H: 夢をかなえるための材料集め T: ねらいや目標をもって体験活動を通して、より深く追究、もっと調べようと思うこと、より深く追究、もっと調べよう思うこと K: 自分の夢や目標を達成するための山乗り越えなければいけないもの R: 自分が体験して新しい発見をすること S: 自の目標やあこがれ 夢と近いけど、ちょっと違うもの D: 自分のよいところを見付け、苦手なところをなくすこと S: 自分に合ったもの S: 自分の生き方に関係があるもの	
	■自分はこういう人になりたい、これだったら自分でやれそうだなと思うことが大事だね		
	■ノートに書いてください(机間指導)		

## &lt;指導計画の評価&gt; (2/4ページ)

●指導主事 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
●例えば、今、頭の中に残っている子どもの言葉、どんなものがありますか。机間指導し、書いてくれてよかったなあ、今までの学びが生きているなあと思った言葉はありませんか。	・すべてそうですが、特に自分の生き方、自分の将来に一步でも近付こうとするもの、可能性を広げようとするものとか、私が予想していない言葉を書いている子が結構いたので、総合のねらいを常に言い続けてきたのが生きてきたのかとほっとしました。	
●一人一人指名、発表が続きます。S君からRさんまで20人に指名したという意識は?	・ないです。そんなに指名していましたか。手を挙げていた子を全員指名し、答えさせたかったという思いからだと思います。 ・そこまで考えられなかったので、手を挙げていた子をすかさず指名していました。	20人も指名したのか。随分手が挙がっていたんだ。
●S君から始めたという理由もないですか? ●この子には発表させたいなと思って、発表させた子はいませんでしたか。	・ないです。とにかく何かは答えてくれるんだろうなと思い、手を挙げている子を指名しました。 ・います。自分の生き方の関係があると答えたK君。自分が取り組めそうなものと答えたS君。おとなしいJさんも書いていたので、Jさんも書いていたよねって言いました。時間も迫っていたのですが、転校してきたばかりのRさんが手を挙げていたので、Rさんに最後に指名しました。	S君だけに「いいですね。」って言つてしまつたんだ。
○S君が答え終わった後に、先生は「いいですね。」と、この子だけに言ったのです。	・そうでしたか。あら、大変。求めていた答えが出たら嬉しくて「いいですね」と言ったのですね。気が付きました。	
●ひとりおり指名、発表させた後、こんなに出るとは思わなかつたと言っていますが、この時点で何を考えていましたか。	・あまりにも出過ぎたので、これらすべてを課題の要件ととらえていいのだろうかという迷いがありました。私自身、課題って一体何だろうかと考えました。どうしようという困惑の思いがありました。	
○迷っていたのですね。	・そうです。課題を辞書で引くと「問題を解決しなければならないこと」、それとこれらがごっちゃになって、何が出ればよしとしたのかなっていう迷いがありました。	この時点で迷っていたんだ。もっと課題の要件をしっかり押さえておくべきだった。
●計画段階で、これを押さえておけばよしと考えていたのは?	・自分の生き方に関係のあるもの、調べてすぐ答えが出ない、夢に関係したものも、すぐに出るだろうなと思っていた。そのくらい押さえておけばいいだろうという担任の甘い考へでいましたが、思いもよらず、いろいろなものが出てきたために「ちょっと待ってよ」と思い、最終的に「これが課題の要件だよ」と言わなかつたのです。本当は、ここで押さえてなければいけないのでしょうけれども、私のこうした悩みがあって、もしかしたら、これだけがすべてじゃないし、もっと他にも書いている子もいたし、限定して課題の要件ってこれだよねって言ってはいけないと思って通り過ぎてしまいました。	気付き1

## 〈指導計画の展開③ 10月4日〉(3/4ページ)

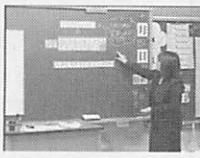
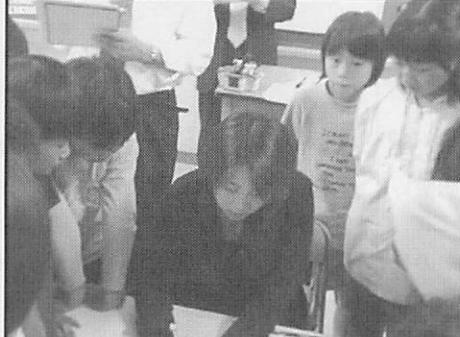
ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
<p>2 課題の要件を整理し、課題をつくる。</p>  	<p>■いよいよ課題をつくります。頭に思い浮かんだことを書いてください。</p> <p>消さないでね。</p> <p>修学旅行の資料を見てもかまいません。</p> <p>思いや願いをふまえて書くんだよ。</p> <p>(机間指導)</p>	<p>S:夢をあきらめない、夢に近く、などの内容を書いている E:鉛筆を持ったままじっと考えている</p> <p>S:動物に優しくしたい K:信頼される人になるためには J:人の役に立つ人になるためには M:考えている T:総合のノートを見ている K:鉛筆を持ったまま考えている</p> <p>M:「えーっ。難しい」 D:友達と相談している</p> <p>J:動物を思いやる人になりたい 飼っている動物を満足させるためには、どうしたらよいか、飼っている動物を長生きさせるためにはどうしたらよいか、などについて書いている。</p> <p>R:思いや願いは書いているが課題を書いていない S:思いつく言葉を書いている。 D:考えている</p>	<p>あれっ！なかなか課題をつくれない子どもが多いな。なぜだろう。</p> <p>・もう一度、思いや願いと課題の区別を説明しよう。 ・もう少し時間が必要だ。</p>

## &lt;指導計画の評価&gt; (3/4ページ)

●指導主事 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題をどの程度書いてほしいという思いをもって机間指導をしていましたか。</li>   <li>●そこで何か働きかけをしようと思わなかったのですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人、課題がつくれればいいなあと思っていました。一人でいいから、誰か課題ができないかなあという思いをもって、子どもたちに任せました。待っても待ってもできないので、どうしようかなあと思いながら机間巡回をしていました。</li>   <li>・それは全体の前でやろうと思っていました。できたら、その課題について、思いや願い、課題、追究内容を確認しようと思っていました。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●Eさんに介入しようと思わなかったのですか。</li> <li>●ちょっとアドバイスすれば、つくれそうだったんですか。全然だめだったのですか。</li> <li>●ちょっとアドバイスすれば、課題らしきものができあがりそうだったんですか。</li> <li>●そこで、Eさんに手を掛けようと思わなかったのですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あくまでも、Eさんにやらせたかったです。</li>   <li>・全然だめではありませんでした。</li>   <li>・課題とは言えない、もう少しというところでした。</li>   <li>・思いませんでした。Eさんには、自分でつくってほしいという思いがありました。これはまずい。誰も課題ができるいないと思い、待ちきれなくて、例えば、人の役に立ちたってあったよねと、全体の場で確認することによって、子どもたちに考え方を共通理解させるために、Eさんの思いや願いを出しました。</li> </ul>	<p>Eさんに結構こだわっていたんだな。</p>
<p>○思いや願いはEさんの思いや願いだったんですか。</p> <p>○思いや願いはEさんのですね。課題は、先生が考えた例ですね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題は自分で考えてほしかったです。だから、例えば、私だったら「小さい子からお年寄りまでが使いやすい公園にするためには」とするよと声を掛け、それが取り組む課題なんだよとヒントを与えたつもりでした。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●2時20分から2時25分までの5分間の部分は、指導計画にはありませんね。あの場で判断していただなんですね。課題が出ないから。入れてみて、どうでした。</li>   <li>○2時20分になって、思い・願いと課題の区別がつかないようなので説明しますときっぱり言ったんです。そして、あの課題づくりの定理のようなものを説明しました。子どもたちは、それについて納得したような、分かったような雰囲気でした。その時の先生の思いはどうでしたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5, 6人うなずきました。今日は、その5, 6人ができればいいかなと思いました。まだまだ時間があるので。</li>   <li>・全然出ないことも考えていました。難しいだろうなと思い、事前にあの流れの図を用意しておきました。万が一、でない場合は、私が順序立てて説明する必要があるだとうと考えていました。一人でもできれば、あの流れにあてはめてみて、みんなで確認できたらいいなと思っていました。だから、あの場は、がっかりしたということではなく、やっぱりなという想いでいた。この説明の後、課題がつくれればいいなという想いでいた。</li> </ul>	

## &lt;指導計画の展開 10月4日&gt; (4/4ページ)

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
		<p>S: 歌手になりたい</p> <p>A: 「これでいいのかな」と悩んでいる K: 友達と相談している</p> <p>L: あーそうか。なんとなく分かった</p>  <p style="text-align: center;">↓</p> 	<p>それでもできない子どもは、個別に対応しよう。</p> <p>どこでつまづいているのかな。やっぱり難しかったかな。</p>

## &lt;指導計画の評価&gt; (4/4ページ)

●指導主事 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
●Eさんと二人で対話しながら(流れ図を使って)課題を確認しようという気持ちちは起きなかったのですか。	・机間指導の際に個別で話をした時に、Eさんが「うーん?」と悩み始めました。もし、そこで、Eさんがある程度のことと言えば、全体の場で発表させてみようと考えましたが、Eさんがすごく難しく考えて、先生、助けてといいような表情だったのです。だから、私は、Eさんの思いや願いだけをとって、あとは、先生だったらねとしました。もし、Eさんがもう少し自信をもって、こう思うというようなことを言えば、そこでEさんと対話することも可能だったと思います。	
●いけそうだなど、Eさん以外の子は考えていなかったのですか。例えばT君は?	・T君? そうですか。そこは、あまり見ていませんでした。具体的に書いていましたか。そうですか。	T君がいいことを書いていたなんて知らなかった。
○S君も、優しい人間になりたいという願いからおろして、ボランティア活動のことを書いていたから、あー、この子を取り上げればなあと思いました。	・あーっ	
●この振り返りの冒頭で先生は、修学旅行の体験や共通体験を思い出してほしかったと言いましたが・・・ ●振り返りの一番最初のところで、先生、言ってたんですよ。その意識で、ずっときていましたよ。	・あー、あー、そうか。そう言えば、今思えば、せっかく修学旅行の文集とかしありとか、写真とかたくさん持ってきていたんですよ。それを見ている子って、ほとんどいませんでしたよね。	せっかく準備していた資料を使わなかつたぞ。
○子どもの答えはミニ課題追究をしてとか、修学旅行に行ってという活動で答えたんですよ。先生は、修学旅行にも行ったしと言っていましたが、先生が聞き出したいことは、もう一つ、子どもたちの意識の中に思いや願いをつくるところの、本当は引き出したいところがあったんじゃないですか。 ○でも、確認したんですよ。机上にこれ、出てますかと言って、それで授業が始まったんですよ。	・あー、そうか。それどころではなくなってしまったのですね。そうですね。そのつもりでした。それを使いながら、課題づくりの流れをもう一度確認しながら課題づくりをさせたいと、課題づくりの手立ての一つとして準備させておいたのです。あー、そうでした。それを見ている子、いました? いないですよね。	気付き2
○いないね。子どもたちが思いや願いをもったのは、学習計画のどの時点でもったのか? ○その資料を見て、どのように役立てるのですか。それらを思い出させてどうしたかったのですか。	・自然を大切にしたいと思った子は、漁師さんとの出会いとか、漁業体験等の活動を通して思ったわけで、体験活動を思い出すことによって、どんな思いや願いをもったのか、どんな人間になりたいと思ったのかを引き出したかったのです。	

(2)「授業の振り返り」での気付きをもとにした指導計画の改善の実際

**気付き1**：予想以上に課題の要件に関する意見がたくさん出て、整理することができなかつた

→改善1：子どもが出す課題の要件の中から、学習のねらい（「これから自分」を高めていくことができる）に迫る要件を取り出し、整理する。

【子どもから出た課題の要件】	【整理した課題の要件】
<ul style="list-style-type: none"><li>■ 将来の自分に役立てられること</li><li>■ 夢に近づく第一歩・材料集め</li><li>■ 調べてすぐ答えが出ないもの</li><li>■ 自分が取り組めそうなもの</li><li>■ 自分が興味・関心をもっているもの</li><li>■ 自分のよさを出すもの</li><li>■ 苦手なことへのチャレンジ</li><li>■ 将来の思いを強くするもの</li><li>■ 自分に役に立つような内容</li><li>■ 深く追究できるもの</li><li>■ 自分自身の山</li><li>■ 新しい発見</li><li>■ 目標やあこがれ</li><li>■ 自分の生き方に関係があるもの</li></ul>	<p>前時に子どもから出た課題の要件について、「これからの自分」を高めていくことができるという要件をもとに整理した。</p> <p>➡</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 自分に役立ちそうな内容</li><li>■ 思いや願いに少しでも近づくもの</li><li>■ 自分がこれからどう生きていくか</li><li>■ どんな人になりたいのか</li><li>■ 将来の夢に一步でも近づくもの</li></ul>

## 指導過程の変更（個人課題をつくる3／10）

**気付き2**：準備しておいた資料を提示しなかったことが、課題づくりにつながっていないので、半数の子どもが課題をつくることができなかった。

→改善2：ミニ課題追究で子どもが書いたレポートを提示し、課題づくりを思い出させ、願いや課題、追究する内容を明確化する。

【三二課題】

- 自分より小さい子を楽しませるためには
  - 歌やダンスの楽しさを伝えるためには
  - 障害者の気持ちを理解するには
  - ピアノの楽しさを伝えるためには
  - 誰にでも優しく接するためには

【課題をつくることが出来なか  
った子どもには、教師と対話を  
しながら思い・願い・追究内容  
を確認した】

- ① 自分の思いや願い
  - ② 思いや願いを実現するため  
に取り組むこと（課題）
  - ③ 課題に迫るための追究活動

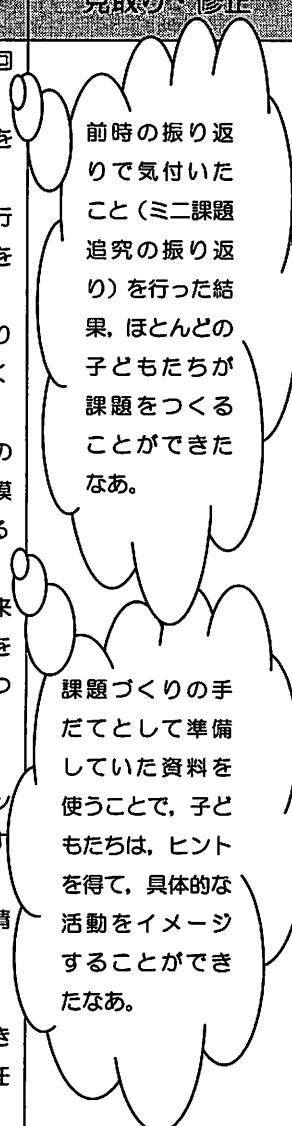
#### 指導過程の変更（個人課題をつくる4／10）

学習活動	支援（方法・内容）	評価規準				評価資料
3 個人課題をつくる (10)	①教師と対話をしながら個人課題を設定する ②活動計画を立てる ③お互いに見合う（意見交換）	関意態	思・判	技・表	知・理	活動中の観察 学習カード

### 3 指導計画の展開と授業者個人による「授業の振り返り」を取り入れた授業評価

#### (1) 展開と評価の実際

<指導計画の展開⑤ 10月5日(火) 個人課題をつくる3/10>

段階	ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
つかむ	<p>課題の要件を確認させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■自分に役立ちそうな内容</li> <li>■思いや願いに少しでも近づくもの</li> <li>■自分がこれからどう生きていか</li> <li>■どんな人になりたいのか</li> <li>■将来の夢に一步でも近づくもの</li> </ul> <p>これからの自分についての思いや願いをもとに、課題追究する内容や活動計画を考えさせる。</p>	<p>■前時に、たくさん課題の要件が出たけれど、混乱してしまったから、課題の要件を整理しましょう。</p> <p>■課題ができない人は、ミニ課題追究を振り返ってみましょう。</p> <p>【課題がなかなかつくれない子どもに対して】課題をつくることができない人は、先生に相談してください。</p> <p>【課題をつくり終った子どもに対して】課題ができた人は、追究する内容と活動計画を立ててね。</p>	<p>D: 文集をもう一回見直す N: 総合のノートを見始める C: 友達と修学旅行の時の思い出を話す M: 教室の振り返りの表を見に行く T: ミニ課題追究の内容でまとめた模造紙を広げ始める Y: 担任に相談に来て1対1で対話をした後、課題をつくる R: 体験場所をインターネットで探す C: タウン情報で情報を集める S: 新聞の切り抜きを持ってきて担任に相談する</p>	 <p>前時の振り返りで気付いたこと(ミニ課題追究の振り返り)を行った結果、ほとんどの子どもたちが課題をつくることができたなあ。</p> <p>課題づくりの手立てとして準備していた資料を使うことで、子どもたちは、ヒントを得て、具体的な活動をイメージすることができたなあ。</p>

#### (2) 「授業の振り返り」での気付きをもとにした指導計画の改善の実際

本時では、複数による「授業の振り返り」の気付きをもとに、課題の要件を整理する活動と、願いや課題、追究する内容を明確にする活動を取り入れた。このことにより、前時の授業で見られた課題の要件について、子どもの混乱を解消することができた。また、前時に、課題設定できなかった子どもも、課題を設定することができた。

#### 4 年間指導計画の更新に向けて

開  
け  
！  
未  
来  
の  
夢  
の  
と  
び  
ら

(110)

- 1 学年テーマをつくる (5)  
 ①今年の教科学習を知る  
 ②昨年の総合的な学習を振り返る  
 ③一人一人の思いや願いを知る  
 ④学年テーマをつくる

大単元で進めていったことによって、じっくりと共通体験や個人の課題追究に取り組むことができた。

- 2 共通体験をする (40)

- 修学旅行（北上町・雄勝町・志津川町方面）  
 ①葦のすばらしさを伝える熊谷さんとの出会い  
 ②覗職人との出会い  
 ③スレート美術家・スレート工場で働く人との出会い  
 ④海で働く漁師との出会い  
 ⑤修学旅行を振り返り

子どもたちがねらいをもって取り組んだことによって、じっくりと話し合うことができた。

子どもたちが、興味・関心をもっていることを共通体験したことによって、一人一人の課題意識を醸成することができた。

- 3 ミニ課題追究をする（夏休み）  
 ミニ課題発表会をする

- ・夏休みを生かしてミニ課題追究をしたことによって、次の活動へつながった。
- ・共通体験で興味・関心をもつたことをもとに、課題づくりをしたことによって、追究しがいのある課題ができた。

一人一人が課題追究したことを発表して互いに意見を交換したことによって、学びを広げることができた。

- 4 個人課題をつくる (10) → (12)  
 ①教師と対話しながら個人課題を設定する  
 ②体験活動をする  
 ③お互いに見合う（意見交換）

一人一人とじっくり対話し、どんなことに興味・関心があるのかを把握したことによって、追究しがいのある課題を設定することができた。

- 5 課題を追究する (40)  
 ①情報収集・選択をする  
 ②体験活動をする  
 ③まとめる  
 ④中間報告会をする  
 ⑤修正・まとめる

必要だと思うものを集めたり選択したりしたことによって、自分の課題を解決することができた。

- 6 発表会をする (15)  
 ①発表会をする  
 ②振り返る

課題追究したことを通して考えてきた自分の課題について、互いに発表して意見交換した。そのことによって、自分の課題に対する新しい見方や考え方方に気付くことができた。

## 5 本研究に取り組んで

### (1) 「授業の振り返り」について

指導計画を作成するということは、目の前にいる子どもの実態をふまえて、その子どもをこんなふうにしたい、こんな子どもに育てたいという思いを言語化することである。しかし、その指導計画が、本当に目の前の子どもたちにふさわしいものかどうかということについては、実際に授業をやってみないと分からない。

今までの自分自身の実践を振り返ってみると、子どもの実態にふさわしい計画であったかどうかということについて、あまり吟味してこなかった。しかし、「授業の振り返り」を取り入れて作成した指導計画を吟味したところ、自分の実態のとらえ方の甘さを改めて知った。子どもの実態をとらえたつもりでも、予想以上に子どもの反応が多く出たり、つまずきが見えたいたところがあった。

指導計画は、指導者一人だけで修正するのではなく、複数でのやりとりを通して、子どもの実態に合った指導計画に修正されていく。自分が考えたことと、実際の授業で生ずる「すれ」によって、よりよい指導計画ができ上がっていくと考える。「すれ」が、自分にいろいろなことを気付かせてくれた。「すれ」に気付かせてくれたのは、「授業の振り返り」だった。

「授業の振り返り」を取り入れた授業評価は、子どもの学びの姿を考えながら指導計画を作成していく上で、とても大切な指針を与えてくれた。



### (2) 「自分自身の変化」について

#### ① 今までの授業検討会のイメージ

今までの授業検討会では、参観者の体験や一般論で授業を批評することがほとんどだった。正直言って、自分自身の授業改善につながる部分は少なく、納得のいく意見があまりなかった。

#### ② 修正・改善への意欲

「授業の振り返り」は、授業者の働きかけと子どもの学びの姿で語る授業評価である。語られる事実には、そこに至る原因や背景があり、教材研究や子どもの見取りなどに関する自分自身の思考過程を客観的に整理できる。思考過程の整理が、自分の不十分さに気付かせ、また、指導計画の不備に気付かせることになった。

体験や一般論で語ることのない「授業の振り返り」を取り入れた授業評価は、自ら指導計画を改善していくこうとする意欲を高める。



## 資料1

## 第6学年 総合的な学習の時間 指導計画

担当者 鈴木 美佐緒

## 1 単元 「開け！未来の夢のとびら」 (110時間)

～Way to Dreams～

## 2 単元設定の理由

## (1) 児童の実態

本学級(男子10名、女子18名、計28名)は、昨年の総合的な学習では、「集まれ！自然大好き人間！」という学年テーマで、野外活動や太白自然の森での自然観察、水生生物観察等、自然にかかわる活動を行ってきた。その結果、ほとんどの子どもたちは、自然のすばらしさを知り、環境問題の解決の方法を自分なりに考えてきた。

6年生の総合的な学習を始めるに当たって、5年生で学習した総合的な学習を振り返りながら、今年は何を学習すればよいのか、どんなことをしたいのかということについて、みんなで話し合った。その結果、「伝統について知りたい」「海の環境も学習したい」「夢をもって進んでいきたい」の三つに絞られた。

さらに、子どもたちは、何のために総合的な学習に取り組もうとしているのかという根本的な部分についても話し合った。このことを通して、「夢に向かって進んでいきたい」「生きがいをもった仕事につきたい」「未来の自分について考えたい」という、共通した思いや願いをもっていることに気が付いた。

そこで、今年の学年テーマを、「開け！未来の夢のとびら」に決定した。

## (2) 教師の願い

子どもの実態から、本単元で、まず、「伝統について知りたい」「海の環境も学習したい」「夢をもって進んでいきたい」という子どもの願いに応え、

- ・葦のすばらしさを伝える熊谷さんとの出会い
- ・伝統を引き継ぎ、伝える硯職人との出会い
- ・漁業体験

を計画した。これらの体験を通して出会った方々の信念や生き方にふれさせたいと考えた。(『内容系列表』生き方5・6年内容ア)

次に、共通体験を基に、これから自分の自分についての思いや願いをいだかせ、ふくらませるために、出会いを振り返り、その人の信念や生き方に目を向けさせることにした。人の生き方に着目させることで、「これからの自分」についての思いや願いをふまえた課題を設定させたいと考えた。(『内容系列表』生き方5・6年内容イ)

さらに、個人課題の追究を通して、「これからの自分」についての思いや願いの実現に向け、今の自分を高めさせたいと考えた。(『内容系列表』生き方5・6年ウ)

### 3 単元の目標

伝統工業や、水産業に従事する人々等との出会いを通して、出会った人の仕事に取り組む思いや願いに気付くとともに、その人の信念や生き方を理解し、これからの自分について考え、今の自分の生き方を高めていくとする意欲や態度を育てる。

### 4 単元の評価規準

#### ○ 関心・意欲・態度

- ① 学年テーマについて、友達と協力しながら進んで話し合おうとする。
- ② 「これからの自分」の生き方についての思いや願いをもとうとする。

#### ○ 思考・判断

「これからの自分」の生き方について、思いや願い、課題、追究する内容を関連付けて考える。

#### ○ 技能・表現

- ① 課題追究を通して、感じたり考えたりしたことをまとめることができる。
- ② 自分が伝えたい内容にふさわしい表現方法を選び、相手に伝えることができる。

#### ○ 知識・理解

様々な分野で活躍している人との出会いを通して、その人の信念や生き方について知る。

### 5 学習過程と評価計画

学習活動	支援(方法・内容)	評価規準				評価資料
		関 意 態	思 ・ 判	技 ・ 表	知 ・ 理	
1 学年テーマをつくる(5)  ① 今年の教科学習を知る ② 昨年の総合的な学習を振り返る ③ 一人一人の思いや願いを発表する ④ 学年テーマをつくる	興味・関心をもった理由から思いや願いを考えさせ、学年テーマへとつなげる。	①				活動中の観察  総合ノート

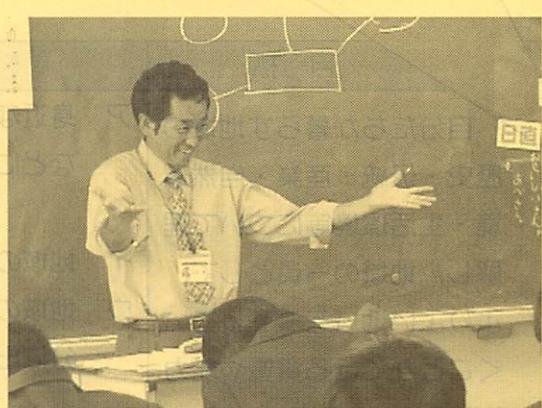
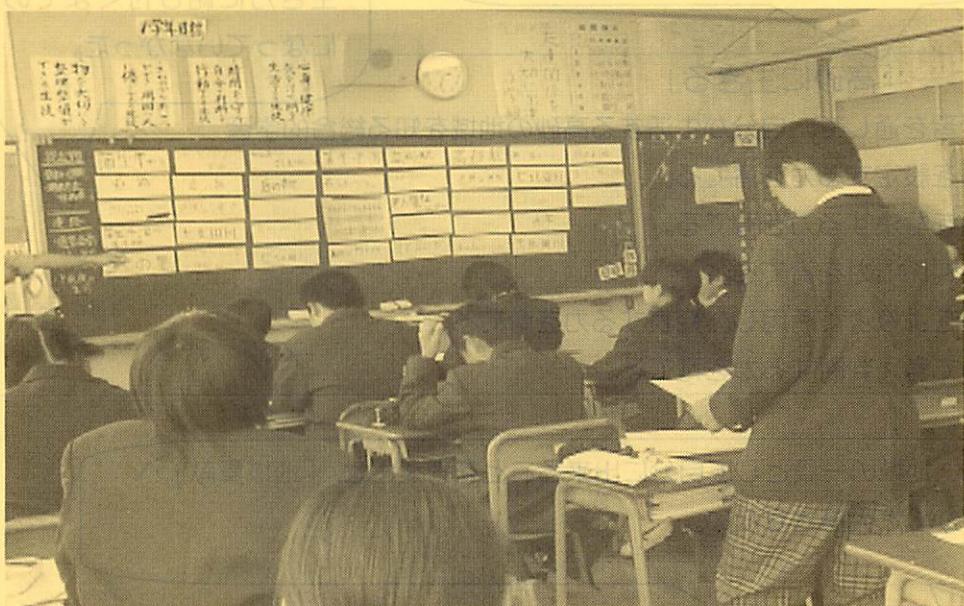
2 共通体験をする(40)	修学旅行(雄勝町・志津川町方面) ① 葦のすばらしさを伝える熊谷さんとの出会い ② 研職職人との出会い ③ スレート工場で働く人との出会い ④ 海で働く漁師との出会い ⑤ 修学旅行の振り返り	自分と同じような思いや願いをもち、その思いや願いを実現したり、実現に向けて努力したりしている人々との出会いを通して、その人の考え方や信念にふれさせる。		①	活動中の観察 レポート 振り返りカード
3 ミニ課題追究をする(夏休み) ミニ発表会をする		身近に信念をもって生きている人を探し、課題を追究させる。		①	学習カード 発表会の様子
3 個人課題をつくる(10)	① 教師と対話をしながら個人課題を設定する ② 活動計画を立てる ③ お互いに見合う(意見交換)	判断に迷っている子どもには、これまでまとめたレポートの内容をもとに、対話を通して個人課題をつくらせる。	①		活動中の観察 学習カード なるほどメモ
4 課題を追究する(40)	① 情報収集・選択をする ② まとめる ③ 中間報告会をする	中間報告会では、お互いに情報を提供し合ったり、内容や発表のよさについて認め合ったりできるように助言する。	②	①	①
5 発表会をする(15)	① 発表会をする ② 振り返える ③ 卒業式で自分の生き方を述べる	課題追究や自分にできることに取り組み、最も伝えたいことは何か、それを説明するために必要な情報は何かということについて確認させる。 一人一人の成長を伝え、自分自身に対する自信をもたせ、中学生に進級させる。	②	①	活動中の観察 学習カード レポート

## 個人課題

思いや願い	課題	体験場所	まとめ方	思いや願い	課題	体験場所	まとめ方
相手の気持ちに対応できる人になりたい	相手の気持ちを考えて、いろいろな人に接することができる人になるためには	若葉保育園、三神峰ティサービス、グループ青空、日赤病院	パソコンで個人新聞	自分の思いを貫き通す人になりたい	強い信念をもって夢をあきらめないためには	太白消防署 ハ木山出張所	パソコンで新聞
自然の大切さを伝える人になりたい	自然の大切さや自然を守る対策を考え、実行してもらうためには	蓮沼さん宅 環境局	個人新聞	礼儀正しい人になりたい	自分らしさを出し、人に信頼されるためには	ハ木山交番 西多賀交番	パソコンで個人新聞
何事も前向きに進む人になりたい	人から信頼され、前向きに生きるためにには	大波病院	パソコンで個人新聞	相手の気持ちがわかる人になりたい	老人ホームの方に毎日を楽しく過ごしてもらうためには	若葉保育園、三神峰ティサービス、日赤病院 グループ青空	個人新聞
日本の文化を知り、伝える人になりたい	日本の文化を伝える人の気持ちを知り、自分の中での文化に対する思いをもつたためには	鈴木圭代子さん宅	パソコンで個人新聞	相手のことを考えられる人になりたい	いろいろな人の気持ちを考え、楽しく会話するためには	若葉保育園、三神峰ティサービス、日赤病院 グループ青空	模造紙
自分の可能性を広げられる人になりたい	夢に向かって自分の可能性を信じて努力するためには	太白消防署 長町出張所	パソコンで個人新聞	自然を大切にする人になりたい	海の大切さを知り、伝えるためには	環境局 蓮沼さん宅	パソコンで個人新聞
相手の立場に立って、物事を考えることができる人になりたい	お年寄りの気持ちを理解し、お年寄りが過ごしやすい町にするためには	若葉保育園、三神峰ティサービス、グループ青空、日赤病院	模造紙	いろいろな所で活躍できる人になりたい	歌の楽しさを知り、人の心を元気にするためには	ハート音楽院 斎藤惣一郎さん宅 鈴木ダンススクール	個人新聞
動物を思いやる人になりたい	飼っている犬を満足させ、長生きさせてあげるには	伊藤動物病院、ペットショップ、フリーーターさん宅	本	相手にとって必要とされるような人になりたい	困っている人から必要とされる人になるためには	大泊ボランティアセンター	個人新聞
夢に近づける人になりたい	漫画やアニメの楽しさを伝え、広めるためには	日本ビジネススクール仙台校、漫画家宅	模造紙	人の役に立ちたい	人を楽しませて、元気をわけてあげられるようになるためには	手品師宅	実演

姉妹の画像書評 上

八重の香葉選(上)

**中学校 第1学年****「総合的な学習の時間」の実践****仙台市立高砂中学校****又木 潤**

## 1 指導計画の作成

### (1) 授業者の思い

第1学年では「高砂に生きる」というテーマのもと、高砂の歴史・産業・自然環境・生活環境などについての理解を深めるために「地域学習」を取り入れてきた。

これまで、①から⑤をねらいとしてきたが、調べ学習が主になり、発表して終わりになってしまっていた。生徒一人一人の生き方に結び付くまでの学習になっていなかった。

#### 「高砂に生きる」

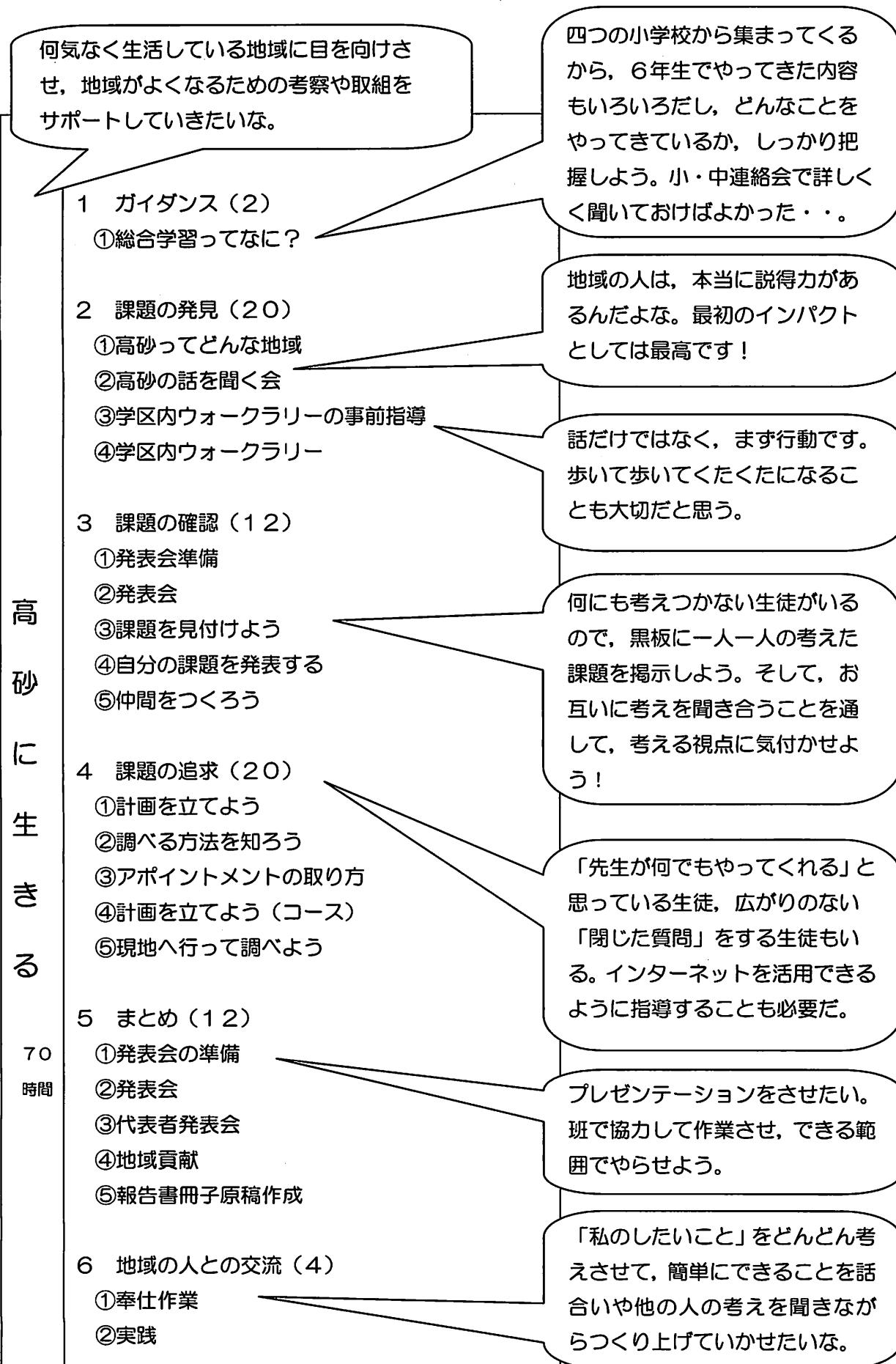
地域の学習を通して、自分が生活する高砂の地域を知る総合的学習

- ① 課題を設定する力を育てる。
- ② 課題を解決する力を育てる。
- ③ 対人関係能力を育てる。
- ④ 情報をよりよく活用し、発表する力を育てる。
- ⑤ 聞いて考え判断する力を育てる。

今年は、地域の一員として自分に出来ることを考えさせ、「地域貢献」へとしっかりと発展させたい。

	目 標	内 容
地域貢献	自分たちが暮らす地域の歴史・伝統・産業・自然環境・生活環境等について理解し、地域の一員として、よりよい地域をつくっていくことができる資質や能力を育てる。	ア 身近な地域の歴史や伝統、産業、自然環境、生活環境などについて理解し、愛着をもつ。 イ 地域の特色や現状の問題について考える。 ウ 地域の一員として、よりよい地域づくりについて、自分に出来ることを考え、実践する。

「高砂の話を聞く会」や「学区内ウォークラリー」等を通して、高砂の特色や現状の問題に気付くとともに、よりよい地域についていくために、地域の一員として自分にできることを考え実践することができる。

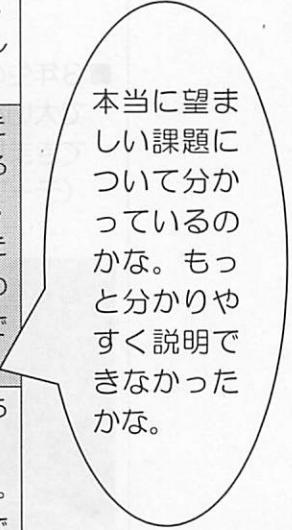
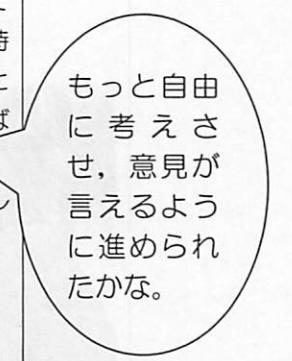


## 2 指導計画の展開と複数の参観者による「授業の振り返り」を取り入れた授業評価

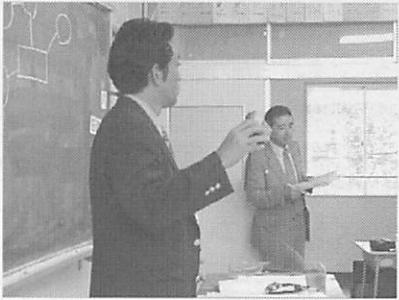
### (1) 展開と評価の実際

〈指導計画の展開 10月6日(水) 5~6校時〉(1/4ページ)

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
望ましい課題についてしっかりと理解させる。	<p>■どんな課題が望ましいと思いますか。</p> <p>■高砂地区の問題は、何ですか。</p> 	<p>プリントを見ているが言葉は少ない。</p> <p>プリントを見ているけど、言葉は少ない。本当に分かっているのかな。ちょっと心配だな。</p> <p>どんなことを知っているのだろう。地域のこと興味・関心はあるのかな。</p> <p>全員が一人ずつ答えれる。</p> <p>いいぞ、どんどんしゃべってほしい。小学校でも勉強してきていたんだ。</p> <p>発表の声も大きくなる、発表に勢いが出てくる、発表する内容にも広がりが見られる。</p>	

〈指導計画の評価 10月6日〉(1/4ページ)		● 支援者 ○参観者
支援者・参観者	授業者	気付き
<p>●前半は、望ましい課題について理解するところです。2枚目のプリントを配布するところまでがここにあたりますか。</p> <p>●先生の見た感じとして確認できたという印象を持ちましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解というより確認ですね。</li> <li>黒板には貼りましたがプリントにも書いてあることなので、それで確認しようと思いました。そこでは、生徒たちが思っているかどうかを確認できればよいと思いました。復唱させたり、読ませたりしてちょっとなあという感じでしたね。</li> </ul>	<p>● 気付き1</p>  <p>本当に望ましい課題について分かっているのかな。もっと分かりやすく説明できなかったかな。</p>
<p>○あれ以上広げられないで今度は高砂のためになる、高砂地区での問題点は何かということです！君から指名を始めたわけですね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高砂地区の問題点についてちゃんと説明させたかったことと、最終的なねらいにたどりつけるようにしたかったことです。そして、最終的に、高砂地区が住みやすい、住みよい地域にするために自分でできることを考え、取り組むための課題にするんだということを言いたかったんです。それでもう1回念を押したんです。</li> </ul>	
<p>●先生から見て生徒たちの反応はどうでしたか。</p> <p>●36名全員に順番に発表させていきましたが、ここは、最初から全員発表させようという考えだったのですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ためになるように」というところで、生徒たちは、はっと思い出したような気はしましたね。</li> <li>最初から全員に発表させようと考えていました。全員があのくらいのスピードで発表することで人の話をぼんやりと聞かないように集中させたかったのです。それから、今日は、一人一人答える学習だという意識をもたせたかったので、はい次、はい次というふうに、一気にいこうと思っていました。</li> </ul>	
<p>●生徒からどのような答えを期待していたのですか。生徒たちが発表しているとき、先生はどんなことを考えていましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題を焦点化しようという考えはありませんでした。どんなことが出てくるかなあという気持ちで指名を続けていました。なんでもOKだと思っていました。どんどんしゃべってくれればいいなあと思っていました。</li> <li>考えてはいませんでした。一応ここで確認をしておきたいなと思いました。</li> </ul>	 <p>もっと自由に考えさせ、意見が言えるように進められたかな。</p>
<p>●全員の発表が終わってから「今みんなが発表したことが本当にそののか、問題点をこうすれば直るんじゃないかということを発信できます」と先生はまとめたのですが、ここはあらかじめ、こんなことでまとめようかと考えていたのですか。</p>		

## 〈指導計画の展開 10月6日〉(2/4ページ)

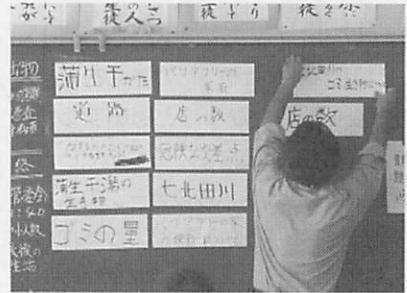
ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
イメージマップを作ることによって、自分の課題の関連（ひろがり）を知り今後の調べ学習についての見通しをもつ。	<p>■自分が調べたいことを決定して、高砂地区の問題点も考えながらイメージマップを作ってみよう。</p> <p>■3年生の先輩から、課題の設定で大切なことをインタビューしてきました。 (テープを聞かせる)</p>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまく、膨らませている子どもと、イメージの広がりが少ない子どもがいる。</li> <li>○</li> <li>○</li> <li>○</li> </ul>	<p>一人一人が考える学習を意識してほしい。</p> <p>「課題の条件」を書く欄が多くて、ウェビングする時間が少なくなってしまった。課題の条件を確認するのがしつこかったかな。でもなあ。</p> <p>・興味をもって聞き入っている。</p> <p>・テープを聞きながらメモをとっている生徒もいる。</p> <p>○ ○ ○</p> <p>課題について本当に分かっているかなあ。ちょっと心配だ。</p> <p>テープは生徒たちの興味を引いているぞ。よかったです。</p>

## 〈指導計画の評価 10月6日〉(2/4ページ)

● 支援者 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
○それで生徒たちに聞いているんですね。「友だちの話を聞いて、そういう問題もあるなと思った人は？」と。そしたら全員が挙手したんです。それを先生は確認してから、紙にもう1回書いてください。と言ったのですよね。	・生徒が全員手を挙げたので、自分でOKだと思ったんです。確認できたのでこれでいけると思いました。いけるというのは、お互いの話を聞き、自分でああそうかと思いながら、この子どもたちと授業が進められるっていう「いける」なんです。	
●生徒一人一人にプリントに向かわせて、課題を考えさせました。調べたいこと、決めた理由、調査方法を書いてねと。思いつかなかったら下の枠の中に書いて広げてみてね、というようなことを投げかけていますが、この間どんなことを考えていましたか。	・テープをいつ使おうかなと思ってました。どうしても、課題の条件をちゃんと理解させるということがネックだったんですよ。この後、ちゃんと続けて調査ができる、簡単な答えて終わらないようにさせたかったのです。それから住みよい高砂というテーマに立ち返らせるというところが難しかったので、どうしても気になっていたんです。プリントには、またもう1回「望ましい課題」について書くところがあるんですよ。それを見てしつこかったかなって、(迫り方が)その時自分で思いました。そこでウェビングの時間が少なくなっちゃったんですよ。	もう一押し、意識を高めるための工夫・アプローチがあればよかったです。
●迫り方のパターンをしつこいと感じていたのですね。カセットを早く使ったかったわけですか。あそこは、どうしても使ったかったんですか。	・いやあ、あせったんですね。授業はもしもの時に、こういうのを用意しておかなければなんだと、参観者のみんなに偉そうなことを言っておきながら、あっという間に使ったんです。不安でしょうがなかったんです。とても気になるポイントなので違うアプローチをしたくなったんです。	
●テープを流しながら何を考えていましたか。	・子どもたちの表情を見てました。ちなみに、とってもいいと思いました。これは、よかったかもしれないって思いました。変更して良かったと思いました。気になっていたんですよ。これで、子どもたちが、どう思っているんだろうって。あのテープの言葉がはやいので、聞き取れているかなあという気がしていました。	テープが頭から離れていかなかったんだな。子どもたちに応じた意欲のもたせ方はとても大切だ。

## 〈指導計画の展開 10月6日〉(3/4ページ)

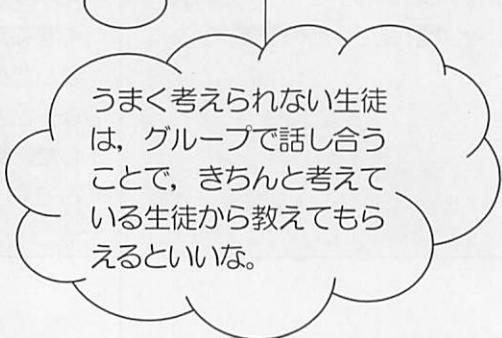
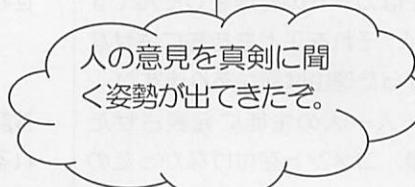
ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
お互いの考え方を聞き合い、見合いすることで、「あっそうか」と気付かせる。	<p>■前後の席の人と話し合って見ましょう。</p>  <p>(ここで1時間目が終わり、休み時間をとる。)</p> <p>■一人一人が自分の調べたいことを短冊(カード)に書いて掲示し、発表しましょう。</p> <p>■みんなの課題を同じような種別に分けて、並び替えてみますね。</p> 	<p>行き詰まっている生徒は、お互いに話を聞き合うことで課題を立てるためのヒントを見付けてほしいな。</p> <p>自分の考えた課題について話し合っているが、できない生徒もいる。</p> <p>もうちょっと時間をとればよかったかな。</p> <p>自分の課題を書いたカードを掲示して、一緒に他の人の課題を眺めている。</p> <p>「あの人と同じだ。」と興味をもって眺めている。</p> <p>立てた課題が一人であることに不安を感じている生徒もいるだろうな。</p> <p>不安を取り除くために、同じ課題の人がいることを強調して、一緒に協力していくことを伝えよう。</p>	

## 〈指導計画の評価 10月6日〉(3/4ページ)

●指導主事 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
○テープを聞かせた後、作業に入りました。机間指導中に声を掛けたり何かしらの働き掛けをしたりしたのはどんな判断からですか。	・できていない子、書けていない子、書いていてもちょっと違うかなという子がいました。	
●「友だちの意見を前後の席で聞いてみよう」というのはもともとの計画だったのですか。	・そうです。子どもたち一人一人全部声を掛けいくパターンもありますが、それをできるだけ少なくする方法は何なのかということで、計画を立てましたので、あそこでこれではそのまま進めないな。と思い、まず前後にしようかなと考えていました。やってみて前後がいいかどうか不安だったんですけどけれど。	気付き2 これまでいいのかなって不安に思っている生徒に、もっとアドバイスを与えよう。
●1時間目が終わった段階で、この時間のねらいはクリアできたなという判断でしたか。	・まあだいたい。雰囲気はよかったです。課題のところがひっかかっていたので。	
●生徒たちが黒板にカードを貼っているとき、先生は何を考えていきましたか。	・二つ考えました。本当は時間的におてしまつたので、貼った状態で2時間目に始めたかったという後悔がありました。一つ目は、休み時間に子どもたちの動きを見たかったということ、もう一つはだんだん増えていく様子を見せたかったということです。でも時間がかかりましたね。	
●あの場面は先生にとっての一つの評価場面だったんですね。	・最初でも途中でも子どもたちにさせようかと思いましたが、「全部がみんなの意見」という感じを大切にしてそこから移したいという気持ちがあったんです。	
○カードに書いて、黒板に貼り、最終的に全員発表してから、先生はカードの整理をしたんですが、それを子どもたちにさせなかつた理由は何かありますか。	・あれが決定ではないので、余計なことを言いたくなかったのです。その後グループで話し合いをさせるので、「はい次」という気持ちでした。	自分の課題がみんなと同じ所に貼ってあり、全員のカードと一緒に眺めることで学習になった生徒もいたな。
●一人一人の生徒に発表させた後、コメントを付けなかったのは理由があったのですか。	・教師が言うと、真剣に受け取るので、教師に流される。だんだんと高めていきたい。できている子とできていない子がいるので、教師から言われたことではなく、友だちの話を聞いて気付かせてやる方が、やる気がでるのではないか、モチベーションが上がるのではないかと思ったのでそうしました。そういうことにこだわっていました。	
○全員に話させる、全員の話を聞かせることにこだわったのはなぜですか。		

## 〈指導計画の展開 10月6日〉(4/4ページ)

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
一人では深められないことを集団で深め、気付かせるようにする。	<p>■黒板を見て、同じような内容の人と集まって話し合ってみましょう。</p> 	<p>比較的スムーズに黒板のカードのグループ分けを見て移動した。</p>	
	<p>■では、そのグループで、調べていく方法を考えて意見を出し合ってみましょう。</p> 		

## 〈指導計画の評価 10月6日〉(4/4ページ)

●指導主事 ○参観者

支援者・参観者	授業者	気付き
○今日は、全員まだ課題がはっきりしていない。次の時間に今日の後半をやって友達同士でやってそれでも万が一課題ができなかつた場合、先生が考えていることはどんなことですか。	・あるグループに発表させて、その発表に対し、課題の条件にある視点で調べやすいか、住みやすい高砂にするための方法、アイディアについて、みんなでアドバイスをする予定だったんです。あと1時間あれば、このことと調査方法について進めると思います。	
●時間が足りなくなってしまった理由は?	・一人一人言わせたところです。でも子どもたちは簡潔に言ってくれたと思います。全員に書かせてから休み時間にし、休み時間を利用して、私が黒板に貼っておいて、そこからスタートさせれば、時間内におさまったかもしれません。	
●一人一人が簡潔に言ってくれたのは、今日の流れだったから、そういうふうにできたと判断していますか。	・そうですね。あんなにちゃんと言うとは思わなかった。もっと時間がかかると思っていました。考えを話すことについて指導してきましたけれど、予想を越えた結果でした。あそこは発表して終わりだと思いました。せめて書くところまではやっておいて、順番に一列ずつ貼っておけば時間があったのになあと思っていました。それぐらい予想を越えてよくみんなの前で言ってくれたなあと思いました。	
●生徒たちがそういうふうに言ってくれた一番の要因は何だと思いますか。	・自分で課題を決めるというのは不安だと思うんですよ。不安だから先生と生徒のやりとりになって、なかなか進まないんですよ。課題を自分で決めるというのは「これ、よし」という気持ちの高まりがないと難しいと思うんです。その時「あいつも同じ内容だあ」ということが最大の武器になると思ったんです。教師の的確なアドバイスとは比べられないかもしれないが、安心感をもってほしいと思いました。	気付き3
●たくさんの課題が出たのですが、先生としてはこういうものも出てほしかったというものがありますか。	・ウォークラリーのことを考えると、歴史方面の方がもっと沢山あってもよかったかなあと思ったんですよ。どうしても福祉・環境に偏ってしまいかちなのでもっと広げてやりたかったなあと思いますね。そういう意味でもっと違った言い方があったかなという気がしています。	生徒たちは「地域のためになること」を考え、課題のジャンルが偏ってしまった。そうならないようアドバイスすべきだった。
●2時間目のねらいについて、先生としていけたかなという感じですか。	・集団思考という、みんなの力を借りてということについて測るものはないんですが、まあ、抵抗無く人の話を聞いたり、人前でしゃべったりということを繰り返して、「よし、やろうかな」と不安にならずにできたんじゃないかなあという感じですね。	

## (2) 「授業の振り返り」での気付きをもとにした指導計画の改善の実際

**気付き 1**：望ましい課題とは何かということについて生徒に理解させられなかった。

→改善 1：例を示し、課題解決を図るうえで、追究しやすく、資料も多く、解決が図られるような課題かどうか考えさせる。また、地域に貢献できるか具体的な取組を説明しながら課題を立てさせる。



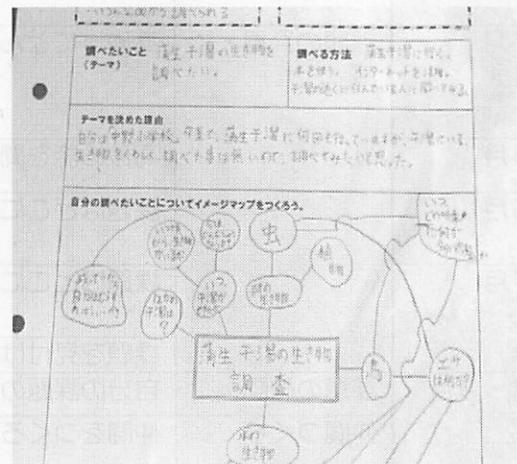
変更点 課題の例を挙げる

例えば、「七北田川の水質」という課題にしたとします。水質調査はどんな用具を使いますか。川のあらゆる地点で調べることができますか？難しいですね。

項目	ねらい	評価	主な発問
	<p>望ましい課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 追究しやすい</li> <li>・ 多面的である</li> <li>・ 資料が多い</li> </ul> <p>高砂地区の問題点を考えさせる。</p>	(3)	<p>どんな課題が望ましいと思いますか。 (プリントや黒板で確認させる。)</p>

**気付き2**：設定した課題が、課題の条件を満たしているかどうか不安に感じている生徒に対してのアドバイスが不足していた。

→改善2：友達同士の意見交換の時間を長目にとり、友達の課題づくりから自分の課題を深めさせる。また、机間指導中の個別指導は、望ましい課題の例を挙げながら説明する。



まずは、隣同士で不安に思っていることを話し合い、アドバイスをしてみましょう。  
机間指導で困っていることを丁寧に聞く。

#### 指導過程の変更

項目	ねらい	評価	中心発問
	<p>イメージマップを作ることによって自分の課題の関連を知り、今後の調べ学習についての見通しをもつ。</p> <p>お互いの考えを話し、聞き合うことで課題づくりのポイントと課題の条件について気付かせる。</p>	②	<p>課題設定の段階で、イメージマップづくり（ウェビング）を取り入れてみよう。</p> <p>班毎になってお互いの調べたいことについて相談してみよう。</p>

**気付き3**：「高砂地区のために何かできること」がネックになって、福祉や環境の方に偏ってしまった。歴史でもマップの作成など十分に高砂のためなることを確認させられなかった。

→改善3：年間計画にもっと多くの分野からの講話を設定すること、生徒が課題発見の段階でいろいろな分野で考える疑問や質問を受ける時間を設定することなどの改善で、広い視点から課題を考えられるようにする。

月・日	段 階	題 材	時	内 容
5月	ガイダンス	総合的な学習の時間って何？	2	ガイダンス 私のしたい10のこと
5月	課題の発見・認識	高砂ってどんな地域	2	B S法, K J法を用い、高砂についての意識を高める(S S)
5月		高砂の話を聞く会1	2	「歴史」についての講話
6月		課題はどこにある1	2	学区内ウォークラリーについての説明
7月		課題はどこにある2	2	学区内ウォークラリーの事前指導
		課題を見付けよう	2	自分の課題を考える
8・9月	課題の確認	自分の課題の発表	2	課題発表会
	仲間づくり	仲間をつくろう	2	同じ課題の者同士が集まってグループの課題を決定
	追求方法	計画を立てよう	2	ロールプレイ
	課題追究	現地へ行って調べよう	6	現地調査・お礼状の作成
10月	課題追究	中間発表会の準備1	2	資料・原稿の作成
		中間発表会の準備2	2	資料・原稿の作成
		中間発表会	2	中間発表会
		発表を終えて	2	お互いの発表を聞いて、いいとこ探しをしよう
11・12月	計画再検討 追究方法 課題追究	計画を見直そう	2	中間発表を終えて、計画を見直す
		調べる方法を知ろう	2	インターネットの使い方、図書館などの公共機関の利用法



年間指導計画を変更し、課題の発見で、高砂の話を聞く会に続けて、歴史・環境・福祉のジャンルのゲストティーチャーの講話を設定する。

### 3 指導計画の展開と授業者個人による「授業の振り返り」を取り入れた授業評価

#### (1) 展開と評価の実際

指導計画の展開⑤

10月12日(火) 5校時

ねらい	主な発問	子どもの反応	見取り・修正
前時の内容の確認と、同じ課題の者同士に分かれる。	課題が同じ人同士グループになって座ってください。	どうしても1人の生徒が2人いた。	
前時の反省を生かして、不安に思っている生徒を把握し、アドバイスする。	問題点や困っていること、不安なことを出し合ってみましょう。	「神社の歴史」は地域になにか返せますか？ 机間巡回をしっかりやって聞いて回った。	机間指導をしっかりやって、不安なことを聞き取ろう。
先輩からのアドバイステープを聞く。	それぞれのグループで調べる理由と調べる方法を発表してください。	分からぬことや不安なことを質問してきた生徒が4人いた。	気付き4
互いに考えを聞き合い、集団思考しながら、意識を高める。	発表を聞いてみんなからアドバイスをしてください。	手を挙げて意見を出し合う。	調べる方法に行き詰まってるな。

#### (2) 「授業の振り返り」での気付きをもとにした指導計画の改善の実際

指導計画の評価⑤

**気付き4**：調べる方法がインターネット中心で、その他の調べ方をうまく広げられなかった。

→改善4：ほぼ全員に意見を言わせたり、先輩のアドバイステープを聞かせたりしながら、教師からも具体的な例をあげて話をする。

#### 4 年間指導計画の更新に向けて

月・日	段 階	題 材	時	内 容
5月	ガイダンス	総合的な学習の時間って何?	2	ガイダンス
	課題の発見・認識	高砂ってどんな地域		調べ方や質問の仕方、まとめや発表の仕方などのアンケートを実施する。
5月		聞く会1	2	「歴史」についての講話
6月		ある1		福祉・環境等多くのゲストティーチャーをお願いする。
7月		ある2	2	学区内ウォークラリーの事前指導
		課題を見つけよう	2	自分の課題を考える
8・9月	課題の確認	自分の課題の発表	2	課題発表会
	仲間づくり	仲間を作ろう		集団思考によって意識を高めお互いアドバイスをさせよう。
	追求方法	計画を立てよう		
	課題追究	現地へ行って調べよう	6	現地調査・お礼状の作成
10月	課題追究	中間発表会の準備1	2	資料・原稿の作成
		中間発表会の準備2	2	資料・原稿の作成
		中間発表会	2	中間発表会
		発表を終えて	2	お互いの発表を聞いて、いいとこ探しをしよう
11・12月	計画再検討 追究方法 課題追究	計画を見直そう	2	中間発表を終えて、計画を見直す
		調べる方法を知ろう	2	インターネットの使い方、図書館などの公共機関の利用法
		アポイントメントの取り方	2	ロールプレイを行い、アポイントメントの取り方を学習する
		よう1	2	コースづくり
		よう2	2	コースづくり
1月	課題の追究	現地へ行って調べよう	2	調査・取材などの現地調査
		発表の仕方を学ぼう	2	発表情態・原稿作成の学習表現の仕方、話の聞き方
		感情を表現しよう		
		最終発表の準備1・2・3	6	発表会の原稿づくり
2月		発表会	2	まとめと発表会
		発表会を終えて	2	発表を終えて、いいとこ探しをしよう
3月	町内会やそれぞれの施設訪問、交流の場もつ時間をとる。		2	各分野の代表者発表会
			2	私のしたいこと
			2	報告書の読み合わせ
		地域の人との交流	4	話し合いや奉仕作業

## 5 本研究に取り組んで

### (1) 授業の振り返りについて

授業検討会が、参観者の個人的な意見や経験からの憶測で語られることが多い。授業者の願いや子どもの学びの事実に基づいた語り合いとなることによって、授業者自身の素直な「気付き」が生まれる。振り返りをすることは、授業者の授業改善に向けてのモチベーションを高く保つことにつながる。

現在の参観者による授業検討会の内容は、「先生はあの場面では多分、こう考えていたと思うのですが。」「あそこでは、もっとこうした方がよかったです。」「こんな方法もあったと思います。」「今日は大変ご苦労様でした。子どもたちも素直で先生との関係がいいんだなと感心しました。ありがとうございました。」などである。検討会での意見は、自分の考えの押し付けであったり、専門的分野外への遠慮から一般的な感想となったり、深まりのない意見であったりする。それゆえ、授業者にしてみれば「私が考えていたこととは違うのにな。」「なんかあなたの自慢話ですか。」などというような不満を残すことになる場合もあった。

一方、授業の振り返りでの参観者は、「先生は、こうしていましたね。」「どんなことを考えていたのですか。」「なるほど、そういうことだったのですね。」など、授業の中で起きている具体的な事実をたどりながら授業者の思いを聞いたり確認したりしながら、授業者の授業に込めた願いを聞かせてもらうことができる。授業者の願いや思いと子どもの反応とをつき合わせ話し合うことで、授業者は、自分の思惑と違った場面を善しに付けあしきに付け発見することになる。つまり自分で気付くことができる。

- ① 授業者自身が、授業の流れに沿って事実に基づいて詳しく振り返ることを参観者がサポートする。  
どんな願いやねらいをもって授業に臨んだかということを絶えず確認でき、自分の思いと一緒に授業を振り返ることで、今までよりもはるかに明確に修正ポイントを見付けることができる。そして、次の授業の指導過程を変更したり、単元終了を待たずに、指導計画の変更点や改善点に気付いたりすることができる。
- ② 授業改善に向けてのモチベーションが高い。  
授業者は、「願いはかなえたい。うまくいかないところがあった。何としてもうまくいかせたい。どうしたらいいだろう?」というような願いや悩みが錯そうしている。自らの気付きで悩みや不安が整理されるならば、気付きは、指導計画や指導過程等の変更へと生かされていく。

### (2) 自分自身の変化について

今まで研究授業等で授業検討会をしたり、自分なりに授業を振り返ったりしてきたが、振り返ることが授業をよい方向へ改善させたかどうか疑問であった。今回の「授業の振り返り」という手法で、自分が行った授業について思い出せる限りのことを時間の経過に沿って「当初の計画」→「見取ったこと」→「修正した計画」→「実施したこと」を確認していくと、授業に対する願いや生徒に対する思いを自分自身で気付き、事実をもとにした振り返りは、「もっと～こうした方が良かったな」という素直な反省にたどり着く。

今回のリフレクションによる授業の振り返りで、以下のようことが分かった。

- ① 授業の振り返り方のポイント。
- ② 教科や経験を超えて、学校という組織全体で子どもたちと関わる授業評価ができる。
- ③ 指導計画や指導過程の変更改善がスムーズにできる。

## 第Ⅳ章その1

# 授業改善に生きる「授業の振り返り」を取り入れた授業 検討会の一試み

教育経営研究

## 授業改善に生きる、支援者の協力による「授業の振り返り」を 取り入れた授業検討会の一試み

—小学校5年保健の授業における異なる方法と形態に着目した授業検討会の実施を通して—

長期研修員 目黒 悟

### I はじめに

#### 1 主題設定の理由

授業検討会は、授業研究の一環として取り組まれ、教授・学習過程の分析や問題点の把握と改善を検討する場である。これまでの一般的な授業検討会では、授業者の自評、参観者との質疑応答に続き、何らかの視点を設けての話合いがなされ、最後に指導・助言で締めくくられることが多かった。また、話合いでは、授業の構成や教材解釈、発問や板書等の妥当性等について参観者が一般論や自らの体験から価値付けを行うことが多く、時には、参観者の感想や印象だけを論ずる場となってしまう場合も見られた。

本校で行われてきた授業検討会について、次のような意見が出されている。(アンケート調査) 授業者の立場からは、「話合いの中で、これからどう努力したらよいか方向性が分からない」、「授業に即した具体的な提案を得にくい」などの意見がある。また、参観者の立場からは、「発言しにくく、授業研究が他人事になってしまっている」、「授業そのもの以外の抽象的な話が多くなる」といった意見が挙げられている。これらの意見から、授業検討会が授業改善につながっていない状況がうかがえる。

授業者として、授業検討会に関する自らの体験を振り返っても、子どもとのかかわりを基に自己

内省しようとして欠け、授業の中で起きたことを意味付けすることもなく、授業検討会を自分の授業改善につなげることができなかった。また、参観者としても、自分の授業に手軽に生かすことができるような目新しい教材や指導方法に目を奪われることが多く、授業者の授業に対する思いや願いをとらえようとすることなく、授業者の授業改善を促すような発言をすることができなかつた。

このように、これまでの授業検討会は、参観者によって授業が価値付けされることが多く、授業者自身が授業のねらいに基づいて、自分の授業を振り返るという視点が希薄であったと考える。授業のねらい達成に向けて、自らが計画した指導方法や指導内容等について、授業者が内省的な思考で振り返り、吟味していくことが、授業改善を促す大きな力になると考える。授業改善の視点に自らが気付き、解決を図っていくことで、授業者は自分の個性を生かした自分らしい授業を創造していくことができる。

以上のことから、授業者が自らの授業改善に向か、子どもの学びの姿という具体的な事実で授業を意味付け、支援者も授業者の自己内省を支援できるような授業検討会の進め方を探りたいと考え、本主題を設定した。

## 2 研究の基本的な考え方

### (1) 「授業改善」とは

授業のねらいの達成という目標に照らして、自らの授業を振り返り、指導上の課題や改善すべき事柄を明らかにし、課題の改善を目指すことを授業改善ととらえる。

授業の中では、授業者の働き掛けにより、授業者と子ども、子ども同士の間に様々なやりとりが生まれ、相互に関連性のある結び付きが出来上がる。そこで、授業改善を図るために、授業者の働き掛けに対する子どもの思考や行動等に着目した授業の振り返りが必要になると考える。子どもの学びの姿に焦点を当て、授業の振り返りをしていくことで、授業者は、自らの授業改善の視点に気付いていくと考える。

### (2) 「授業の振り返り」とは

授業者が参観者に促され、授業の中で起こった事實を子どもの学びの姿で確認していくことが、「授業の振り返り」である。

授業者が授業のねらいの達成に向け、見取った子どもの活動とそれへの対処について、時系列で振り返る。「授業の振り返り」を通して、自らの指導方法や指導内容等を吟味する。自分の授業を内省することは、授業改善の契機になると考える。

一方、参観者は、授業者の授業に対する思いや願いを共感的な立場で理解するように努め、「授業の振り返り」を支援する。そうすることで、参観者は一般論や自らの体験から授業を価値付けすることもなくなり、授業改善を促すような発言ができるようになると考える。

### (3) 「支援者の協力」とは

授業後、授業者が1人で授業を振り返ることは限界があり難しい。そのために、授業者の振り返りを手助けするのが参観者であり、その中でも授業者と共に授業づくりに取り組んだり、「授業の振り返り」を中心に援助したりする役割を担うのが支援者である。

支援者は、一方的な指導や助言、自分の解釈の押し付けをせず、時系列で授業中の事實に照らし、授業者の授業展開の意図を確認しながら、授業者

に授業改善の視点を気付かせていく。

## II 研究のねらい

授業改善に生きる授業検討会の方法と形態について、支援者の協力による「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会の実施を通して探る。

## III 研究の視点

視点1 異なる方法で授業検討会を実施し、授業検討会と次時の授業改善について比較する

- (1) 本校で行われてきた方法
- (2) 振り返り型を取り入れた方法

視点2 異なる形態で振り返り型の授業検討会を実施し、授業検討会と次時の授業改善について比較する

- (1) 全教職員が参加する研究全体会
- (2) 授業者が所属する学年部会

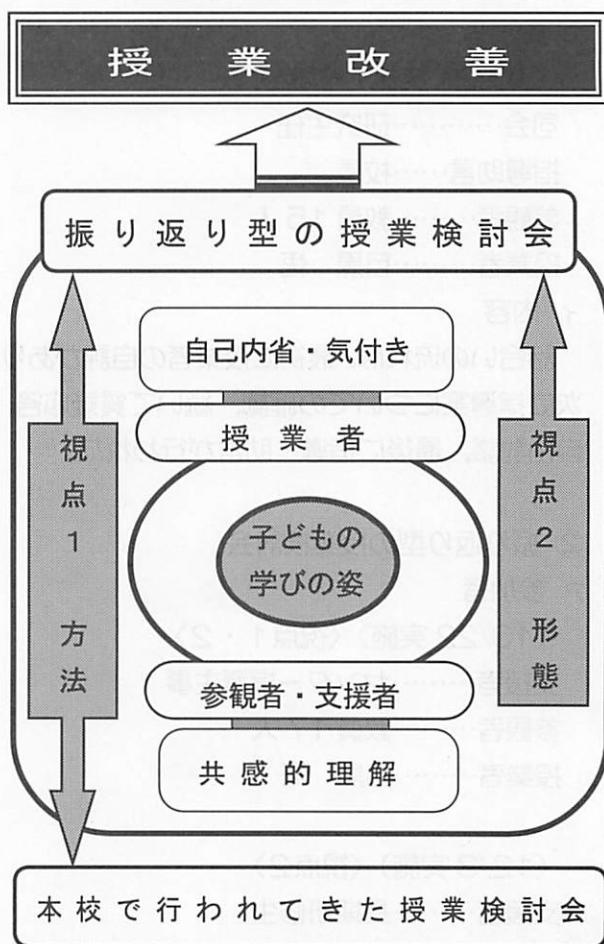


図1 研究構想図  
「授業改善に生きる授業検討会」

## IV 研究の概要

### 1 実践の概要

#### (1) 実施した授業検討会

表1 実施した授業検討会の一覧

	単元名 「心の健康」	S小学校5年1組	
		ねらい	実施した授業検討会
10月 21日 5校時	心も成長するのだろうか。 心は、様々な生活体験を通して年齢とともに発達することを理解させる。		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <span>視点1</span>            10/21            本校で行われてきた授業検討会            (全教職員)         </div> <div style="text-align: center;"> <span>10/22</span>            振り返り型の授業検討会            (全教職員)         </div> </div>
12月 3日 2校時	不安や悩みはどうすれば、いいだろう 不安や悩みには、いろいろな対処の仕方があり、自分に合った仕方で対処できることを理解する。		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <span>視点2</span>            12/3            振り返り型の授業検討会            (学年部)         </div> </div>

#### ① 本校で行われてきた授業検討会

##### ア 参加者

(10/21 実施) <視点1>

司会…………研究主任

指導助言……校長

参観者………教員 15人

授業者………目黒 悟

##### イ 内容

話合いの流れは、最初に授業者の自評があり、次に指導案についての確認、続いて質疑応答、自由討議、最後に指導・助言が行われた。

#### ② 振り返り型の授業検討会

##### ア 参加者

(10/22 実施) <視点1・2>

支援者………センター指導主事

参観者………教員 17人

授業者………目黒 悟

(12/3 実施) <視点2>

支援者………長期研修生

参観者………教員 7人

授業者………目黒 悟

##### イ 内容

振り返り型の授業検討会に取り組むに当たっては、神奈川県藤沢市教育文化センターの取組を参考にした。

実際に「授業の振り返り」を行うに当たり、次のようなルールを確認した。

- ・参観者と支援者は、授業中の授業者の発問や板書などの働き掛けとそれに対する子どもの言動や様子、表情などの反応を記録する。
- ・検討会は、時系列で授業を振り返る。参観者と支援者は、授業の記録を基に、子どもの姿から授業者の意図やねらいが実現できたかどうかを確かめながら、授業者に授業改善の視点の気付きを促す。
- ・参観者と支援者は、授業者のねらいや願いを理解することに努め、自分勝手な意味付けをしたり、価値付けをしたりしない。

#### (2) 視点1について

##### ① 本校で行われてきた授業検討会と次時の授業改善

##### ア 授業と授業検討会の概要 (資料1)

##### イ 授業検討会における授業者の気付き

授業者は、この授業検討会から、次のことに気付いた。

##### 気付き①:指導内容に関する理解の不十分さ

参観者9:心の定義として、感情・思考力・社会性というのがあったとしても、全部が絡み合っていて分類するのは難しいと思う。(中略) 親とか学校とか、いろいろな体験などをまとめていくと、遊びとか体験とか人とのかかわりが、すごく私たちには大事なんだ、と子どもたちの間でまとめられるのかなと思います。

授業者(子どもたちの書いた学習)シートを見て、分類なんかしないで、そのまままとめた方がいいなと思いました。

(【資料1】から抜粋)

##### ウ 次時の授業改善

授業者は、授業検討会での気付きから、次時の授業改善を以下のとおり行うこととした。

【11月1日3校時 5年2組で実施】

ねらい心は、様々な生活体験を通して年齢とともに発達することを理解させ、心を豊かにする生活や実践への意欲をもたせる。

	ねらい	主な発問	授業の改善点
導入	・普段意識していない心について関心をもたせ、学習のねらいをしっかりとつかませる。	・心も成長するのだろうか	
展開	・これまでの生活を振り返り、自分の心の成長をとらえさせる。  ・何が心の成長に影響を与えていくかを考えさせる。	・今の自分と1年生のころの自分を比べて、心の成長が見られるところを探そう  ・心の成長を仲間分けしてみよう  ・心は、どんなことにより成長してきたのだろう	<p style="text-align: center;">気付き①から</p> <p>心の成長の様子を基に、心の動きを分類させる前に、学習シートになぜ心が成長してきたのかを書きさせよう。</p>
まとめ	・学習を振り返らせ、自分に合った心を成長させる取組を考えさせる。	・今日の学習で分かったことや考えたこと、感想をまとめよう	

## ② 振り返り型の授業検討会と次時の授業改善

### ア 授業と授業検討会の概要（資料2）

#### イ 授業検討会における授業者の気付き

授業者は、この授業検討会から、次のことに気付いた。

##### 気付き①：Y君へのかかわり方のまずさ

支援者：Y君の「心の健康から、なぜ心の成長にいったのか」、という発言については、どうですか。  
授業者：Y君の答えをもう少しうまく受け止めて返してあげればよかったなど反省しています。  
(【資料2】から抜粋)

##### 気付き②：子どもの発言を取り上げる好機を逸したミス

参観者：時間をさかのぼりますが、先生の発言の後で、心という言葉に惑わされてはいけないよ、という発言がありました。そして、子どもの方から「感情」という発言があったんだと思います。

支援者：言ってます。言ってます。一番最初のところ。  
授業者：あっ、はい。

参観者：それは、今思い出しても、その場面をどう思いますか。何か引っかかっているものがありますか。

授業者：一番最初に出てきた「感情」ですか。あれは意図的に取り上げなかつたんです。感情あたりが子どもの心の動きとして、一番出しやすかったんだろうというのがあつたので、導入の段階で子どもが「感情」と言った時に、それは後にとておいてね、というような気持ちがあつたので、取り上げなかつたんです。

(【資料2】から抜粋)

#### 気付き③：教材に関するレディネスの把握が不十分

支援者：ここから、いよいよ仲間分け。やめようとは、思わなかったんですか。  
授業者：当然、これはやめた方がいいという考え方ももっていましたが、子どもたちなりの分類というのが、出来上がっているかなという気持ちもあったので、やりました。  
支援者：何が根拠でそう思ったんだろう。  
授業者：それは、7月に実施した4時間の授業の中で、子どもたちの学びの深さというのを感じていたので、もしかしたら、子どもなりの分け方のようなものができるかと考えてしまいました。  
(【資料2】から抜粋)

#### ウ 次時の授業改善

授業者は、授業検討会での気付きから、次時の授業改善を以下のとおり行うこととした。

【11月1日3校時 5年2組で実施】

ねらい心は、様々な生活体験を通して年齢とともに発達することを理解させ、心を豊かにする生活や実践への意欲をもたせる。

	ねらい	主な発問	授業の改善点
導入	・普段意識していない心について関心をもたせ、学習のねらいをしっかりとつかませる。	・心も成長するのかな	<p style="text-align: center;">気付き①から</p> <p>次時以降、Y君が発言した際は、発言の意図を確かめよう。単元を通して、子どもの意見の取り上げ方に留意していく。</p>
展開	・これまでの生活を振り返り、自分の心の成長をとらえさせる。  ・何が心の成長に影響を与えていくかを考えさせる。	・今の自分と1年生のころの自分を比べて、心の成長が見られるところを探そう  ・心の成長を仲間分けしてみよう  ・心は、どんなことにより成長してきたのだろう	<p style="text-align: center;">気付き②から</p> <p>導入の段階で、本時は、心の動きを感情、社会性、思考力に絞って学習していくことを押さえることにしよう</p>
まとめ	・学習を振り返らせ、自分に合った心を成長させる取組を考えさせる。	・今日の学習で分かったことや考えたこと、感想をまとめよう	<p style="text-align: center;">気付き③から</p> <p>事前に心に関するレディネスを把握してから、仲間分けをさせるかどうか決めよう。</p>

#### ③ 視点1についてのまとめ

	本校で行われてきた授業検討会	振り返り型の授業検討会
参加人数	18人	19人
所要時間	60分	60分

参観者・支援者の発言	感想	参観者の全発言中、半分が感想を占めた。その感想は、授業者の苦労をねぎらうものや、参観者自身が授業を価値付けしたものが、ほとんどであった。	参観者がもった印象や単なる感想は全く見られなかった。	参観者の感想	・振り返り型では、支援者の役割が大きい。 実施する上でのこつや工夫などが知りたい。 ・振り返り型では、話合いが授業者と支援者が中心で進められ、皆で高め合っているという印象を受けなかった。
	提案	(発言回数 16 回) 「こんな方法も考えられたのでは」、という提案も見られたが、授業者が授業の計画段階で検討していた内容と重なり、新たな気付きを促すものではなかった。	(発言回数 0 回) 参観者が考えた提案などは、全く見られなかつた。		
	質問	(発言回数 4 回) 授業者が、既に授業の実際の中で、自らが気付いていることを問うものがほとんどであった。	(発言回数 0 回) 授業者のねらいや願いに関するものが多かった。授業者が答えていたことと、実際の子どもの学びの姿とのずれや見落としから、気付きを促された。		
		(発言回数 12 回)	(発言回数 42 回)		
授業者的心情		「自分だったらこう指導する」、「失敗の原因はこれでは…」など、参観者が、自分自身の体験や一般論から授業の価値付けをするので、話合いが授業の事実から離れてしまう傾向が見られた。そのため、授業者にとっては、参観者に問い合わせられるような心情をもつた。また、授業者は、自分の授業を踏みされている印象をもち、素直に受け入れられない面もあった。	支援者と参観者が、授業者の授業に対するねらいや願いを理解した上で、発言していくので、必要以上に緊張感を感じることもなく、授業者は安心して授業を振り返ることができた。		気付き①:子どもの発言を取り上げる好機を逸したミス
		※授業者の発言回数 (18回)	※支援者の発言回数 (132回)		支援者:しばらくして、「不安や悩みは全く必要ないのかな」という投げ掛けをしたんですよね。そこで子どもたちから、いろいろ発言がありましたか予定どおりの反応でしたか。 授業者:予想外に、必要だととらえている子が多くて、うれしかったし、びっくりしましたね。 参観者2:子どもたちの言葉の中に、「やっぱり自分たちで問題解決していくって、それ経験していくのが大事なんだよ」と言っているのもあったね。 授業者:(大きくうなづく) 参観者3:いいこと言ってたよね。「友情が深まる」、「自分の経験になっていく」、「物事がはっきりする」、「解決方法を考えて解決していく」だとか、…。 参観者4:こんなにすごいこと言ってるのに、最後の方は、ガクッて、いらっしゃったけど、これは何だろう。(よい考え方最後に生かされていないのはなぜだろう、の意味) 授業者:子どもたちの実態がそこなんだろうな、と思ったのですが…。 （【資料3】から抜粋）
授業改善とのつながり		授業は指導計画どおりに進められたか、計画どおりでなかったのは何が悪かったのかということなどについて、参観者の体験や一般論から授業が語られるので、授業改善につながる気付きを得にくかった。	授業者のねらいや願いが達成できたかという視点から、授業の振り返りを行うことで、子どもへのかかわり方のまずさ、子どもの発言を取り上げるべき好機を逸したミス、教材に関するレディネスの把握の不十分さに気付いた。		気付き②:価値ある子どもの発言をグループ活動に生かす手立ての不十分さ
二つの検討会を比較した		・振り返り型の検討会は、授業者の技量向上にはなる、と感じた。 ・振り返り型の授業検討会は、自分の授業がどうだったのか答えるには、とてもいい場になるのだろうと思う。			支援者:1人で悩みの解消法を考えさせてから、グループ活動に入っていくことになりました。このあたりで、見ていた子どもたちの様子から何かありませんか。 参観者5:アンケートの集計結果に書いてあったことが、一番出ていたかな。どうでもいいことに凝っているグループもあったようだったけど 授業者:あらかじめ、(分かり易く大きく簡単に書くことを)一声掛けておけばよかったな。

支援者: そうすると、内容にこだわっている子どももいたけど、違うところにこだわっている子もいたと…。そのへん、今度やる時には、どうしていきたいと考えますか。
授業者: そうですね。「不安や悩みは必要ないもの」と聞いた時に、レベルの高い発言があって、それをうまくグループ活動に反映させる何かしらの手立てを考える必要があったように思います。 （【資料3】から抜粋）

気付き③: 子どもの実態に基づいた指導計画の見直し	
支援者: 3時間扱いの単元でしたが、終わってみて、この次またこの単元をやるとしたら、どんな修正を加えたいと考えていますか。	授業者: しっかり実態調査を行って、子どもの実態に基づいた授業設計をすることが大前提に、4時間くらいの時数はどうしても必要かなと思います。その中に、ストレス解消法が身に付くような実体験を伴う活動を是非、取り入れたいと思います。 （【資料3】から抜粋）

#### ウ 次時の授業改善

授業者は、授業検討会での気付きから、次時の授業改善を以下のとおり行うこととした。

【12月6日3校時 5年2組で実施】

ねらい: 不安や悩みにはいろいろな対処法があり、自分に合った仕方で対処できることを理解する。

	ねらい	主な発問	授業の改善点
導入	・本時の課題をとらえさせる。	・不安や悩みはどうすればいいのだろう	気付き①から  子どもから心の成長に関係する発言があれば、その意見をグループ活動に生かそう。
展開	・アンケート結果を見て、考えたことを発表し、悩みはだれもがもつものであることをつかませる。  ・不安や悩みの対処法を考えさせる。  ・自分に合った対処法を考えさせる。	・アンケート結果を見て、考えたことを発表しよう  ・不安や悩みは、全く必要のないものかな  ・不安や悩みの解消法を考え、発表しよう  ・自分に合った不安や悩みの解消法を見付けよう	気付き②から  アンケートの集計結果を手だてとして、不安と悩み、それそれに解消法を考えさせ、心の成長とのつながりを意識させよう。
まとめ	・学習を振り返らせ、自分が悩みをもった時の対処法を考えさせる。	・今日の学習で分かったことや、心の学習を通して考えたこと、思ったことを書こう	気付き③から  次回の指導に向けて、4時間扱いの指導計画に修正しよう。

時	実施した指導計画	修正後の指導計画
第1時	「心も成長するのだろうか」 ・心は、様々な生活体験を通して、年齢とともに発達することを理解させる。	「心は成長するのかな」 ・心は、様々な生活体験を通して、年齢とともに発達することを理解させる。  ※子どもの心のとらえ方の実態調査を基に、子どもの実態に合わせ、心の働きをとらえさせたい。その上で、心の働きの分類の必要性をどの段階で行うか検討し、心の成長を理解させたい。
第2時	「心と体のつながり」 ・心と体は密接な関係にあり、心と体は深く影響し合っていることを理解する。	「心と体はつながっているのかな」 ・心と体は密接な関係にあり、心と体は深く影響し合っていることを理解する。  ※養護教諭から、心と体の密接なつながりを示す話をしてもらう。子どもは、新潟の大地震によるストレス性の疾患の話を身近な問題としてとらえていた。次回も養護教諭の協力をお願いする。（ただし、養護教諭からどんな話をしてもらうかをしっかりと打ち合わせること。）
第3時	「不安や悩みはどうすればいいのだろう」 ・不安や悩みにはいろいろな対処の仕方があり、自分に合った仕方で対処できることを理解する。	「不安と悩みはどうすればいいのかな」 ・不安と悩み、それぞれの解消法を考え、いろいろな解消法の中から、自分に合った解消法を理解する。  ※不安と悩みは別々に分けて解消法を考えさせたい。実態調査の際、不安と悩みを分けて質問に答えさせ、その集計を本時で使用する。そうすることで、子どもの意欲も高まり、より具体的な解消法が考えやすい。解消法を考えさせる時は、心の成長との結び付きを意識させる。
第4時		「自分に合う解消法を見付けよう」 ・具体的に体験的な活動（体ほぐしの運動など）に取り組み、実践的に解消法を理解させる。  ※実態調査の結果や、前時までの3時間の子どもの様子を見て、子どもに適した体験的な活動（例えば、体ほぐしの運動やコミュニケーションスキル等）を用意する。自分たちで取り組めるものという条件で子どもに考えさせる方法も子どもの実態に応じて取り入れる。

※ 授業検討会で得た授業改善のポイント

#### ③視点2についてのまとめ

	振り返り型の全職員による授業検討会	振り返り型の学年部による授業検討会
参加人数	19人	9人
所要時間	60分	60分
参観者・支援者	参観者がもった印象や単なる感想は全く見られなかった。  (発言回数0回)	参観者がもった印象や単なる感想は見られず、子どもの姿を基にした感想が多く見られた。  (発言回数14回)  子どもの実態を知る参観者から、本時の中で自分が授業者だったらという立場の提案が見られた。

者 の 発 言	提案	(発言回数 10 回)	授業者にとっては、授業の中の具体的な事実で語られるので気付きを得られる場面もあった。
	質問	授業者のねらいや願いに関するもののが多かった。授業者が考えていたことと、実際の子どもの学びの姿とのずれや見落としから、気付きを促された。	(発言回数 4 回) 子どもの実態をよく知る参観者から、見取った子どもの姿からの質問が見られた。授業者の教材のとらえ方と子どもの実態にずれが生じていたことの気付きを促された。
授業者の心情		(発言回数 42 回)	(発言回数 7 回)
		支援者と参観者が、授業者のねらいや願いを理解した上で、話合いに参加していたので、必要以上の緊張感を感じることもなく、授業者は安心して検討会に参加できた。	支援者と参観者が、授業者のねらいや願いを理解した上で、話合いに参加していたので、必要以上の緊張感を感じることもなく、授業者は安心して検討会に参加できた。検討会に参加した全メンバーと授業者との間に同僚性が成立していいため、打ち解けた雰囲気の中で話合いを進めることができた。
		※支援者の発言回数 (132回) 授業者の発言回数 (155回)	※支援者の発言回数 (49回) 授業者の発言回数 (56回)
授業改善とのつながり		授業者のねらいや願いが達成できたかという視点から、授業の振り返りを行うことで、子どもへののかわり方のますさ、子どもの発言を取り上げるべき好機を逸したミス、教材に関するレディネスの把握の不十分さに気付いた。	授業者のねらいや願いが達成できたかという視点から、授業の振り返りを行うことで、子どもの発言を取り上げる好機を逸したミス、価値ある子どもの発言をグループ活動に生かす手立ての不十分さ、子どもの実態に基づいた指導計画の見直しに気付いた。子どもをよく知る学年部の教員の参加により子どもの学びの姿を基にした発言が、授業者にとっては、気付きを促す貴重な情報提供となつた。
二つの検討会を比較した参観者の感想		・前回の学校全体で行った「授業の振り返り」を取り入れた検討会より、学年部の方が、発言しやすかった。人数は少ない方が気付きが多い。 ・学年、あるいは学年部単位で研究を進める時に取り組むと、より効果が上がるのではないか。 ・堅苦しさが無く、今までよりは、授業者1人が緊張しなくて済みそう。	

## V 研究のまとめ

### 1 研究の成果

#### (1)振り返り型の授業検討会 〈視点1〉

授業検討会の方法として、振り返り型の授業検討会は、授業者の授業改善につながるといえる。振り返り型の授業検討会では、参観者の単なる感想や、授業とは直接関係のない質問は見られなくなる。授業者のねらいや願いが達成できたかという視点で、支援者や参観者が子どもの学びの事実から気付きを促すことにより、授業者は自分が見取った子どもの姿のずれや見落としたこと等に気付き、授業者自らが授業改善の視点を獲得することになった。

#### (2)学年部における振り返り型の授業検討会

##### 〈視点2〉

授業検討会の形態として、学年部（少人数）で行う検討会が、より子どもの実態に即した授業改善の気付きを得ることができると言える。学年部で実施した振り返り型の授業検討会は、子どもの実態をよく知る参観者ならではの具体的な子どもの様子を伝える発言が多い。このことは、価値ある子どもの発言を取り上げ、グループ活動等に生かすための支援不足に気付かされるなど、子どもを理解することは、その子の発言の意味や背景が分かり、学習を深めるなどの支援につなげることができた。授業者に児童理解も含めた気付きを促し、児童理解に即した授業改善の視点を獲得することになった。

### 2 今後の課題

振り返り型の授業検討会は、授業者にとって授業改善につながる気付きが得られる有効な方法であることが明らかになってきた。

今後、本校では、まず学年部での振り返り型の授業検討会を継続して実施し、それを通して得られる気付きを基に授業改善を重ねていきたいと考える。

#### 《引用文献》

- ・藤沢市教育文化センター 2003 「授業の中で起きていることを確かめる」
- 《参考文献》
- ・奈須正裕編集 2004 『学校の研修ガイドブック③「学力向上・学習評価」研修』 教育開発研究所

## ア 授業と授業検討会の概要（本校で行われてきた授業検討会）抜粋 〈視点1 ①〉

資料1

実際の授業場面		授業検討会の場面		
主な発問	子どもの反応	司会者・参観者	授業者	気付き
・今日から心の健康の勉強をします	(落ち着いて話を聞いている)	司: 最初に、授業者の自評をお願いします。	〈自評〉	①
・今日の課題は、「心」も成長するのだろうかです。	Y: 心の健康から、なぜ心の成長にいったのか H: 心「も」、じゃなくて、普通は「は」じゃない R: 心も体と同じように成長するということ	司: 〈質疑応答〉 ・資料の見方 ・指図案の見方 ・子どもたちとのかかわりの程度 等	・(単元指導計画の基準) ・(本時の授業の流れに沿い、自分の計画がどうだったかを説明) ・特に、思いどおりにいかなかったところを詳しく説明	
・今の自分と1年生のころを比べて、心の成長の見られるところを探そう。	(何を書いていいのか分からぬ子が数名いる)	司: 授業のよかったですをどんどん出して頂きたいと思います。(3人に指名)	〈質問に答える〉	
(期間巡回)	(たくさん書いている子が、随分多い)	参考1.2: 子どもたちにじっくり考えさせる時間をとられたところが、良かった。《同様の感想もう1人》	〈質問に答える〉	
・できるようになつたことが、心に関係していることか、考えてください。	(心の働きとは、関係のないこと書いている子も少しいる)	参考3: 授業がまとめきれなかったとはいうものの、あれだけ多くの意見を出してくれる雰囲気をつくっていったというのは、よかった。	参考4: それでは、同じ授業を2組でもする時に、改善することに役立てばと言うことで、更にこうした方がよかつたかなということがあれば、それを出して頂きたいと思います。	
・周りの友達と相談してみよう。	(活発に意見交換)	司: 〈自由討議〉	参考4: 心の比べっこ提案してから、教科書の例を出した後で、心に関係するかどうかという視点を与えましたよね。どういう風に気持ちが変わったのですか。《同様の感想を述べた人ももう1人あり》	
・発表してください。	A: 他人のことを考えるようになった B: 1人でお遊びができるようになった C: 自信がもてるようになった D: 集中できるようになった E: ものを考えるようになった F: 手を挙げられるようになった G: 善悪の判断がつけられるようになった H: 人を頼らなくなった I: 難しいものもやる J: 自分でできるようになった K: あまり泣かなくなった	参考5: 課題から次の発問へのつながりに無理があったのは、(という、指導の不十分さを問い合わせる質問。)	参考5: 課題から次の発問へのつながりに無理があったのは、(という、指導の不十分さを問い合わせる質問。)	
・心の成長を仲間分けしてみよう。	(どの子も自分なりの答えを書けたようだ)	参考6: 授業の導入段階で、映像的な手段を使う方法も考えられたのでは、(という提案。)	参考7: 心の成長をどうとらえているか。	
・心の成長は、何だったのだろう。		参考8: 何のために分類しようとしたのか。	参考9: 心って、何だろうと今考えているが、分からない。心の定義として、感情・思考力・社会性というのがあったとしても、全部が絡み合ってて分類するのは難しいと思う。子どもたちが、心の成長の理由として出していた、親とか学校とか友達とか、いろいろな体験などをまとめていくと、遊びとか体験とか人とのかかわりが、すごく私たちには大切なんだ、と子どもたちの間でまとめられるのかなと思いました。	
・今日の学習で分かったことや考えたこと、感想をまとめよう。		参考10: 残り2時間の指導の流れについて。	参考11: 心について考えるよい機会になりました。	
		参考12: KJ法的なまとめや整理する場面をつくれたかも知れない。	参考13: 子どもへの話しかがとても丁寧だった。	参考11: 〈子どもの想いを学ぶ〉シートを見て、分類なんかしないで、そのまままとめた方がいいなと思いました。
		参考14: 「心のノート」は使えないかな。	参考15: ゆっくり考える時間がとられていてよかった。	
		参考16: 子どもたちがよく考えていて、偉いと感じた。	参考17: じっくり考えさせたことで、いろいろな考えが出た。	
		参考18: 〈指導・助言〉 ・保健の授業提供に感謝。 ・本時の致命點は、本時のレディネスがないこと。児童の実態を基に考えれば、違った形にならう。 ・指導要領をよく読み、授業を組み立てることが大切。	参考19: 今後の指導の流れを説明する	

## ア 授業と授業検討会の概要（振り返り型の授業検討会）・抜粋 &lt;視点1 ②、視点2 ①&gt;

資料2

実際の授業場面		「授業の振り返り」の場面		
主な発問	子どもの反応	支援者・参観者	授業者	気付き
・今日から心の健康の勉強をします	(落ち着いて歩いている)	支:これから「授業の振り返り」を始めます。		気付き ①
・今日の課題は、「心」も成長するのだろうかです。	Y:心の健康から、なぜ心の成長にいったのか H:心「も」じゃなくて、普通は「は」じゃない R:心も体と同じように成長するということ	支:Y君の、「心の健康からなぜ心の成長にいったのか」という発言についてどうでした。		
・今の自分と1年生のころを比べて、心の成長の見られるところを探そう。				
(机間巡回)	(何を書いていいのか分からない子が数名いる) (たくさん書いている子が、随分多い) (心の動きとは、関係のないことを見ている子も少しいるな)		途中、省略	
・できるようになつたことが、心に関係していることか、考えてください。		参:時間を遡りますが、先生の発言の後で、心という言葉に惑わされてはいけないよ、という発言がありました。そして、子どもの方から、「感情」という発言があったんだと思います。		
・周りの友達と相談してみよう。	(活発に意見交換)	支:言っています。言っています。一番最初のところ。 参:それは、今思い出しても、その場面をどう思いますか。何か引っかかっているものありますか。	あっ、はい。	
・発表してください。	A:他人のことを考えるようになった B:1人でお遊びができるようになった C:自信がもてるようになった D:集中できるようになった E:ものを考えるようになった F:手を挙げられるようになった G:悪意の半端がつけられる H:人を頼らなくなった I:難しいものもやる J:自分でできるようになった K:あまり泣かなくなった	途中、省略	一番最初に出てきた「感情」ですか。あれは意図的に取り上げなかったんです。感情あたりが子どもの心の動きとして、一番出しやすかったんだろうというのかがあったので、導入の段階で子どもが「感情」といった時に、それは後にとっておいてね、というような気持ちがあったので、取り上げなかったんです。	
・心の成長を仲間分けしてみよう。		支:ここから、いよいよ仲間分け。やめようとは、思ひなかつたんですか。	当然、これはやめた方がいいという考え方ももつてたのですが、子どもたちなりの分類というものが出来上がっているかなという気持ちもあったので、やりました。	
・心の栄養は、何だったのだろう。	(どの子も自分なりの答えを出しあつた)	支:何か根拠で、そう思ったんだろう。	それは、7月に実施した4時間の授業の中で、子どもたちの学びの深さというのを感じていたので、もしかしたら子どもなりの分け方のようなものか出てくるかと想えてしました。	
・今日の学習で分かったことや考えたこと、感想をまとめよう。		途中、省略	やっぱり、子どもの実態のないところでは、授業設計はできないというのが、まず一番の反省です。7月に4時間授業をしたので、それを基にしたい過ぎできるだろうという甘い気持ちがあったので、結局そこが、子どもに負担を強いるような形になってしまいました。	気付き ③
		支:以上で「授業の振り返り」を終わります。		

## ア 授業と授業検討会の概要（学年部における振り返り型の授業検討会）抜粋 〈視点2 ②〉

資料3

実際の授業場面		「授業の振り返り」の場面		
主な発問	子どもの反応	支援者・参観者	授業者	気付き
<ul style="list-style-type: none"> <li>前の時間の学習を覚えてますか</li> <li>今日は、不安な時は、どうしたらいいか勉強します。</li> </ul> <p>(アンケート調査結果を都合してから)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートを見て、思ったことを発表しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>反応が悪すぎる（おかしいな、日にちが経っているので忘れてしまったのかな）</li> <li>一生懸命読んでるな Y：思ったより悩みが多いな</li> <li>（必要）の声多数</li> <li>H：友情が深まる A：自分の経験になっていく O：物事がはっきりする M：解決方法を考え解決する T：自分にアンテナを張る</li> </ul>	<p>支：これから、「授業の振り返り」を始めます。時系列で話を進めていきますが、導入・展開・まとめごとに区切って、先生方から子どもたちの学んでいる姿の情報を提供していただき、振り返りの手助けをして欲しいと思います。</p> <p>授業が始まる前、子どもたちにどんな姿になって欲しいと思っていましたか。</p> <p>（途中、省略）</p> <p>支：アンケートを見ている子どもたちの様子から、先生方向かありませんでしょうか。</p> <p>参1：子どもが、悩みで体のことが多いようない方をしてる子もいましたね。すごく数が少ないのに…。</p> <p>（途中、省略）</p> <p>支：しばらくして、「不安や悩みは全く必要ないのかな」という投げ掛けをしたんですね。そこで子どもたちから、いろいろ発言がありましたが、予定どおりの反応でしたか。</p> <p>参2：子どもたちの言葉の中に、「やっぱり自分たちで問題解決していく、それは鍛錬していくのが大事なんだよ」って言っているのもあった。</p> <p>参3：いいこと言ってたよね。「友情が深まる」「自分の経験になっていく」「物事がはっきりする」「解決方法を考えて解決していく」だと…。</p> <p>参4：こんなにすごいこといっているのに、最後の方は、ガクッて、いらっしゃったけど、これは何だろう。</p> <p>（途中、省略）</p> <p>支：1人で悩みの解消法を考えさせてから、グループ活動に入っていくことになりました。このあたりで、見ていた子どもたちの様子から何かありませんか。</p>	<p>今日の学習のねらいである、悩みをもった時に、一ついいから自分なりのストレス解消法を理解して欲しいという思いがありました。</p> <p>そうなんです。体のことを2人しか呪いてないのに、Y君が「多い」って言ったんですよ。あれでね、この「2」を見て多いと言うことは、最初に押さえたい、「悩みはだれもがちつもの」ということにつながりにくいと思ったんです。それで慌てて、悩みをもったことある人と言って、手を挙げさせました。アンケートだけでは、出てこないなと思ったんです。軌道修正って言うか、すぐあそこで手を挙げさせました。</p> <p>予想外に、必要だとたらえている子が多くて、うれしかったし、びっくりしましたね。</p> <p>（大きく頷く）</p> <p>あんなに出るとは、思いませんでした。</p> <p>子どもたちの実態がそこなんだろうな、と思ったのですが…。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>悩みや不安は、まったく必要のないものかな</li> </ul>				気付き ①
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりの不安や悩みの解消法を考えよう</li> <li>グループで不安や悩みの解消法 Best5 をまとめよう。</li> </ul>	<p>（グループに分かれて活動 活発に話し合っている様子）</p>	<p>参5：アンケートの集計結果に因いてあったことが、一番出ていたかな。どうでもいいことに、凝ってるグループもあったようだったけど。</p> <p>支：そうすると、内容にこだわっている子どももいたけど、違うところにこだわっている子どもいたと…。そのへん、今度やる時には、どうしていきたいと考えますか。</p>	<p>あらかじめ、(分かりやすく大きく簡単に書くことを) 一声掛けておけばよかったな。</p> <p>そうですね。「不安や悩みは必要ないもの」と聞いた時に、レベルの高い発言があって、それをうまくグループ活動に反映させる何かしらの手立てを考える必要があったように思います。</p>	気付き ②
<ul style="list-style-type: none"> <li>発表してもらいます。</li> <li>自分に合った対処法を見つけよう</li> <li>今日の学習で分かったことや、心の学習を通して考えたことをまとめよう</li> </ul>	<p>（1～8グループが、用紙にまとめたものを黒板に貼り、順番に発表）</p> <p>主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親友達兄弟に相談する</li> <li>スポーツをする</li> <li>友達と遊ぶ</li> <li>好きなことをする</li> <li>ゆっくり休憩する 等々</li> </ul>	<p>（途中、省略）</p> <p>支：今回授業をやられて、授業のねらいはどうだったと感じていますか。</p> <p>支：3時間長い単元でしたが、終わってみて、この次、またこの単元をやるとしたら、どんな修正を加えたいと考えていますか。</p> <p>支：これで「授業の振り返り」を終わります。</p>	<p>どの子も自分なりのストレス解消法を見つけられたようなので、ひとまずはねらいは達成されたと思います。</p> <p>しっかり実態調査を行って、子どもの実態に基づいて授業設計することを大前提に、4時間くらいの時割は、どうしても必要かなと思います。その中に、ストレス解消法が身に付くような実体験を伴う活動を是非、取り入れたいと思います。</p>	気付き ③

**第IV章その2**

## **授業改善に生きる「授業の振り返り」を取り入れた 授業検討会の一試み**

教育経営研究

### **授業改善に生きる「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会の一試み — 中学校2年数学の授業における授業検討会の実施を通して —**

長期研修員 登嶋 紀行

**I はじめに****1 主題設定の理由**

本校で実施した授業検討会に対する本校教員の意識調査の結果から、次の三つの問題点が指摘できる。

- ① 授業の進め方や教材の解釈、発問の是非など、授業者の指導技術について、参観者の感想や印象をもとに語られることが多い。結果として話題が授業者の授業づくりの意図とかけ離れたり、参観者の体験や一般論から授業が価値付けられたりする。
- ② 子どもの学びについて、具体的な事実をもとに語られることが少ない。
- ③ 教科の専門性という立場から、教科部以外での授業検討会は、実施されにくい。

授業検討会が、参観者の体験や一般論で語られた場合、授業改善の視点を明らかにするまでには至らない。

授業検討会の目的は、教師が、授業の改善を図り、子どもの望ましい変容につながる実践を充実させることにある。

授業者と子どものやりとりや、子どもの学びの姿という具体的な事実をもとに、授業者と参観者が語り合ってこそ、授業者は自らの授業を振り返り、内省できると考える。そして、計画した指導内容や指導方法等の改善の視点に自ら気付き、授業を改善していくことができると考える。

以上のことから、「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会の実施を通して、授業改善に生きるために授業検討会の在り方を探りたいと考え、本主題を設定した。

**2 研究の基本的な考え方****(1) 授業改善とは**

授業者が、授業のねらいの達成ということに照らして、自らの授業を振り返り、指導内容や指導方法等について、改善していくことととらえる。

**(2) 授業検討会とは**

研究授業後に行われる事後検討会を指す。授業者が、参観者の支援のもとに、授業者と子どものやりとりや子どもの学びの姿という具体的な事実を通して、自分の計画した指導内容や指導方法等の改善の視点について、気付いていく場ととらえる。

**(3) 「授業の振り返り」とは**

① 授業者が自分の思いや願いを振り返ること  
参観者が見取った授業者と子どものやりとりや、子どもの学びの姿の事実を手掛かりに、授業者が、授業のねらいの達成ということに照らして、授業の中での自分の思いや願いについて、振り返ることととらえる。

**② 授業者が子どもの思考や学習状況を振り返ること**

授業中、授業者一人がすべての子どもの学び

を見取り、把握することには限界がある。参観者が見取った授業者と子どものやりとりや、子どもの学びの姿の事実を手掛かりに、授業者が、授業の中で気付かなかった子どもの思考や学習状況について、振り返ることととらえる。

## II 研究のねらい

「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会の実施を通して、授業改善に生きるための授業検討会の在り方を探る。

## III 研究の視点

視点1 教科部において異なる方法で授業検討会を実施し、授業検討会と次時の授業改善について比較する（教科部での実践）

視点2 学年部において異なる方法で授業検討会を実施し、授業検討会と次時の授業改善について比較する（学年部での実践）

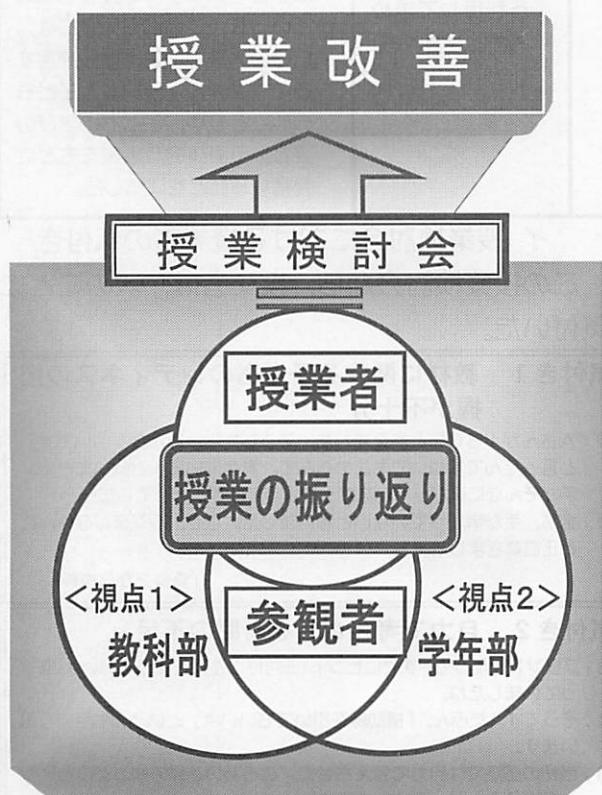


図1 授業改善に生きる授業検討会

## IV 研究の概要

### 1 授業検討会に対する本校教員の意識

#### (1) 調査のねらいと方法

① ねらい：教師の意識調査を実施し、本校で行われてきた授業検討会の課題を探る。

② 方法：質問紙法

#### (2) 調査対象

① 調査対象：仙台市立A中学校教員 22名

② 調査日：平成16年10月21日

#### (3) 調査内容

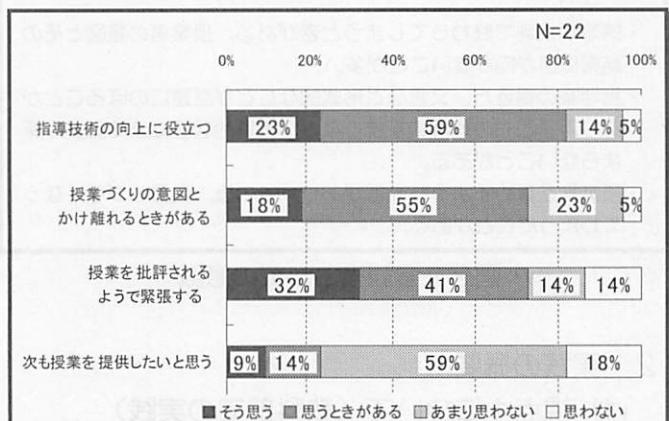
① 授業検討会における授業者の意識

② 授業検討会における参観者の意識

#### (4) 調査結果及び考察

① 授業検討会における授業者の意識

自分が授業者となった場合、授業検討会について、自分の指導技術の向上に役立つという意識がある一方で、授業づくりの意図とかけ離れたり、授業を批評されるようで緊張したりするという意識をもっている。その結果、次も授業を提供したいと考えている教師は、少ないことが分かった。（図2）



#### 自由記述から

- ・自分のいたらなかつた点を指摘、・指導されたとき、授業に対する慣れや甘えが改善できる。
- ・題材の認識や理解が深まり、自分にとって勉強になる。
- ・生徒の反応の解釈が自分の考えと異なるときに、アドバイスを素直に受け入れられないときがある。
- ・指導案どおりに授業が進まないときに、参観者に失敗授業を見せてしまったと思い、自分を責めてしまう。
- ・授業準備の大変さを考えると、授業検討会では「授業が終わってホッとした」という脱力感から、「何を言われてもかまわない」という気持ちになったことがある。

図2 授業者としての意識

## ② 授業検討会における参観者の意識

自分が参観者となった場合、授業検討会について、自分の指導技術の向上に役立つという意識がある一方で、内容に深まりがなかったり、授業者の苦労を考えると授業検討会の場で意見を述べにくかったりするという意識をもっている。また、半数の教師が、他教科の授業検討会には参加しにくいと感じていることが分かった。(図3)

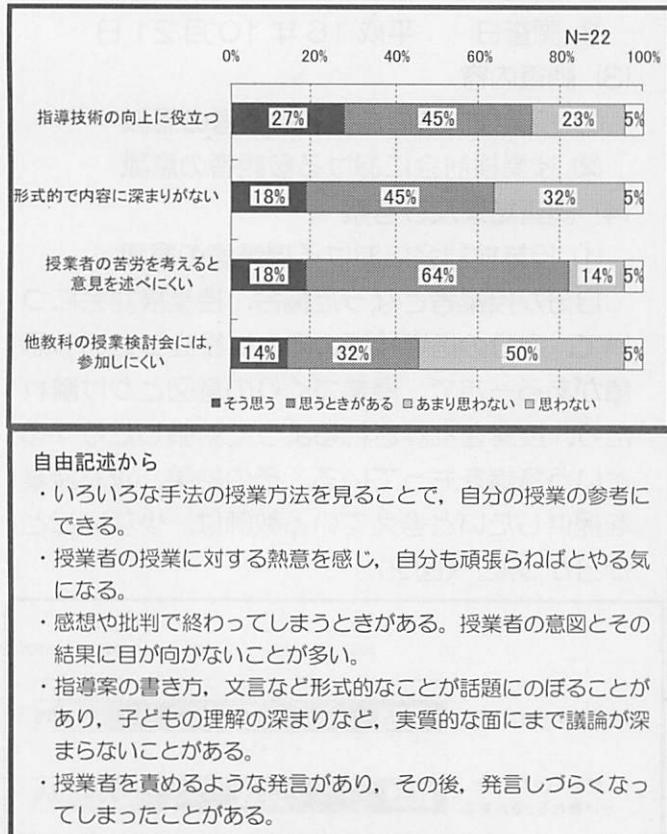


図3 参観者としての意識

## 2 実践の概要

### (1) 視点1について（教科部での実践）

#### ① 本校で行われてきた授業検討会と次時の授業改善

##### ア 授業と授業検討会の概要

	授業	授業検討会（資料1）
11月1日	対象:仙台市立A中学校2年1組	授業者:登嶋紀行 参観者:数学部6名 司会者:センター指導主事2名
5校時	単元名:多角形の内角と外角  ねらい:多角形の内角の和を三角形の内角の性質を利用して求めることができる。	方 法:藤沢市教育文化センターでの実践を参考にした。司会者が中心となり、授業記録をもとに時系列で授業を振り返る。司会者は、授業者のねらいをもとに子どもの学びの事実を確認していく。事前に参観者には、自分の体験や一般論から発言するのではなく、授業者と子どものやりとりや、子どもの学びの姿という具体的な事実をもとに発言することを確認した。

## イ 授業検討会における授業者の気付き

この授業検討会から、授業者は、次のことに気付いた。

### 気付き1 教材に関する子どものレディネスの把握が不十分

参: 子どもたち、三角形の内角の和が180°って小学校でやっていますよね。それが、どの程度分かっているか、レディネステストあたりで見ていかないと、やはりスタートラインが厳しい。

授: そうでしたね。子どものレディネスを把握するべきでした。

(資料1から抜粋)

## ウ 授業の改善点

授業者は、気付き1から、次時の授業前に、教材に関する子どものレディネスを確認しようと考えた。

### ② 「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会と次時の授業改善

#### ア 授業と授業検討会の概要

	授業	授業検討会（資料2）
11月1日	対象:仙台市立A中学校2年1組  単元名:多角形の内角と外角  ねらい:多角形の内角の和を三角形の内角の性質を利用して求めることができる。	授業者:登嶋紀行 参観者:数学部6名 司会者:センター指導主事2名 方 法:藤沢市教育文化センターでの実践を参考にした。司会者が中心となり、授業記録をもとに時系列で授業を振り返る。司会者は、授業者のねらいをもとに子どもの学びの事実を確認していく。事前に参観者には、自分の体験や一般論から発言するのではなく、授業者と子どものやりとりや、子どもの学びの姿という具体的な事実をもとに発言することを確認した。

## イ 授業検討会における授業者の気付き

この授業検討会から、授業者は、次のことに気付いた。

### 気付き1 教材に関する子どものレディネスの把握が不十分

参: Aさんが180°と答えました。そうしたら、みんな「いいです」と言ったんですね。でもこのへんで、覚えている人と聞いたとき、手がそんなに挙がっていなかったようですが、どうでしたか。

授: 全然、手が挙がっていないと思いました。なぜ、手を挙げないんだと正直驚きました。

(資料2から抜粋)

### 気付き2 自力で考えさせる時間の不足

司: プリントを配って、すぐにヒント(三角形の性質を使うといいよ)を言っていましたね。

授: そうです。たぶん、「補助線を引いてもいいよ」というのも早いと思います。

司: 当初の予定では自力で考えさせて、ころあいを見てゆっくりとヒントを出そうと思っていたのですね。

授: はい、そうです。

(資料2から抜粋)

### 気付き3 対角線の交点が二つあると考えた子どもたちの見落とし

参：この考え方をやった子って、廊下側の子、この子がそれを式で表していましたね。あと、女の子の前の方の子たちが、迫りそうだったんだけど、「あーだめだ」と言っていました。

授：やっていましたか。分かっていなかった。そのへんの考え方を取り上げられたかな。そこがもう、やっぱり後の活動が頭にありましたね。

司：N君とね、Kさんとね、あのへん、やっていましたよ。

授：私が見たのは1人だけだったんだけれど、結構いたんですね。  
(資料2から抜粋)

### 気付き4 作成した課題の難易度の吟味が不十分

参：先生、最後とても苦労されていましたね。「暗算が得意な人」と言っていました。Aさんも計算して、なるとか、ならないとか言っていましたね。

授：確かに、(時間のないところでは)いきなり大変な計算でした。

参：先生、暗算が得意な人だったら百二角形なんて、いかがでしょう。

授：おお、なるほど、そうすればよかった。機転がきかなかった。  
(資料2から抜粋)

## ウ 授業の改善点

授業者は、授業検討会での気付きから、次時の授業を次のように修正した。(表1)

表1 次時の授業改善

#### 数学科指導計画

11月4日 4校時 2年3組

単元名：多角形の内角と外角

ねらい：多角形の内角の和を三角形の内角の性質を利用して求める  
ことができる

ねらい	評	主な発問	授業の改善点
導入	・既習事項を確認し、内角の意味を理解する。	知	・三角形、四角形の角の合計は何度だろう。  気付き1から事前にレディネスを確認し、理解の不十分な子どもにも分かるような補助教具を使おう。
展開	・内角の和を求めるには、様々な方法があることに気付く。  ・内角の和の求め方を説明できる。	考 表	・五角形の内角の和は度だろう。  気付き2からプリントを配布して、少し待とう。半数の子どもが一つの考え方を見出したころ、ヒントを出そう。  ・六角形、七角形の場合はどうなるだろう。
まとめ	・学習を振り返らせ、解き方のよさや意味を知る。	知	・百角形の内角の和を求めてみよう。  気付き3から対角線の交点が二つあると考えた子どもがいたら、全体に紹介し、同様に考えている子どもがいないか確認しよう。  気付き4から発問を「百二角形の内角の和を求めてみよう」に変更しよう。

### ③ 視点1についてのまとめ

教科部における本校で行われてきた授業検討会では、授業者は、子どものレディネスの把握が不十分であったことに気付き、次時の授業を改善しようと考えた。

「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会では、授業者は、子どものレディネスの把握が不十分であったこと、気付き3・気付き4のように、子どもの数学的な思考の見取りが不十分であったこと等に気付き、次時の授業を改善しようと考えた。

また、二つの授業検討会に対する授業者、参観者の意識は、表2のとおりである。「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会では、授業者は、一般論で参観者に授業の善しあしを価値付けられることがないと感じた。一方、参観者は、授業者の立場に立って、授業検討会に参加できることが分かった。そして、自分も一緒に授業を振り返り、授業改善に結び付けることができると感じていることが分かった。

表2 授業者、参観者の意識の比較

	本校で行われてきた授業検討会	「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会
授業者	・検討会での話題は、一般論が中心であり、参観者から、授業を批評されると思い、緊張してしまった。	・検討会での話題は、子どもの姿が中心であり、参観者が、子どもへの働き掛けの意図を理解してくれるので、授業の善しあしを価値付けられることないと感じた。
参観者 (アンケート結果から)	・緊張感があり、授業者に的確な指導ができる。 ・授業者へのアドバイスが、単なる提案で終わってしまう。 ・授業からかけ離れた話題のときがあり、授業検討会自体の雰囲気も少し堅苦しくなってしまう。 ・子どもの学ぶ姿が、あまり話題にならず、一般論が主になってしまふ。	・本音で話ができ、質問もしやすい。 ・授業全体が映像のように、思い出すことができる。 ・発問の意図が分かり、子どもの反応が意図どおりだったか、されていたのかが明確にされた。 ・目の前の子どものことが話題になるので、次の授業改善にすぐに結び付けることができる。 ・授業者の立場に立って、授業を振り返ることができる。

## (2) 視点2について（学年部での実践）

### ① 本校で行われてきた授業検討会と次時の授業改善

#### ア 授業と授業検討会の概要

	授業	授業検討会（資料3）
11月4日 校時	対象：仙台市立A中学校2年3組 単元名：多角形の内角と外角 ねらい：多角形の内角の和を三角形の内角の性質を利用して求めることができる。	授業者：登嶋紀行 参観者：2学年部6名 司会者：研究主任  方法：授業検討会の進行に当たっては、司会者を中心に、本時の授業の流れに沿って、授業者の自評、質疑応答、自由討議という流れで実施した。

#### イ 授業検討会における授業者の気付き

この授業検討会から、授業者は、子ども理解の気付きは得られたが、それは、直接授業改善につながる気付きとはならなかった。

#### ウ 授業の改善点

授業者は、授業改善につながる気付きを得られなかつたことから、次時の授業改善の視点を明確にすることはできなかつた。

### ② 「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会と次時の授業改善

#### ア 授業と授業検討会の概要

	授業	授業検討会（資料4）
11月4日 校時	対象：仙台市立A中学校2年3組 単元名：多角形の内角と外角 ねらい：多角形の内角の和を三角形の内角の性質を利用して求めることができる。	授業者：登嶋紀行 参観者：2学年部6名 センター指導主事2名 司会者：研究主任  方法：藤沢市教育文化センターでの実践を参考にした。司会者が中心となり、授業記録をもとに時系列で授業を振り返る。司会者は、授業者のねらいをもとに子どもの学びの事実を確認していく。事前に参観者には、自分の体験や一般論から発言するのではなく、授業者と子どものやりとりや、子どもの学びの姿という具体的な事実をもとに発言することを確認した。

#### イ 授業検討会における授業者の気付き

この授業検討会から、授業者は、次のことに気付いた。

#### 気付き1 教材に関する子どものレディネスの把握が不十分

参：一緒に授業を考えたときは、あそこ（四角形の内角の説明）はなかつたんですね。ずっと三角形でとおすと。生徒の様子を見て、急きょ変えたんですね。

授：生徒の様子を見て、やっぱり四角形もきちんと押さえないとダメかなと思ったんです。

#### 気付き2 理解するまでに時間要する子どもたちの学習状況の確認の甘さ

参：S君が前に出てきて、考え方を説明したんですね。このときの子どもたちの様子はどうでしたか。  
授：理解の遅い子どもたちが、どの程度、この考え方（360°を引くこと）を分かっているのか気になっていました。確認がちょっと甘いですね。（資料4から抜粋）

#### 気付き3 数学の苦手なMさんの学習状況の確認が不十分

参：この8人の挙手の中に、Mさんは、いましたか。  
参：Mさん、手が挙がっていませんでしたね。  
授：んー、ちょっと記憶がありません。  
参：確かにMさんは、四角形の内角の和が360°で円になると一番最初に言ったんです。だからMさんが分かっていれば考え方が結び付いていたかなと思いました。  
授：Mさんに、確認すればよかったですね。（資料4から抜粋）

#### 気付き4 学習への取組が意欲的ではないTさんの支援の甘さ

司：最後の発問で、分かった人と聞いたら、かなりの数が挙手をしました。その後、（プリントに）印かせていましたが、そのときは、どんなことを考えていましたか。  
授：T君に、個別指導をしようと思って声を掛けたんですが、最後、解けているのかを確認しませんでしたね。  
参：T君、まったく書いていませんでしたね。  
授：もう少し、時間をとって、声を掛けてあげればよかった。（資料4から抜粋）

#### ウ 授業の改善点

授業者は、授業検討会での気付きから、次時の授業を次のように修正した。（表3）

表3 次時の授業改善

数学科指導計画			
11月5日 2校時 2年4組			
単元名：多角形の内角と外角 ねらい：多角形の内角の和を三角形の内角の性質を利用して求めることができる			
導入	ねらい	評	主な発問
	・既習事項を確認し、内角の意味を理解する。	知	・三角形、四角形の角の合計は何度だろう。
展開	・内角の和を求めるには、様々な方法があることに気付く。	考	・五角形の内角の和は何度だろう。
	・内角の和の求め方を説明できる。	表	・六角形、七角形の場合はどうなるだろう。
まとめ	・学習を振り返らせ、解き方のよさや意味を知る。	知	・百二角形の内角の和を求めてみよう。

### ③ 視点2についてのまとめ

学年部における本校で行われてきた授業検討会では、授業者は、子ども理解の気付きは得られたが、それは直接授業改善につながる気付きとはならなかった。

「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会では、授業者は、レディネスの把握が不十分であったこと、気付き3・気付き4のように配慮を要する子どもへの支援が不十分であったこと等に気付き、次時の授業を改善しようと考えた。

また、二つの授業検討会に対する授業者、参観者の意識は表4のとおりである。「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会では、授業者は、参観者が専門教科外であっても、授業のねらいに即した話合いができると感じた。一方、参観者は、担当教科が異なっていても、授業者の立場に立って授業検討会に参加できることが分かった。

表4 授業者、参観者の意識の比較

	本校で行われてきた授業検討会	「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会
授業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>検討会での話題は、感想が中心であり、参観者が、専門教科外の担当ということもあり、授業を批評されるという意識はなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検討会での話題は、子どもの姿が中心であり、参観者が専門教科外の担当であっても、話合いが授業からそれることがなく、授業を内省的な思考で振り返ることができた。</li> </ul>
参観者 (アンケート結果から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門教科ではないので、感想や印象しか言えない。</li> <li>常に仕事を共にしている学年部なので、検討会の雰囲気は温かい。</li> <li>具体的な指導内容や指導方法についての話合いはできないと思う。</li> <li>学年部の教師とともに、心配な子どもの最近の生活態度等が話題になった。</li> <li>自分の教科以外では、子どもたちがどのように授業に取り組んでいるのか参考になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業者の意図をくみ取り、共感的理解をしながら話合いを展開できるので、雰囲気としては、温かく柔らかい感じがする。</li> <li>参観者も授業者と一緒に、授業を振り返ることができる。</li> <li>教科が異なっていても、子どもへの授業者の働き掛けはとても参考になり、自分の勉強になる。</li> <li>授業者の発問の意図と生徒の反応の対比がしやすく、授業者の気持ちが分かりやすい。</li> <li>授業者の立場に立って、授業を振り返ることができる。</li> </ul>

## V 研究のまとめ

### 1 研究の成果

教科部または学年部における「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会では、本校で行われた授業検討会と比較して、授業者は、内省的な思考で授業改善の視点に自ら気付き、次時の授業を修正することができた。

#### (1) 教科部における「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会の実施 <視点1>

教科部における「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会では、参観者が専門教科の教師であるため、授業者は、子どもの数学的思考を中心に入試を振り返ることができた。その結果、子どもの数学的な思考の見取りが不十分であったこと等に気付き、授業改善の視点が明確になり、次時の授業を修正することができた。

#### (2) 学年部における「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会の実施 <視点2>

学年部における「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会では、参観者が学年部の教師であるため、授業者は、その学年で配慮を要する子どもの学習状況を中心に授業を振り返ることができた。その結果、配慮を要する子どもへの支援が不十分であったこと等に気付き、授業改善の視点が明確になり、次時の授業を修正することができた。

### 2 今後の課題

教科部または学年部における「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会を意図的・計画的に組み合わせて実施する。

教科部における子どもの数学的な思考を中心とした授業の振り返りと学年部における配慮を要する子どもの学習状況を中心とした授業の振り返り、それぞれの振り返りのよさを生かすことで、多様な視点で、授業を振り返ることができると考える。このことから、教科部または学年部における「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会を意図的・計画的に組み合わせて実施することで、より質の高い授業改善につなげていきたい。

#### 《引用文献》

・藤沢市教育文化センター 2003 「授業の中で起きていることを確かめる」

#### 《参考文献》

・福垣忠彦、佐藤 学 1996 「授業研究入門」 岩波書店

## 資料1 教科部における本校で行われてきた授業検討会（抜粋）

11月 1日 実施

実際の授業場面		授業検討会の内容		
主な発問	子どもの反応	参観者の発言	授業者の発言	気付き
<導入> (途中省略) ・三角形の三つの角の合計は何度だろう? ・覚えている人?  ・四角形の四つの角の合計は何度だろう? ・覚えている人?  (途中省略)	(つ)は授業者の思い 全: 挙手8人。 A: 180°です。 全: 挙手6人。 全: 挙手10人。  M: 360°です。 全: 挙手15人。 (きちんと理解しているかな) (時間をだいぶとってしまったな)	司: では最初に登島先生より、今日の授業についてお話をいただきます。自評を含めていろいろとお願いします。	<自評> ・圓形の最初ということで、子どもたちが、どのように反応してくれるかなと不安だったのですけども、最初の三角形の三つの角の合計が180°、四角形の四つの角の合計360°この点が、生徒が分かっているかどうか確認ができなくて、ちょっととまとってしまいました。自分としては、実際角を切って並べて確認というところまではスムーズにいくのかと思っていたのですがどちらもちょっとここで時間をとっていました。 今日の一番のねらいとするところは、その次の活動である五角形の内角の和をいろいろな方法で調べてみようというところでした。ここでいろいろなやり方を見付けて、最終的には三角形の数に替出したかたちで、180° × (三角形の数)というところにもっていきたいなと思っていました。	
<展開> ・五角形の内角の和は何度だろう? というものが今日の課題です。 (プリント配布) ・いろいろな方法で考えてみてください。 (机間指導) ・ヒントを出す。  ・周りの人と相談して考えよう。 (机間指導)	全: 真剣に話を聞いている。  全: 個人で五角形の内角の和を考えている。 (多様な考え方が出るかな)  全: 考え1、考え方2が書いてきている。 (考え方3、考え方4が出てこない、不安)  全: 集団で考える。 (考え方3、考え方4が出てきたぞ、安心)  T: 難しい考え方5に取り組んでいる。 (これは、どうしよう。 1人だけか。ちょっとできそうにないので、この考えは取り上げないことにしよう)	司: それでは、質問等よろしくお願いします。 参1: いろいろな方法、考え方を使って、子どもたちが試行錯誤を繰り返しながら、非常に興味深くやっていたので、本当に楽しいだろうなという感じがしました。私も1年生を担当していて、説明をするということが(子どもには)難しいように思います。授業を見ていて、代表生徒が説明をしていましたが、ほかの子どもたちもいろいろな答えを出していました。式は書いているけれども、自分の言葉で説明する機会を、授業の中でどうやって確保していったらよいのかなど、私自身も考えさせられながら見ていました。  参2: やっぱりうちの生徒の特徴かなと思うのですが、課題に対し1人でできる子と、補助線は引けるが式ができない子と、何をやったらいいのか分からない子とで、差が大きいと思う。そこを、どうしたらいいものか迷っています。	参3: まず、最初の導入、ここが、あまりよくなかった。15分かかったというのは、やっぱり少しかかりすぎたかな。やはりこのへんは10分くらいで手を打っておかないと、まとめまでは厳しい。ただ、子どもたち、三角形の内角の和が180°って小学校でやっていますよね。だから、それがどの程度分かっているか、レティニステストあたりで見ていかないとい、スタートラインが厳しい。そこがうまくいかなかったところかな。あと四角形の内角の和で、なかなか360°が出なかったところですが、そのとき長方形という話が出たので、そこから長方形の四つの角の和は何度かなというかたちで360°を出してよかったです。そうすれば、180°や360°は多分、それほど出すのに時間はかかるなくて済んだのかな。	・そうでしたね。子どものレティニスを把握するべきでした。
・発表してくれる人?	全: 挙手多数。 A: 考え2を発表。 B: 考え1を発表。 T: 考え3を発表。 D: 考え4を発表。 (発表はなかなか上手だぞ、B君の考え方を使って、三角形の数に替目させよう)  (途中省略)	参3: さっき話のあった今日の授業のグループで考えさせるところですが、今日の授業では私は1人の方でよかったです。子どもたちから三角形と四角形の分割が出てきたのはいいなと思いましたよ。私だったらそのようなイメージがないので、全部三角形に分けてしまうというイメージがあったのですが、その辺は、さすが子どもたちだなと思いましたね。	・やはり、普段から授業の中に、発表場面を意識して設定する必要があると思います。	
<まとめ> ・百角形の内角の和を求めてみよう。  ・暗算が得意な人?	全: 180×98を計算している。 (大変な計算だ。時間がない、どうしよう。でもここで終わりにはできない) A: 17640°です (うわー、計算が難しかったな)	司: 例えは子どもたちに「100°です」と答えさせる場面がある。そのときに、なんで100°なのかと、少し我々の方でちょっと掘り下げて常に質問していくことが大切なのではないか。	<途中省略>	
		司: 以上で授業検討会を終わります。		

## 資料2 教科部における「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会（抜粋）

11月1日 実施

実際の授業場面		授業検討会の内容（授業の振り返り）		
主な発問	子どもの反応	参観者の発言	授業者の発言	時間
<導入> (途中省略) ・三角形の三つの角の合計は何度だろう? ・覚えている人?  ・四角形の四つの角の合計は何度だろう? ・覚えている人?  (途中省略)	（）は授業者の思い  全：拳手8人。 A：180°です。 全：拳手6人。 全：拳手10人。  M：360°です。 全：拳手15人。 (きちんと理解しているかな) (時間をだいぶとってしまったな)	司：授業の振り返りを始めます。 (途中省略) 司：Aさんが180°と答えました。そうしたら、みんな「いいです」と言ったんですね。でもこのへんに覚えている人と聞いたとき、手がそんなに拳がっていなかったようなんですが、どうでしたか。 司：同じく四角形のときも、手を挙げたのが半分くらいでしたかね。これは、先生どのように判断していましたか。  (途中省略)	(途中省略) ・全然、手が拳がってないと思いました。確かに、6人かな。「えー」180°って知っているよな、四角形360°ってふつうだよな。なぜ手を挙げないと正直驚きました。  ・これはですね、たぶん恥ずかしいのだろうと判断しました。何人かうなずいている子もいたので、ここで無理して手を挙げさせることもないかなど自分では思っていました。でも「本当に分かっていないのかな」という不安もありました。 (途中省略)	1
<展開> ・五角形の内角の和は何度だろうというのが今日の課題です。 (プリント配布) ・いろいろな方法で考えてみてください。 (机間指導) ・ヒントを出す。  ・周りの人と相談して考えよう。 (机間指導)	全：真剣に話を聞いています。  全：個人で五角形の内角の和を考えている。 (多様な考え方が出るかな)  全：考え方1、考え方2が答けてきている。 (考え方3、考え方4が出てこない、不安)  全：集団で考える。 (考え方3、考え方4が出てきたぞ、安心)  T：難しい考え方5を取り組んでいる。 (これは、どうしよう。 1人だけか。ちょっとできそうにないので、この考え方を取り上げないことにしよう)	司：ヒント（三角形の性質を使うといいよ）は、言うつもりはなかったんですか。 司：言うタイミングは、いつごろを教えていましたか。 司：プリントを配って、すぐに言ってましたね。  司：当初の予定では自力で考えて、もっと少し考え方をさせて、ころあいを見てゆっくりと出そうと思っていたんですね。 司：ここでも、使えるのはあればそと強調して言っているのですが、どんなふうに思ってましたか。 参考：先生、180°は一直線になるね、360°は円になるねと言っているんですよ。180°は、一直線になるねと一生懸命言っていましたね。  (途中省略)	・言おうと思っていました。一応予定どおりだったんだけど早かったと思います。 ・実際は、個人でしばらく考え方をさせて、その後思っていました。 ・そうです。たぶん、補助線を引いてもいいよというのも早いと思います。 ・はい、そうです。  ・とにかく、早く、早く、このような考え方（考え方3や考え方4）が出てほしいと思っていました。 ・とにかく、この二つの考え方を出させたい、出させたいという意識が働いていたのだと思います。  (途中省略)	2
・発表してくれる人?  (途中省略)	全：拳手多数。 A：考え方2を発表。 B：考え方1を発表。 T：考え方3を発表。 D：考え方4を発表。 (発表はなかなか上手だぞ、B君の考え方を使って、三角形の数に眉目させよう)	参考2：これをやった子って、廊下側の子、この子がそれを式で表していましたね。あと、女の子の前の方の子たちが、迫りそうだったんだけど、「あーだめだ」と言っていました。 司：N君とねKさんとね、あのへん、やっていましたよ。  司：そうそう、できそうな雰囲気だったんだけど、できなかっただんですよ。 参考2：こういうところ（360°の部分）をひくんだと言ふ感覚がなかなか分からなかったみたいで。先にこれ（考え方4）を見たら、あの女の子たちも、できそうだったかな。 司：Kさんはね、そのへんに気付いていたんだけれど、そっから先がね、いけなかっただんですよ。  (途中省略)	・やっていましたか。あー、分かっていなかった。もっと時間ががあれば、その辺の考え方（考え方5）も取り上げられたかな。私も見ていた、これいいなと思ったんだけれども、そこがもう、やっぱり後の活動が頭にありましたね。 ・360°の引き方の問題ですね。そういう子もいたんですね。私が見たのは1人だけだったんですけど。 ・あー、結構いたんだ。  ・なるほど。あれもできそうですね。  ・気付かなかったですね。	3
<まとめ> ・百角形の内角の和を求めてみよう?  ・暗算が得意な人? A：17640°です (うわー、計算が難しかったな)	全：180×98を計算している。 (大変な計算だ。時間がない、どうしよう。でもここで終わりにはできない) A：17640°です (うわー、計算が難しかったな)	参考1：先生、とても苦労されていたんですね。最後やっぱりやりたかったです。 参考1：先生「暗算が得意な人」と言っていました。 Aさんも、計算して、やっぱりなるとか、ならないとかと言っていたんですね。 参考1：先生、暗算が得意な人だったら百二角形なんて、いかがでしょう。 司：以上で授業検討会を終わります。	・最後、時間がなくて強引でした。でも、やりたかったです。 ・確かに、いきなり大変な計算でした。  ・おお、なるほど。そうすればよかった。機転がきかなかった。	4

### 資料3 学年部における本校で行われてきた授業検討会（抜粋）

11月 4日 実施

実際の授業場面		授業検討会の内容	
主な発問	子どもの反応	参観者の発言	授業者の発言
<導入> (途中省略) ・三角形の三つの角の合計は何度だろう? ・どうやって180°って確かめる? ・四角形は何度になる? ・これも確かめよう。どうなると思う? (途中省略)	( )は授業者の思い 全: 6人が挙手。 T: 180°です。 M: 360°です。 全: 2人挙手。 S: 切って並べる。  全: 5, 6人挙手。 H: 360°です。 M: 円です。 (数学が苦手なMさんが発表してくれた)	司: まず登壇先生から自評をお願いします。その後、先生方から感想等を含めてよろしくお願いします。	<自評> ・今日、一番子どもたちに考えてほしかったのは、五角形であろうが、六角形だろうが、さらに百二角形であろうが、三角形の内角の性質を利用してことにより求めることができるんだよということを子どもたちに分かってもらいたいということがありました。 補助線を引くところでは、多様な考え方が出ればいいなと思っていたんですが、なかなか出なくて苦労しました。ちょっとヒントを与えるとして、真ん中から分けるタイプの分割が出てきたので、少しホッとした。あとYさんが最後、四角形2つに分けるという分割を出してくれたので、分け方にバリエーションがでて、よかったです。その辺が苦労したところなのですが、百二角形の内角の和というところで、子どもたちがいろいろと気付き、最後に180° × 100 の18000°って出してきたので、私としては安心しました。だいたい今日のねらいが、分かってくれたかなということで安心しました。
<展開> ・五角形の内角の和は何度だろう というものが今日の課題です。 (プリント配布) ・いろいろな方法で考えてみてください。 (机間指導) ・ヒントを出す。  ・周りの人と相談して考えよう。 (机間指導)  ・発表してくれる人?  ・考え方4を説明してください。  ・考え方4が、できだ人?  ・考え方3が、できだ人?  (途中省略)	全: 真剣に話を聞いている。 全: 個人で五角形の内角の和を考えている。 (多様な考え方方が出るかな)  全: 考え1, 考え2が答けてきている。 (考え方3, 考え4が出てこない、不安) Y: 考え3ができた。 (一人いた、よかった)  全: 集団で考える。  E: 考え2を発表。 T: 考え1を発表。  S: 考え4が出てきた (説明させよう)  S: 考え4を発表。  全: 挙手8人。 (難しいからしょうがないかな)  Y: 考え3を発表。 全: Yさんの考え方3を聞いて、感動する。 (子どもたち、驚いているぞ)	<p>司: それでは質問等よろしくお願いします。感想でもかまいません。</p> <p>参考1: 生徒だけの反応をみると、Yさんのいろいろな発想が出たし、子どもが一人一人考えていく授業であったかなという気がします。自分で考える、集団で考える、そこらへんができるで、先生の机間巡回を見ていると心配な生徒にも声を掛けている。あれが大事かなと思います。</p> <p>参考2: 私が今日見て、感想というかたちでしかお話しできないのですけども、一番良かったのは、生徒が気付いたということですね。まず先生が、アドバイスとかをなさっていたようですが、生徒に気付かせる、その気付かせるために、こっちはどうするかというものが一番大事だなと思っています。生徒も自分たちが気付くことによって、おもしろさというものが分かってくるのではないかと思います。今日は、そういうのがあった授業だったと思います。参考になりました。</p> <p>参考3: 今日は大変ご苦労様でした。先生に指名された生徒が、黒板の前に出てきて、三角形にしてみたり四角形にしてみたりした後、自分で説明していたではないですか。その説明の仕方が、立派だなと思いました。聞いている方に分かるように説明をし、さらにきちんと式まで自分で書けている。そのへんはどのように指導なされているのでしょうか。</p> <p>参考3: 今日は、指名した子を先生は知っていて、この子だったら説明できるだろうというのを分かっていたんですか。</p> <p>参考1: 先生のいいところはね、思ったんですけど、答えるでしょ。当たりますよね。するとね、先生がほめるんですよ。そうすると子どもが、にこにことするんです。それが今度、子どもにとつては自信につながって、次も答えてみようかなという雰囲気をつくるんですよ。</p> <p>参考4: 最後のYさんが説明したところをちょうど聞いたのですが、他の子どもたちが「おおー」「そっかー」と言っていたので、すごいなと思いました。</p> <p>司: 展開のところで、集団で考えるというところがあったので、グループをつくるのかなと思っていましたが、隣の人たちと話合いということでした。グループ学習にはグループ学習の必然性というところがあつて、自分だけの力ではどうにもならない場面、今日の展開を見ていると、流れ的には必然性はなかったと思います。気付いている子を活用しながら学ぶということでは、学び合いの学習をする機会としてよかったです。</p>	<p>・普段から、発表させる機会を意識的に設定しようとしています。</p> <p>・昨日、教えていたこともあります。今日は、授業で見た子どもの様子で判断しました。</p>
<まとめ> ・百角形の内角の和を求めてみよう? ・分かった人? ・プリントにまとめて授業の感想を出す。	全: 挙手4人。 A: 18000°です 全: 多数挙手。 全: みんな真剣にプリントに記入。	司: 以上で授業検討会を終わります。	1

## 資料4 学年部における「授業の振り返り」を取り入れた授業検討会（抜粋）

11月 4日実施

実際の授業場面		授業検討会の内容（授業の振り返り）		気付き
主な発問	子どもの反応	参観者の発言	授業者の発言	
<導入> (途中省略) ・三角形の三つの角の合計は何度だろう? ・どうやって180°って確かめる? ・四角形は何度になる? ・これも確かめよう。どうなると思う? (途中省略)	( )は授業者の思い 全：6人が挙手。 T：180°です。 M：360°です。 全：2人挙手。 S：切って並べる。  全：5, 6人挙手。 H：360°です。 M：円です。 (数学が苦手なMさんが発表してくれた)	司：授業の振り返りを始めます。 (途中省略) 参1：今日の導入は13分くらいだったのですが、やってみてどうでしたか。  <u>参1：一緒に授業を始めたときは、あそこはなかったんですね。ずっと三角形でとおると、生徒の様子を見て、急きょ変えたんですね。</u>  参1：それは、後の子どもたちの思考の広がりを考えてそうしたんですね。 (途中省略)	(途中省略) ・そうですね、やっぱり四角形もきちんと説明しちゃったんですね。最初の予定は、さらっと流すはずだったのですが。  ・本當は今日は三角形でいこうとして、四角形の押さえはさらっとと思ったんですね。とにかく導入を短くするために。しかし生徒の様子を見て、やっぱり四角形もきちんと押さえないとダメかなと思ったんですよ。急きょ計画変更ということができました。 ・はい、そうですね。 (途中省略)	1
<展開> ・五角形の内角の和は何度だろうというのが今日の課題です。 (プリント配布) ・いろいろな方法で考えてみてください。 (机間指導) ・ヒントを出す。	全：真剣に話を聞いている。 全：個人で五角形の内角の和を考えている。 (多様な考え方が出るかな)  全：考え方1, 考え2が書いてきている。 (考え方3, 考え4が出てこない, 不安) Y：考え方3ができた。 (一人いた, よかった)	司：机間指導をしながらヒントを出していたんですが、そのときはどんな思いで、出していましたか。  司：その後、机間指導しながら、いろいろな生徒に話しかけながらYさんのところで話していましたね。	・補助線の引き方の同じパターンしか出てなくて、なんで出でくれないんだ。1人、2人は違うタイプが出てもいいのになあと思っていました。 ・考え方3, 考え4を探しながら歩いていると、Yさんが書けた（考え方3）と言ってくれたので、「あっ、Yさん。よくぞ見付けてくれた」ということで、もう、すかさず「頼む！」という感じで紙を渡したという状況でした。	
・周りの人と相談して考えよう。 (机間指導)	全：集団で考える。	司：それで、O君のところに行ったら、Oくんが「ええ分かりました」と言っていたんですけど、どんなことが分かったんでしょうか。	・O君もこのへん（考え方4）が分かってきたんですね。数学が苦手な子もこのへんが分かってきたんですね。ただ360°を引くっていうところでひっかかっている子が結構いたので、なんとかしなくてはいけないというのがあって、結局、ここで「食べちゃえばいい」とかって呟ついている子がいたので、その感覚を示しました。 ・はい、そうです。	
・発表してくれる人?	E：考え方2を発表。 T：考え方1を発表。	司：それで、S君が前に出てきて（考え方4）を説明したんですね。	・理解の遅い子どもたちが、どの程度その部分を分かっているのか気になっていました。どの程度できたかの確認はちょっと甘いですね。この後、ワークシートの記入状況とかを見て、確認する必要があると思いました。	2
・考え方4を説明してください。	S：考え方4が出てきた（説明させよう）。	司：中心に点を打って、線を5本引いて、三角形を5個作って900°になって、こここの部分が多いから360°を引いて540°と。このときの子どもたちの様子はどうでしたか。	・S君の説明を聞いて「あっ、そうか、このような方法もあるんだ」と気付いてくれればいいなと感じていました。 ・んー、ちょっと記憶が。どうですかね。	
・考え方4ができた人?	S：考え方4を発表。	司：このやり方でできた人ということで8人挙手しました。8人という数字はどうたらえますか。	・そうですね。確かにMさんが最初に言ったんだ。思い出しました。Mさんに確認すればよかったんだ。意図の中でとんでました。そうかー。	3
・考え方3が、できだ人?	全：挙手8人。 (難しいから、しょうがないかな)	参2：この8人の中に、Mさんはいましたか。 参3：確かに挙げていませんね。		
(途中省略)	Y：考え方3を発表。  全：Yさんの考え方3を聞いて感動。 (子どもたち、驚いているぞ)	参2：確かにMさんが、四角形の内角の和が360°で円になると一番最初に言っていたんですね。だから、Mさんが分かっていれば、考え方が結び付いていたかなと思っていました。	(途中省略)	
<まとめ> ・百角形の内角の和を求めてみよう? ・分かった人? ・プリントにまとめと授業の感想を呟く。	全：挙手4人。 A：18000°です  全：多数挙手。 全：みんな真剣にプリントに記入。	司：最後 $180 \times 100 = 18000^\circ$ というところで、分かった人と聞いたら、かなりの数が挙手しました。その後、プリントに呟かせていたのですが、そのときはどんなことを考えていますか。  参4：確かにT君は、まったく呟けていなかつたですね。	・T君に個別指導しようと思っていたんですが、最後（問題を解けているか）確認できなかったですね。  ・ちょっと、時間をとって、声を掛けなければよかつたなと思います。	4
司：以上で授業検討会を終わります。				

## 第V章まとめ

### 教師の自立と学校の自律をうながす

#### 「授業の振り返り」を取り入れた授業評価

「授業の振り返り」は、授業者の記憶と参観者の記録を基に授業を再構成し、よりよい授業づくりについて話し合う授業研究の方法である。再構成は、授業者の働き掛けや見取り、子どもの反応や活動等、授業中の事実を再現することである。授業を再構成しながら、予定していた指導内容や手だて（脚本としてのストーリー）、瞬時の判断で対応したかかわり方（ハプニングとしてのストーリー）等について振り返る。

事実を丁寧に振り返ることで、授業中に考え・感じていた授業者の内面と見取りや対応等との関係が整理されてくる。授業中の事実が、事実に至るまでの背景を伴って語られるとき、授業者が授業を評価する視点に気付いていく瞬間もある。行為に至る授業者の内面と事実という結果との関連が客観的に振り返られることによって、授業者の願いが生かされた指導計画の修正・改善が図られていく。

#### ■教師の自立をうながす「授業の振り返り」

##### 1 授業の再構成から気付くこと

授業は、子どもと授業者とのかかわり合いの連続である。問題の提示、活動の指示、学習状況の見取り、個別の指導、質問への対応、意見の集約、学習態度に関する指導等、様々なかかわりで展開している。

日々の授業は、授業前の冷静な状況で考えた子どもへの思いや願い、指導案に明記した授業のねらいとその手だてなど、計画どおりに展開することは少ない。予想をはるかに超えた子どもの状況があつて、指導の組み立てを修正し、指導方法を工夫するなど、瞬時の判断をもとに対応していることの方が多い。しかし、日々の授業は、一過性で終わることが多いのも事実である。学習カード

の見取りや授業研究等の場面を除けば、授業を振り返ることは少ないからである

複数の参観者による「授業の振り返り」を取り入れた授業評価によって、授業者は、次のこと気に付くことができた。

- ①授業者の行為、その理由や根拠をすべて授業者自身の記憶や意識にとどめることはできない。
- ②行為の妥当性を確信しているわけではない。
- ③すべての子どもを見取ってはいない。
- ④授業者の思考過程を客観的に整理できる。
- ⑤願いと子どもの反応とのずれに気付く。

#### 2 変わっていく自分を感じる振り返り

子どもの学びの姿とは、絶えず展開している子どもの思考や活動そのものである。授業評価は、連続して展開している思考や活動の一つ一つを見取る授業者の鑑識について見極める作業である。参観者の子どもの見取りは複数人であることから、必然的に、複眼的な視点で「授業の振り返り」を行うことになる。

用意周到に準備した指導案には、十分な指導方法が書き込まれ、個別に指導する予定の子どもへの手だても明記されている。しかし、実際の授業では、授業者の鑑識眼は、参観者の授業を見取る視点には到底及ばない。

参観者の丁寧な事実（情報）の提供は、授業者が考えた指導の根拠や意味付けを明らかにし、授業者自身が、指導と結果の関係や妥当性を振り返ることになる。換言すれば、授業者は、参観者の鑑識眼を通して自分自身の鑑識眼を豊にし「授業の振り返り」をしているのである。

以下は、「授業の振り返り」を取り入れた授業評

価を通して、授業者自らが感じた意識変化である。

- ①断片的な見取りに終わっていたことに気付く。
- ②参観者による多面的な見取りの場面や方法を知る。
- ③連続して子どもを見取ることの意味を再発見する。
- ④日常の無意識な見取りを意識化する。
- ⑤子どもの学びの姿で授業評価する。
- ⑥次時の修正に向けた意欲が高まる。

評価者の自覚をもつようになる。

一人で振り返ったことによる気付きは、以下の通りである。

- ①把握した実態に対応する具体的な手立ての準備
- ②指導すべき内容か任せるべき内容かというとの見極め
- ③個別指導の具体的な準備
- ④学習課題の要件を整理する取組
- ⑤生徒の視野を広げる活動の設定

### 3 授業評価の視点の確立

参観者の一般論で語られる授業検討会は、授業評価の視点が拡散する。また、参観者の経験によって語られる授業評価は、授業批評の傾向が見られる。授業者と参観者が、授業検討会・授業評価から学び合い、相互に高め合うためには、子どもの学びの姿を基に語り合える授業評価が求められるのである。

以下は、「授業の振り返り」から再確認できた授業評価の視点である。

- ①授業者の願いの整理
- ②教科のねらいの明確化
- ③教材研究の深さ
- ④子どもの実態把握（レディネスや個性）
- ⑤学習環境・条件
- ⑥教授方略
- ⑦形成的評価（学習カードや作業の見取り）

### 4 よりよい授業づくりの探究者

「授業の振り返り」は、授業者一人でも行うことができる。複数人による「授業の振り返り」で気付き、得られた授業評価の視点は、授業中や授業後の振り返り場面に生かされる。子どもの状況の把握、瞬時の判断や対応等についての対処の仕方が強く意識化されるからである。

授業者は、よりよい授業づくりを目指して、気付きを繰り返しながら指導計画の作成者、実践者、

### ■学校の自律をうながす「授業の振り返り」

#### 1 学び・高め合う教師集団の形成

「先生方の意識が変わってきた。授業づくりや授業評価で、学校がよい方向に動いている。」これは、本調査研究にご協力いただいている中学校の校長先生の感想である。本調査研究は、当校で6回の授業及び授業評価を実施した。

以下は、委嘱研究員等の「授業の振り返り」を取り入れた授業評価についての感想である。教師が自ら、指導力を高め、学校が自律への歩みを始めようとしている変化が見られる。

- ①事実を基に語るので、校種や教科等の専門性による影響はまったくない。教師として同じ立場で意見を出し合えた。
- ②教師の目が子どもに注がれれば、生徒理解につながり、教員間の連携が図りやすくなる。
- ③教科や経験を超え、学校という組織全体で、子どもたちと関わることができる。

#### 2 学校の実態に応じた指導計画への改善

自らが作成した指導計画を、自ら振り返ることは、子どもに寄せる願いと教科等のねらいとの関連性を検討・吟味できる。授業者は、より子どもたちの実態にふさわしい指導計画に修正・改善できる絶好の機会として「授業の振り返り」を取り入れた授業評価に取り組んでいる。

**おわりに****じぶんごとの教育のために!**

**委員長 菊地修治(仙台市立松陵西小学校長)**

**1 経過**

本委員会は、「自己改革を目指す仙台市の教師サポートプロジェクトⅣ」の位置付けで立ち上がり、「『授業評価』の蓄積による『カリキュラム評価』の考え方と進め方～第1年次；子どもの学びと育ちの事実を見取る『授業評価』の進め方～」という研究主題で出発した。6月には兵庫教育大学の佐藤真先生をお招きし「授業評価とカリキュラムづくりの考え方」の講義をいただき、諸文献に当たりながら研究の方向性を固めていった。その後の委員会で主題の修正を行った。「指導計画改善のために『授業の振り返り』を取り入れた授業評価の考え方と進め方～第1年次；小・中学校における学級活動と総合的な学習の時間の実践を通して～とし、「授業の振り返り」に焦点を当てた研究を進めた。長期研修員や委嘱研究員による授業研究は、20回を超えている。さらに、慶應義塾大学の鹿毛雅治先生による「授業の振り返り」の実地指導などもいただき研究を深めた。それらの研究を基にしてできあがったのが本紀要である。

**2 自己改革**

文科省は平成15年の構造改革で、「『画一と受身』から『自立と創造』へ」を提唱した。そもそも本次教育改革自体が教育観の大転換であることから、平成10年頃から今日までに教師一人一人が自分の実践を問い合わせ、「自己改革」が済んでいるか、挑戦中の段階になければいけないのである。

しかし、現状は「総合的な学習の時間」の取組に象徴されるように決して進んではいない。さらに、「知的学力回帰」により、問い合わせ不要の雰囲気すら出ている。

今回の「授業の振り返り」は、ズバリ「自己改革」の本丸に切り込む驚異の研究である。

**3 授業の振り返り**

聞き慣れない「授業リフレクション（授業の振り返り）」については、以下、教育セミナー関西2004での鹿毛先生のお話を抜粋し、紹介するので、意をくみ取っていただければ幸いである。

- ・評価には二つの側面がある。フォーマルな評価は通知票など「つける作業」を含むもの。インフォーマルな評価は、授業をしているときや頭の中でやっている評価。
- ・教師はインフォーマルな評価を授業中にやっている。子どもたちの様子を見取ってそれを次の実践に生かしていく。教師は、現在進行形でリフレクションする存在。
- ・リフレクションの一つは「リフレクション・イン・アクション」というもので、行為の中、教える中に埋め込まれたリフレクションを指す。子どもたちの様子をとっさに見取って、それに反応する、教師が「出る」ということ。

もう一つは、「リフレクション・オン・アクション」というもので、実際に自分の実践を行った後に立ち止まって振り返ってみる、やってみたことを確かめたり見直したりするということ。

このように二つの意味でリフレクションをする専門家が教師だということ。

- ・インフォーマルな評価を充実させるというのは、実際に授業中にやっているリフレクションはどういうリフレクションなのか、ということを確かめてみる作業が教育実践における評価ということを考えたときに非常に重要であること。
- ・評価は「思考」。教師側の「ねがい」や「ねらい」というものを中核にしながら、子どもたちの様子を「捉えて」、それから「意味付けて」、その情報を次に「生かしていく」という思考サイクルをしていくことが評価だと思う。そのことを実は授業中にいくらでも先生たちはやっている。ある子どもの姿をパッと捉えて、それに即興的に

対応している。ところが、授業中にやっているこの評価サイクルは立ち止まって振り返らない限り、思い出さない。多忙な中、丹念に振り返る余裕がない。だからこそ、「リフレクション・オン・アクション」が大事。立ち止まって振り返ると言うことをあえて行い、ああ、あの時、自分はなぜああいうふうな言葉掛けをしたのかということをじっくり考えてみる。

・それを一人でやるのではなく、他の先生方と一緒に授業研究することを通して、評価的な実践の実像が明らかになり、子どもたちの見方であるとか、あるいは教材で何が本当のねらいだったのか、あるいは、この子にとってみるとこの授業はどうだったのかと、いろいろな視点で授業を検討することが可能になってくると思う。

・「力」として評価するのではなく、「姿」として評価すべきだ。

・実際に校内研究等をやっても最終的には一般論になってしまったり、ある先生が自分の授業論を長々と話し限られた時間が必ずしも有効に使われなかつたりして、なんか不完全感を持ってしまうことがあるかもしれないし、さらに、授業研究をやっただけではらしくて、「授業研究、だれやるの」なんていって、しかたないから誰かがいけにえになってやって、最終的にやっただけでごく偉いわけ。その後の研究会でも、もう授業をやっただけですごいという感じでみんなが褒めて、その後、飲み会に流れるという、そんな雰囲気の所も多いかもしれない。それはそれで一種の親睦を深めるという意味では日本の良いとは思うが、ただ、一方で教師の目を磨くという意味で、授業で起こったことを基盤として授業研究を果たしているかという問題は残る。授業で起こったことに注目させる一つの仕掛けとしてリフレクションシートというものを開発した。

#### 4 校内研究

従前の校内研究は、教師の指導技術に片寄りがちで、佐藤先生や鹿毛先生が述べられている「授業中の子どもの姿を通したカリキュ

ラムの評価・改善」には直結しないもの多かった。

本誌を一読されてお分かりのように、佐藤真先生の「授業評価とカリキュラムづくり」、鹿毛先生が述べられている「授業リフレクション」の意義の大切さを、本委員会の委員として実践した授業者のだれもが成果として感じているのである。

この新手法を私は自校でも試行している。昨日5年生の音楽の授業研究があった。私も含め音楽は不得手という参観者も、子どもの反応や動きを基に、本時のねらいの達成について、音楽の専門性を問わずにどの教師も発言できたのである。今回は、本時のねらいが、教師自身の意図とされていたことに授業者自身が気付きカリキュラムの修正ができるという成果を得た。

「日常型」の授業研究に移行できれば「点→線→面」へと広がり、授業力の向上とともにカリキュラム評価も日常化していくと思われる。さらに「自立した教師の協働力」が発揮できる校内研究になるためにも、研究主任への依存型から脱却できる「授業の振り返り」の手法は、お勧めである。これを機に、「カリキュラム」と「校内研究」を問い合わせ直していただければ幸いである。

#### V じぶんごとの教育へ

自己改革による教師の自立は、最終的には自前のカリキュラム経営力に行き着くと考える。その意味で「授業の振り返り」も含め、日常実践をいかに「じぶんごと」として追究しようとするかが問われている。

この1年、本研究に真しに取り組んでいただいたい委嘱研究員の先生方及び教育センターの担当の先生や研修員の皆様、そして、遠方よりお越しいただきご指導くださった佐藤真先生、鹿毛雅治先生に敬意と謝意を表する次第である。

●参考文献

カリキュラム開発の課題～カリキュラム開発に関する国際セミナー報告書～ 文部省大臣官房調査統計課  
1975

佐藤真 「子どもの学びの促進」に結び付く教育評価の在り方 初等教育資料 2003

佐藤真 「『総合的な学習』の授業評価法」 2003 東洋出版社

鹿毛雅治 教育セミナー関西 2004

藤沢市教育文化センター 授業の中で生きていることを確かめる 2003

奈須正裕 学校の研修ガイドブック③「学力向上・学習評価」研修 教育開発研究所 2004

安彦忠彦 カリキュラム開発で進める学校改革 2003 明治図書

稻垣忠彦、佐藤学 授業研究入門 1996 岩波書店

●委嘱研究員

兵庫教育大学 佐藤 真  
仙台市立松陵西小学校校長 菊地 修治  
仙台市立東六番丁小学校教諭 熊谷 裕行  
仙台市立芦口小学校教諭 鈴木美佐緒  
仙台市立東仙台中学校教諭 前田 政夫  
仙台市立高砂中学校教諭 又木 潤

●長期研修員

仙台市立松陵西小学校教諭 目黒 悟  
仙台市立東仙台中学校教諭 登嶋 紀行

●仙台市教育センター

主任指導主事 渡部 力  
指導主事 篠原 洋治  
指導主事 斎藤 嘉則  
指導主事 若狭 友子  
指導主事 猪股 亮文  
(現 仙台市立松森小学校教頭)



# 教育研究紀要 I

教育は いま

第12号

発行日 平成17年3月11日  
編集・発行 仙台市教育センター  
所長 鈴木 清和  
所在地 〒983-0825  
仙台市宮城野区鶴ヶ谷北一丁目19番1号  
TEL 022-251-7441~3  
FAX 022-251-7486  
Web ページ <http://www.sendai-c.ed.jp>  
代表 e-mail info@sendai-c.ed.jp

 R100 古紙配合率100% 白度70%  
再生紙を使用しています